

令和 6 年度

原子力発電所周辺  
環境放射能測定結果

東京電力ホールディングス株式会社

福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所

福島第二原子力発電所

## 令和6年度

## 福島第一原子力発電所および福島第二原子力発電所での 環境モニタリングに係るイベントについて

福 島 第 一 原 子 力 発 電 所			
令和6年4月19日	～	5月7日	ALPS処理水海洋放出（2024年度 1 回目）
5月17日	～	6月4日	ALPS処理水海洋放出（2024年度 2 回目）
6月28日	～	7月16日	ALPS処理水海洋放出（2024年度 3 回目）
8月7日	～	8月25日	ALPS処理水海洋放出（2024年度 4 回目）
9月26日	～	10月14日	ALPS処理水海洋放出（2024年度 5 回目）
10月17日	～	11月4日	ALPS処理水海洋放出（2024年度 6 回目）
10月28日	～	11月7日	2号機燃料デブリ試験的取り出し作業
令和7年3月12日	～	3月30日	ALPS処理水海洋放出（2024年度 7 回目）

福島第二原子力発電所

## 目 次

第1 測定結果の概要	1
第2 東京電力ホールディングス（株）福島第一原子力発電所測定分	3
2-1 測定項目	3
2-1-1 空間放射線	
（1）空間線量率	3
（2）空間積算線量	3
2-1-2 環境試料	
（1）環境試料中の全アルファ放射能，全ベータ放射能及び核種濃度	3
2-2 測定方法	5
2-3 測定結果	6
2-3-1 空間放射線	
（1）空間線量率	6
（2）空間積算線量	10
2-3-2 環境試料	
（1）大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能	12
（2）環境試料中の核種濃度（ガンマ線放出核種及びトリチウム）	14
（3）環境試料中の放射性ストロンチウム濃度	15
（4）環境試料中のプルトニウム放射能濃度	15
（5）環境試料中のアメリシウム放射能濃度	16
（6）環境試料中のキュリウム放射能濃度	16
2-4 原子力発電所周辺環境放射能測定値一覧表	17
2-4-1 空間放射線	
（1）空間線量率	17
（2）空間積算線量	18
2-4-2 環境試料	
（1）大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能	19
（2）大気浮遊じんの核種濃度	20
（3）環境試料中の核種濃度	21
第3 東京電力ホールディングス（株）福島第二原子力発電所測定分	22
3-1 測定項目	
3-1-1 空間放射線	
（1）空間線量率	22
（2）空間積算線量	22
3-1-2 環境試料	
（1）環境試料中の全アルファ放射能，全ベータ放射能及び核種濃度	22
3-2 測定方法	24
3-3 測定結果	25
3-3-1 空間放射線	
（1）空間線量率	25
（2）空間積算線量	28
3-3-2 環境試料	
（1）大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能	30
（2）環境試料中の核種濃度（ガンマ線放出核種及びトリチウム）	32
（3）環境試料中の放射性ストロンチウム濃度	33
（4）環境試料中のプルトニウム放射能濃度	33
（5）環境試料中のアメリシウム放射能濃度	34
（6）環境試料中のキュリウム放射能濃度	34

3-4	原子力発電所周辺環境放射能測定値一覧表	
3-4-1	空間放射線	
	(1) 空間線量率	35
	(2) 空間積算線量	36
3-4-2	環境試料	
	(1) 大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能	37
	(2) 大気浮遊じんの核種濃度	38
	(3) 環境試料中の核種濃度	39
第4	参考資料	40
4-1	放射性気体廃棄物及び液体廃棄物の放出状況	41
4-2	試料採取時の付帯データ集	46
	(1) 東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所測定分	46
	ア 環境試料	46
	イ 気象測定結果	47
	(2) 東京電力ホールディングス(株)福島第二原子力発電所測定分	48
	ア 環境試料	48
	イ 気象測定結果	49
4-3	環境試料測定日	50
4-3-1	東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所測定分	50
4-3-2	東京電力ホールディングス(株)福島第二原子力発電所測定分	51
4-4	環境試料の核種濃度の検出限界について	52
4-4-1	東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所測定分	52
4-4-2	東京電力ホールディングス(株)福島第二原子力発電所測定分	53
4-5	空間線量率等の変動グラフ	54
<参考>	地下水バイパス及びサブドレン他浄化設備の処理済水の評価	75
<参考>	モニタリングポスト周辺環境改善対策について	96

この報告書は、令和7年10月6日に開催された「環境モニタリング評価部会」において、令和6年度年報の測定結果について報告し、検討されたものをとりまとめたものです。



## 第 1 測定結果の概要

令和 6 年度に東京電力ホールディングス株式会社福島第一原子力発電所及び福島第二原子力発電所が実施した原子力発電所周辺の環境放射能測定結果は以下に示すとおりであり、福島第一原子力発電所の事故の影響を受けた空間線量率については事故前の測定値の範囲を上回り、環境試料については一部を除いて事故前の測定値の範囲を上回っているが、年月の経過とともに減少傾向となっている。

### 1. 空間放射線（6～11 ページ，25～29 ページ）

#### （1）空間線量率

福島第一原子力発電所 8 地点及び福島第二原子力発電所 7 地点でモニタリングポストにより発電所敷地境界付近の空間線量率を常時測定した。

各測定地点の年間平均値の範囲は  $0.075 \mu\text{Gy/h}$ （75nGy/h：福島第二原子力発電所南側のMP 7）から， $0.945 \mu\text{Gy/h}$ （945nGy/h：福島第一原子力発電所北西側のMP 4）であり，最大値の範囲は  $0.095 \mu\text{Gy/h}$ （95nGy/h：福島第二原子力発電所南側のMP 7）から， $1.003 \mu\text{Gy/h}$ （1003nGy/h：福島第一原子力発電所北西側のMP 4）であり，共に全ての地点で事故前の測定値の範囲を大きく上回った。

なお，各地点の測定値は月間平均値の変化に見られるように，年月の経過とともに減少傾向にある。  
[令和 5 年度の年度平均値の範囲は  $0.077 \mu\text{Gy/h}$ ～ $0.980 \mu\text{Gy/h}$ （77nGy/h～980nGy/h）]

#### （2）空間積算線量

福島第一原子力発電所 21 地点及び福島第二原子力発電所 18 地点で蛍光ガラス線量計により発電所敷地境界付近及び発電所周辺の近隣町の空間積算線量を測定した。

年間相当値は  $0.67\text{mGy}$ （浪江町棚塩安養院）から， $25\text{mGy}$ （福島第一原子力発電所南側のMP－8）であり，事故前から実施していた全ての地点で事故前の測定値の範囲を大きく上回った。

なお，四半期毎の各地点の測定値は，年月の経過とともに減少傾向にある。

[令和 5 年度の年間相当値の範囲は  $0.68\text{mGy}$ ～ $27\text{mGy}$ ]

### 2. 環境試料（12～16 ページ，30～34 ページ）

#### （1）大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能

福島第一原子力発電所が 2 地点（MP 3 及びMP 8）及び福島第二原子力発電所が 2 地点（MP 1 及びMP 7）でダストモニタにより発電所敷地境界付近の全アルファ放射能及び全ベータ放射能を連続測定した。

全アルファ放射能の年間平均値は  $0.009\text{Bq/m}^3$ （福島第二原子力発電所のMP 1，MP 7）から， $0.013\text{Bq/m}^3$ （福島第一原子力発電所のMP 3），最大値は  $0.061\text{Bq/m}^3$ （福島第二原子力発電所のMP 1）から， $0.11\text{Bq/m}^3$ （福島第一原子力発電所のMP 3）であり，事故前の測定値の範囲を若干上回ったが，周辺土壌の一時的な舞い上がりの影響と思われる。

全ベータ放射能の年間平均値は  $0.034\text{Bq/m}^3$  (福島第一原子力発電所のMP 3, 8) から,  $0.045\text{Bq/m}^3$  (福島第二原子力発電所のMP 1), 最大値は  $0.15\text{Bq/m}^3$  (福島第一原子力発電所のMP 8) から,  $0.23\text{Bq/m}^3$  (福島第一原子力発電所のMP 3) であり, 事故前の測定値の範囲を若干上回ったが, 周辺土壤の一時的な舞い上がりの影響と思われる。

## (2) 環境試料中の核種濃度 (ガンマ線放出核種及びトリチウム)

大気浮遊じん, 土壤, 海水, 海底土, 指標植物 (松葉), 指標海洋生物 (ほんだわら) について, 福島第一原子力発電所で 55 試料, 福島第二原子力発電所で 55 試料の核種分析 (ガンマ線放出核種とトリチウム) の測定を実施した。

セシウム-137 については, 福島第二原子力発電所の大気浮遊じんの一部を除く全ての試料から事故前の測定値の範囲を上回る値が検出されたが, 年月の経過とともに減少または横ばい傾向にある。

セシウム-134 については, 福島第一原子力発電所の松葉・ほんだわらと海水の一部を除く試料及び福島第二原子力発電所の土壤と海底土の一部の試料から事故前の測定値の範囲を上回る値が検出されたが, 年月の経過とともに減少する傾向にある。

また, 福島第一原子力発電所の海水の一部から過去の測定値の範囲と同程度のトリチウムが検出され, 福島第二原子力発電所の海水の一部から過去の測定値の範囲を上回るトリチウムが検出された。

## (3) 環境試料中の核種濃度 (ストロンチウム-90, プルトニウム-238, 239+240, アメリシウム-241, キュリウム-244)

福島第一原子力発電所及び福島第二原子力発電所の土壤各 4 試料について, ストロンチウム・プルトニウム・アメリシウム・キュリウムの測定を実施した。

また, 福島第一原子力発電所及び福島第二原子力発電所の海水各 3 試料, 海底土各 2 試料について, ストロンチウムの測定を実施した。

ストロンチウムについては, 福島第二原子力発電所の土壤・海水の一部及び海底土を除く全ての試料から, 事故前の測定値を上回るストロンチウム-90 が検出されたが, 事故直後と比較すると概ね横ばいから減少傾向にある。

プルトニウム・アメリシウム・キュリウムについては, プルトニウム-239+240 及びアメリシウム-241 が土壤 8 試料全てから検出され, プルトニウム-238 が福島第一原子力発電所の 1 試料, 福島第二原子力発電所の 1 試料から検出された。

なお, 検出された核種については, 事故直後と比較し測定値の変動はあるが, 年月の経過とともに減少または横ばい傾向にある。これらの核種は, 事故後から測定を開始している。

以上

## 第2 東京電力ホールディングス（株）福島第一原子力発電所測定分

### 2-1 測定項目

測定項目は、以下に示すとおりであり、測定及び採取地点については、図2-1に示す。

#### 2-1-1 空間放射線

##### 2-1-1-1 (1) 空間線量率

測定地点		測定頻度	実施機関
発電所敷地境界付近	8地点	連続	東京電力ホールディングス(株) 福島第一原子力発電所

##### 2-1-1-1 (2) 空間積算線量

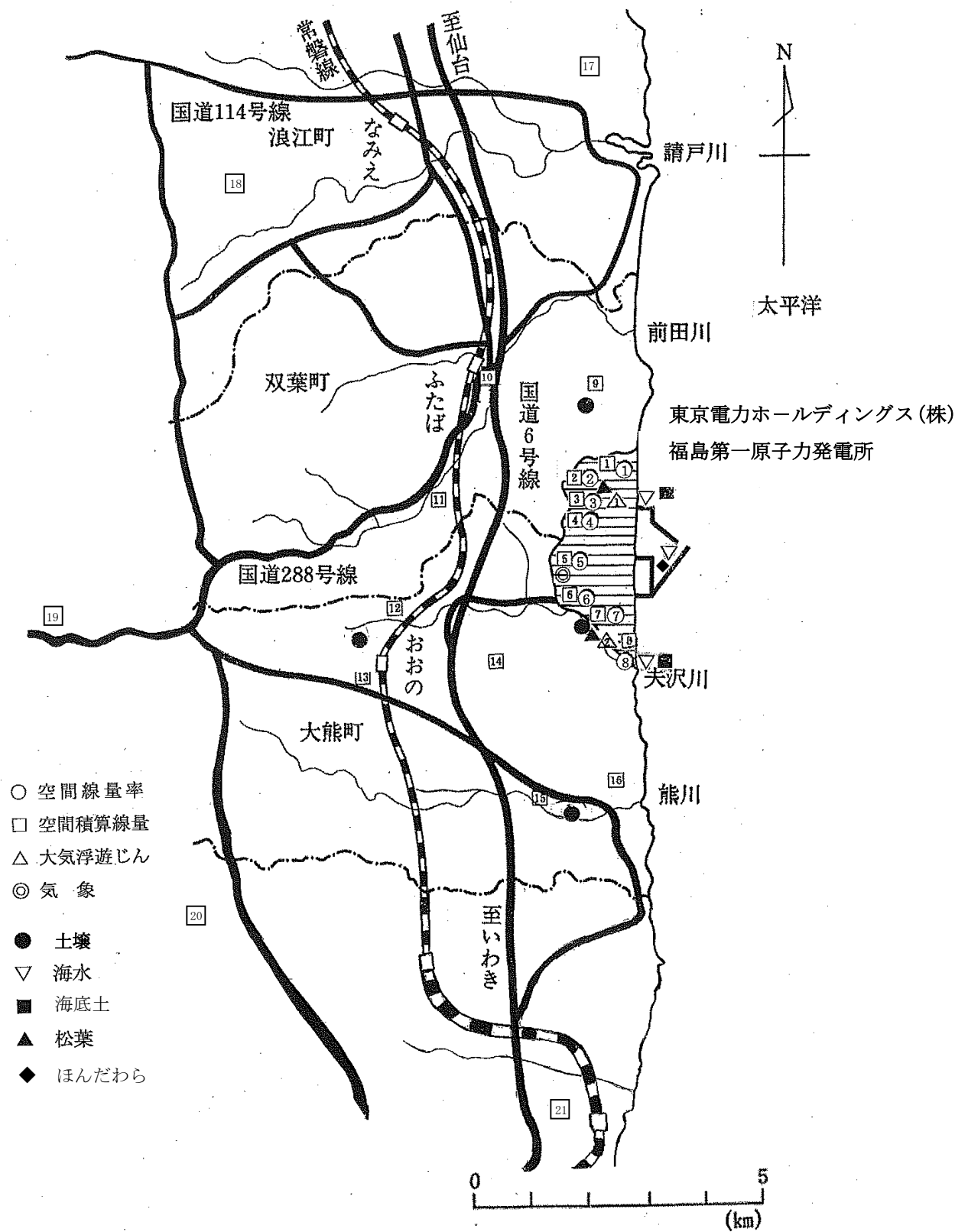
測定地点		測定頻度	実施機関
発電所敷地境界付近	8地点	3か月積算	東京電力ホールディングス(株) 福島第一原子力発電所
発電所敷地外	13地点		

#### 2-1-2 環境試料

##### 2-1-2-1 (1) 環境試料中の全アルファ放射能、全ベータ放射能及び核種濃度

区分名	試料名(部位)	採取地点名	採取頻度	採取量	測定項目	実施機関
大気浮遊じん	大気浮遊じん (地表上約3m)	発電所敷地境界付近	連続	約90m <sup>3</sup> /6h	全アルファ放射能 全ベータ放射能	東京電力ホールディングス(株) 福島第一原子力発電所
			12回/年	1ヵ月分の集じんろ紙	ガンマ線放出核種濃度	
土壌	土壌 (表土, 0~5cm)	発電所敷地内 大熊町下野 大熊町熊川 双葉町郡	2回/年	1kg	ガンマ線放出核種濃度	
			1回/年	0.5kg	ストロンチウム-90 プルトニウム-238, 239+240 アメリシウム-241 キュリウム-244	
海水	海水 (表面水)	発電所取水口 発電所南放水口 発電所北放水口	4回/年	40L	ガンマ線放出核種濃度	
				1L	トリチウム濃度	
			1回/年	40L	ストロンチウム-90	
海底土	海底土 (海砂又は海底土)	発電所南放水口 発電所北放水口	4回/年	1kg	ガンマ線放出核種濃度	
			1回/年	1kg	ストロンチウム-90	
指標植物	松葉 (葉)	M P - 3 付近 環境管理棟付近	1回/年	40g	ガンマ線放出核種濃度	
指標海洋生物	ほんだわら (葉茎)	発電所港湾内	1回/年	2kg	ガンマ線放出核種濃度	

図 2-1 福島第一原子力発電所 環境モニタリング地点図



## 2-2 測定方法

測定項目		測定装置	測定方法
空間放射線	空間線量率	モニタリングポスト	検出器：アルゴンガス封入式球形電離箱 (富士電機, 高純度アルゴンガス8気圧140) 測定位置：地表上約1.6m 校正線源：Cs-137
	空間積算線量	蛍光ガラス線量計	測定法：文部科学省編「蛍光ガラス線量計を用いた環境γ線量測定法」 (平成14年制定) 検出器：蛍光ガラス線量計, 旭テクノグラス SC-1 測定器：旭テクノグラス FGD-202 測定位置：地表上約1m 校正線源：Cs-137
環境試料	大気中の浮遊粒子状物質の放射能	ダストモニタ	測定法：6時間連続集じん, 6時間放置後全アルファ及び全ベータ放射能を同時測定 集じん法：ろ紙ステップ式, 使用ろ紙：HE-40T 吸引量：約90m <sup>3</sup> /6時間 検出器：ZnS(Ag)シンチレータとプラスチックシンチレータのはり合わせ検出器 (Aloka ADC-121R2) 採取位置：地表上約3m 校正線源：U <sub>3</sub> O <sub>8</sub> 、Am-241
	核種濃度	Ge半導体検出装置	測定法：原子力規制庁編「ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリー」(令和2年改訂) 大気浮遊じんは1カ月の集じんろ紙をU8容器に入れ測定。 土壌・海底土は乾燥後に測定。 松葉(指標植物)は生試料により測定。 海水は, リンモリブデン酸アンモニウム法及び二酸化マンガンの共沈法で処理後測定。 ほんだわら(指標海洋生物)は乾燥試料により測定。 測定器：Ge半導体検出器 (ORTEC GEM35-76-LB-A-S型) 波高分析器 (SEIKO EG&G MCA-7シリーズ(4096ch))
	トリチウム濃度	ローバックグラウンド液体シンチレーション検出装置	測定法：原子力規制庁編「トリチウム分析法」(令和5年改訂) 海水のトリチウムは蒸留後測定。 測定器：ローバックグラウンド液体シンチレーション検出装置 (Aloka LSC-LB7型)
	ストロンチウム-90濃度	ローバックグラウンドガスフロー計数装置	測定法：文部科学省編「放射性ストロンチウム分析法」のうちイオン交換法(平成15年改訂) 測定器：ローバックグラウンドガスフロー計数装置 (Aloka LBC-4202B型) 校正線源：Sr-90
	プルトニウム-238、プルトニウム-239+240濃度	シリコン半導体検出器	測定法：文部科学省編「プルトニウム分析法」のうちイオン交換法(平成2年改訂) 測定器：ORTEC Alpha Duo 第三者機関((株)化研)にて分析
	アメリカシウム-241、キュリウム-244濃度	シリコン半導体検出器	測定法：文部科学省編「アメリカシウム分析法」のうちイオン交換法(平成2年改訂) 測定器：ORTEC Alpha Duo 第三者機関((株)化研)にて分析

## 2-3 測定結果

### 2-3-1 空間放射線

#### 2-3-1-（1）空間線量率

今年度の測定結果を表2. 1に示す。

各測定地点の年間平均値は309～945nGy/h、最小値は279～856nGy/h、最大値は3324～1,003nGy/hであった。

年間平均値及び最大値は、事故前の年間平均値及び最大値を大きく上回っていた。

なお、各地点における測定値は、年月の経過とともに減少傾向にあった。

各測定地点における空間線量率の月間平均値及び変動幅の推移を図2. 2に示す。

表2. 1 空間線量率の測定結果（年間平均値及び最小値、最大値）

（単位：nGy/h）

No.	測定地点名	今年度測定値			過去の測定値の範囲 <sup>*3</sup>			
					令和3年度～	平成26年度～	事故直後	事故前
		平均値 <sup>*1</sup>	最小値 <sup>*2</sup>	最大値 <sup>*2</sup>	平均値 (最大値)	平均値 (最大値)	平均値 (最大値)	平均値 (最大値)
1	MP-1	492	422	523	526 ～ 595 (665)	725 ～ 2,114 (2,470)	2,708 ～ 9,297 (13,638)	37 ～ 41 (152)
2	MP-2	753	632	796	790 ～ 885 (970)	961 ～ 3,820 (4,494)	4,825 ～ 33,117 (43,104)	40 ～ 43 (188)
3	MP-3	480	419	504	488 ～ 563 (611)	615 ～ 4,200 (5,084)	5,525 ～ 32,250 (52,907)	37 ～ 40 (171)
4	MP-4	945	856	1,003	980 ～ 1,082 (1,195)	1,185 ～ 3,763 (4,519)	4,955 ～ 31,041 (53,553)	37 ～ 41 (167)
5	MP-5	675	555	731	703 ～ 763 (849)	843 ～ 3,979 (4,816)	5,207 ～ 55,192 (114,011)	32 ～ 35 (143)
6	MP-6	309	279	324	318 ～ 359 (384)	386 ～ 1,380 (2,004)	2,395 ～ 91,423 (171,333)	36 ～ 38 (120)
7	MP-7 <sup>*4</sup>	541	498	564	565 ～ 624 (666)	675 ～ 2,047 (2,503)	3,145 ～ 204,134 (327,467)	39 ～ 43 (151)
8	MP-8 <sup>*4</sup>	506	475	525	529 ～ 587 (620)	635 ～ 2,290 (2,788)	3,162 ～ 177,819 (252,661)	39 ～ 44 (168)

（注） \*1 平均値は、年間の1時間値の測定値の和を測定値の数で除して求めた。

\*2 最小値と最大値は、1時間値の最小と最大の値を示す。

\*3 「過去の測定値の範囲」について

「令和3年度～」は令和3年度から前年度まで。

「平成26年度～」は平成26年度から令和2年度まで。

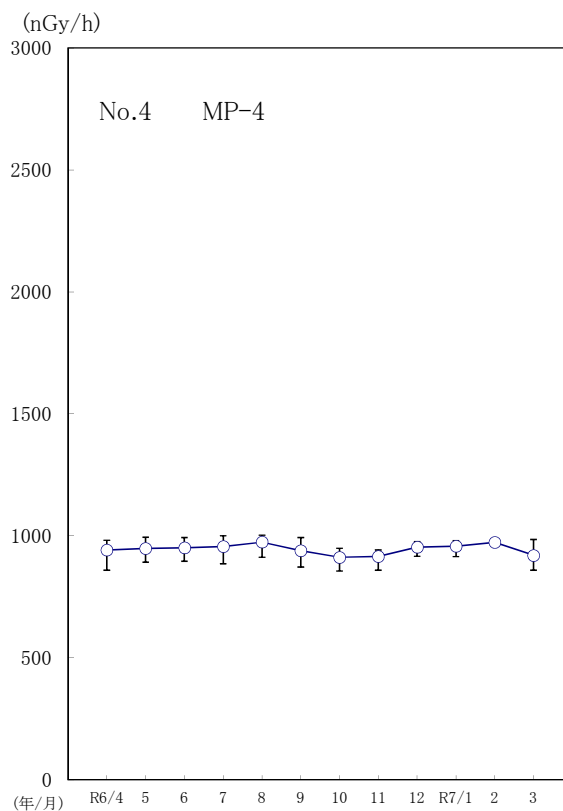
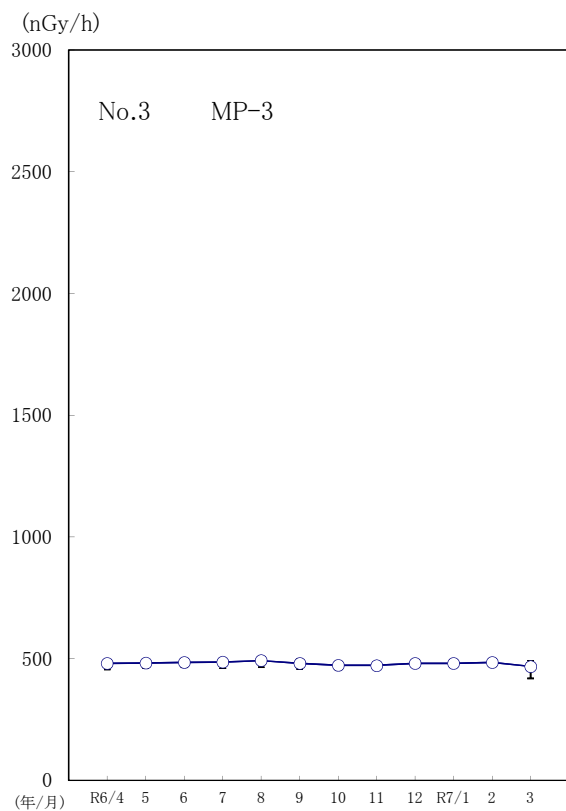
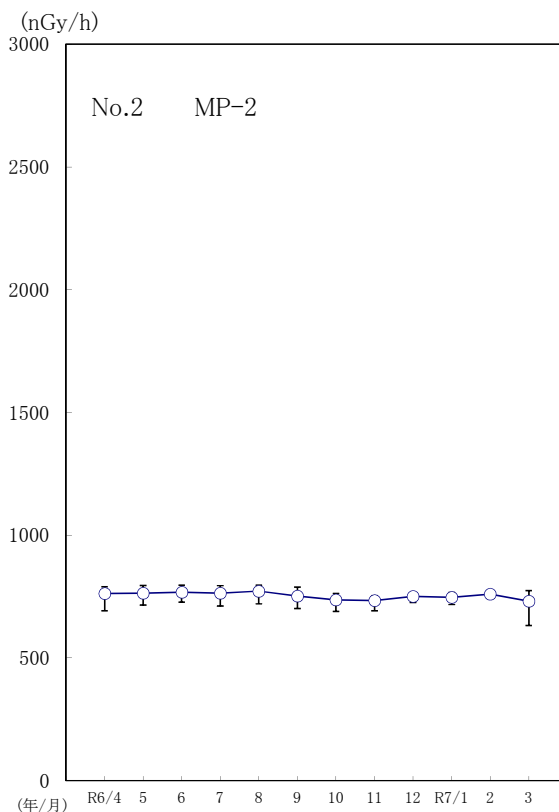
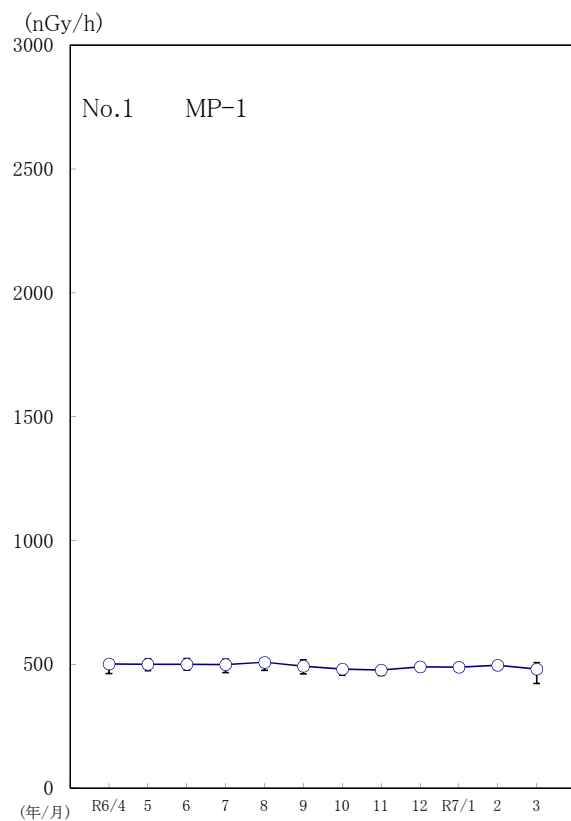
「事故直後」は事故後（平成23年3月11日以降）から平成25年度まで。

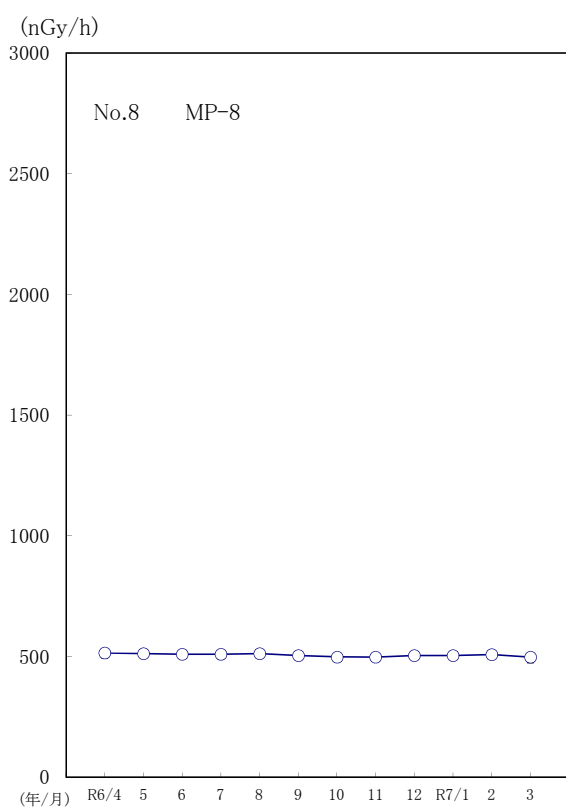
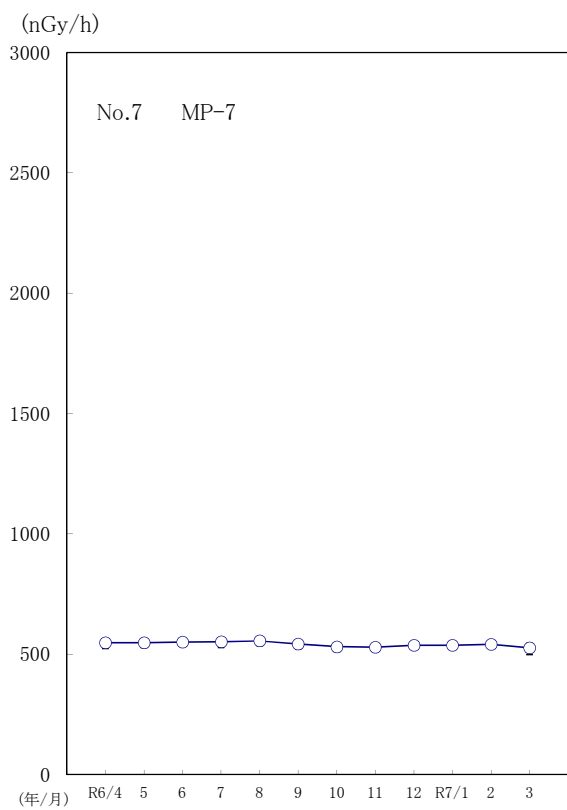
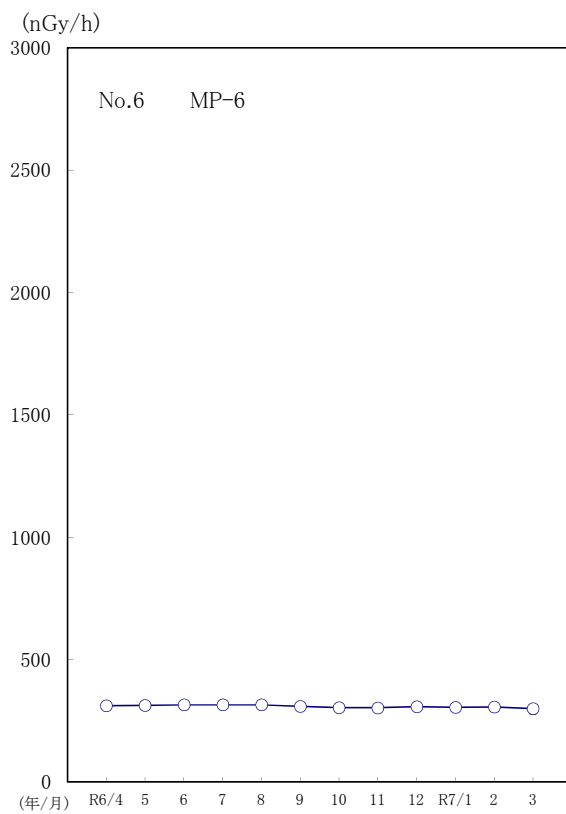
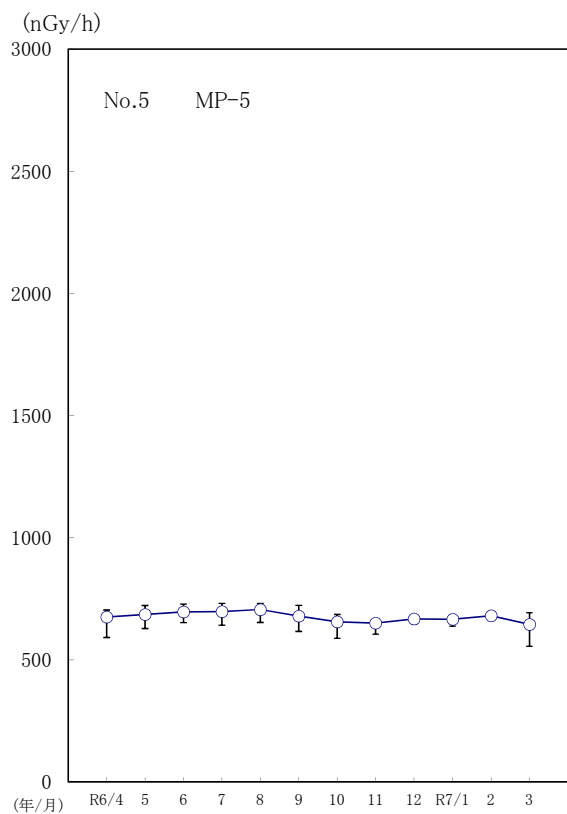
「事故前」は温度補償型検出器への更新後の年度以降の期間であり

昭和61年度から東日本大震災発生の平成22年度第4四半期（平成23年3月10日時点）まで。

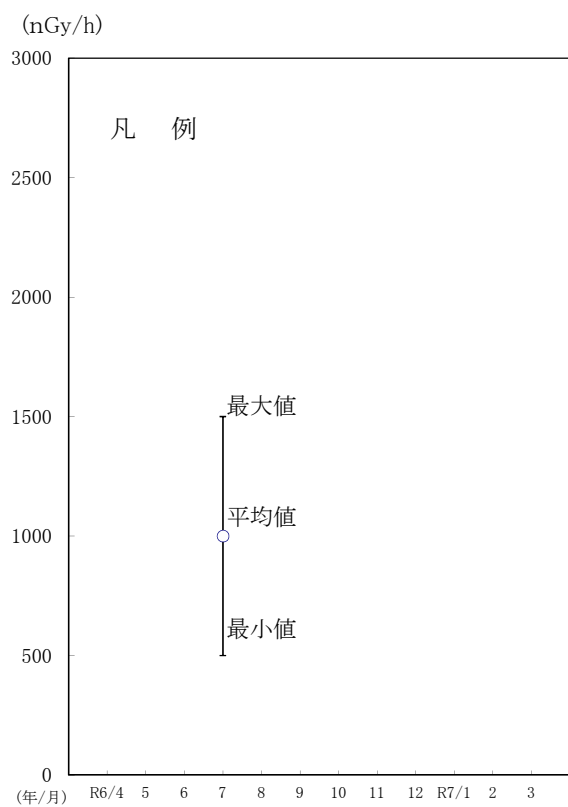
\*4 福島第一原子力発電所 MP-7, 8については、高線量の環境下にあることから、新たな放出によって上空を通過する放射性物質を検知しやすくするため、検出器廻りに遮へいを設置し、地表面等からの放射線の影響を抑えている。

図2. 2 空間線量率の月間平均値及び変動幅の推移









2-3-1-(2) 空間積算線量

今年度の測定結果（年間相当値<sup>\*1</sup>）を表2. 2に示す。  
今年度の測定値は、0.67mGy（浪江町棚塩安養院）から25mGy（MP-8）であり、事故前の測定値を大きく上回っていた。  
なお、四半期毎の各地点の測定値は、年月の経過とともに減少傾向にあった。  
今年度の四半期ごとの測定結果（90日換算値）の推移を図2. 3に示す。

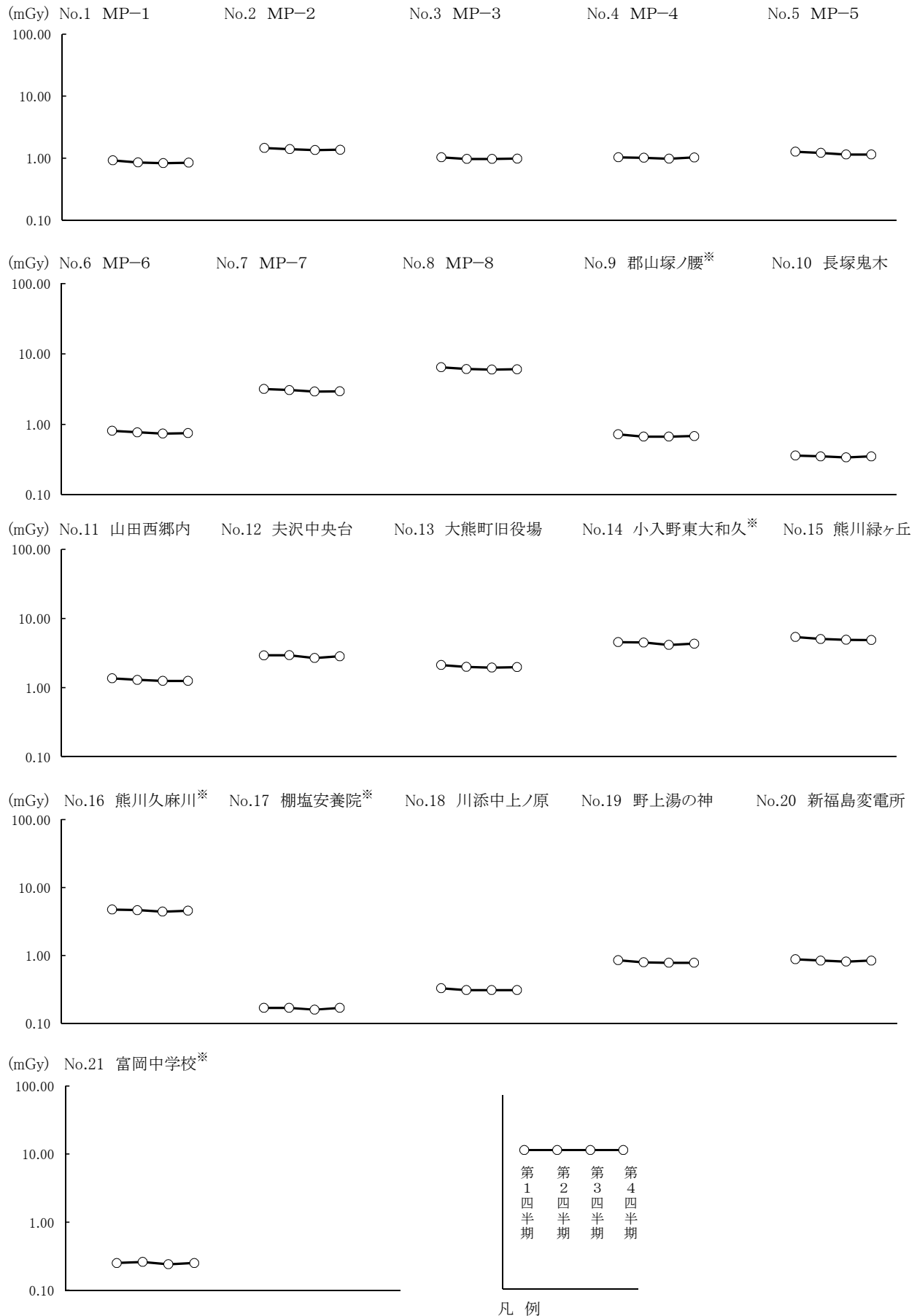
表2. 2 空間積算線量の測定結果（年間相当値）

（単位：mGy）

*6 No.	測定地点名	今年度測定値	過去の測定値の範囲			
			令和3年度～*2	平成26年度～*3	事故直後*4	事故前*5
1	M P - 1	3.5	3.8 ～ 4.3	4.7 ～ 11	14 ～ 32	0.47 ～ 0.48
2	M P - 2	5.6	6.0 ～ 6.7	7.2 ～ 22	30 ～ 130	0.48 ～ 0.49
3	M P - 3	4.0	3.9 ～ 4.2	5.1 ～ 27	37 ～ 100	0.47 ～ 0.48
4	M P - 4	4.1	4.3 ～ 4.6	4.9 ～ 15	20 ～ 67	0.48 ～ 0.49
5	M P - 5	4.8	5.1 ～ 6.0	6.6 ～ 23	36 ～ 140	0.42 ～ 0.44
6	M P - 6	3.1	3.3 ～ 3.6	4.0 ～ 13	29 ～ 260	0.47 ～ 0.48
7	M P - 7	12	13 ～ 15	16 ～ 89	130 ～ 680	0.51 ～ 0.52
8	M P - 8	25	27 ～ 30	32 ～ 120	180 ～ 660	0.47 ～ 0.48
9	双葉町郡山塚ノ腰	2.8	2.9 ～ 3.2	3.3 ～ 11	-	-
10	双葉町長塚鬼木	1.4	1.6 ～ 2.5	2.7 ～ 8.6	11 ～ 24	0.47 ～ 0.48
11	双葉町山田西郷内	5.2	5.4 ～ 5.6	6.0 ～ 16	25 ～ 54	0.47 ～ 0.48
12	大熊町太田沢中中央台	12	12	13 ～ 120	150 ～ 420	0.52 ～ 0.56
13	大熊町旧役場	8.1	8.6 ～ 10	12 ～ 28	35 ～ 100	0.45 ～ 0.47
14	大熊町小入野東大和久	18	18 ～ 19	21 ～ 82	86 ～ 240	0.50 ～ 0.52
15	大熊町熊川緑ヶ丘	21	22 ～ 25	28 ～ 77	86 ～ 220	0.47 ～ 0.48
16	大熊町熊川久麻川	19	18 ～ 21	20 ～ 57	60 ～ 160	0.51 ～ 0.52
17	浪江町棚塩安養院	0.67	0.68 ～ 0.69	0.92 ～ 1.6	1.9	-
18	浪江町川添中上ノ原	1.3	1.4 ～ 1.6	1.6 ～ 6.6	8.1	-
19	大熊町野上湯の神	3.3	3.3 ～ 3.5	3.3 ～ 6.5	8.0	-
20	富岡町新福島変電所	3.4	3.2 ～ 3.5	3.6 ～ 8.1	9.5	-
21	富岡町富岡中学校	1.0	1.0 ～ 1.3	1.3 ～ 4.6	8.3 ～ 39	0.49 ～ 0.59

（注）\*1 年間相当値は、各四半期の測定値の和を365日相当に換算し、有効数字2桁で表示。  
\*2 「令和3年度～」は令和3年度から前年度まで。  
\*3 「平成26年度～」は平成26年度から令和2年度まで。  
\*4 事故直後の測定値は、平成22年度第4四半期から平成25年度まで。  
\*5 事故前の測定値は、平成15年度より測定装置を蛍光ガラス線量計に変更したため、平成15年度から東日本大震災発生の平成22年度 第3四半期まで。  
\*6 No9：郡山堂ノ上から郡山塚ノ腰へ平成28年第3四半期より地点変更  
No14：東大和久およびNo16：久麻川地点は令和元年度第1四半期より測定地点変更  
（No9, 14, 16は国の中間貯蔵施設造成対象区域となったことによる変更）  
No17：北棚塩総合集会所から棚塩安養院へ令和3年度第1四半期より地点変更（建屋解体工事が実施されることによる変更）  
No21：東京電力西原寮から富岡中学校へ令和4年第4四半期より地点変更（建屋解体工事が実施されることによる変更）  
No17～No21地点は、平成25年度第2 四半期から測定を開始した。

図 2. 3 空間積算線量（90日換算値\*1）の推移



(注) \*1 90日換算値は、四半期ごとの測定値を換算した。

※No9地点は郡山堂ノ上から郡山塚ノ腰へ平成28年第3四半期より地点変更（国の中間貯蔵施設造成対象区域となったことによる変更）

※No14地点の東大和久及びNo16地点の久麻川については令和元年度第1四半期より地点変更（国の中間貯蔵施設造成対象区域となったことによる変更）

※No17地点は北棚塩総合集会所から棚塩安養院へ令和3年度第1四半期より地点変更（建屋解体工事が実施されることによる変更）

※No21地点は東京電力西原寮から富岡中学校へ令和4年第4四半期より地点変更（建屋解体工事が実施されることによる変更）

2-3-2 環境試料  
2-3-2-1 大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能

今年度の測定結果を表 2. 3 に示す。

各測定地点の全アルファ放射能の平均値は、0.011～0.013Bq/m<sup>3</sup>、最大値は0.083～0.11Bq/m<sup>3</sup>であり、全ベータ放射能の平均値は0.034Bq/m<sup>3</sup>、最大値は 0.15～0.23Bq/m<sup>3</sup>であった。

全アルファ放射能については事故前の測定値と同程度で、全ベータ放射能については、平均値・最大値とも事故前の測定値を上回ったが、周辺土壌の一時的な舞い上がりの影響と思われる。

表 2. 3 大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能測定結果

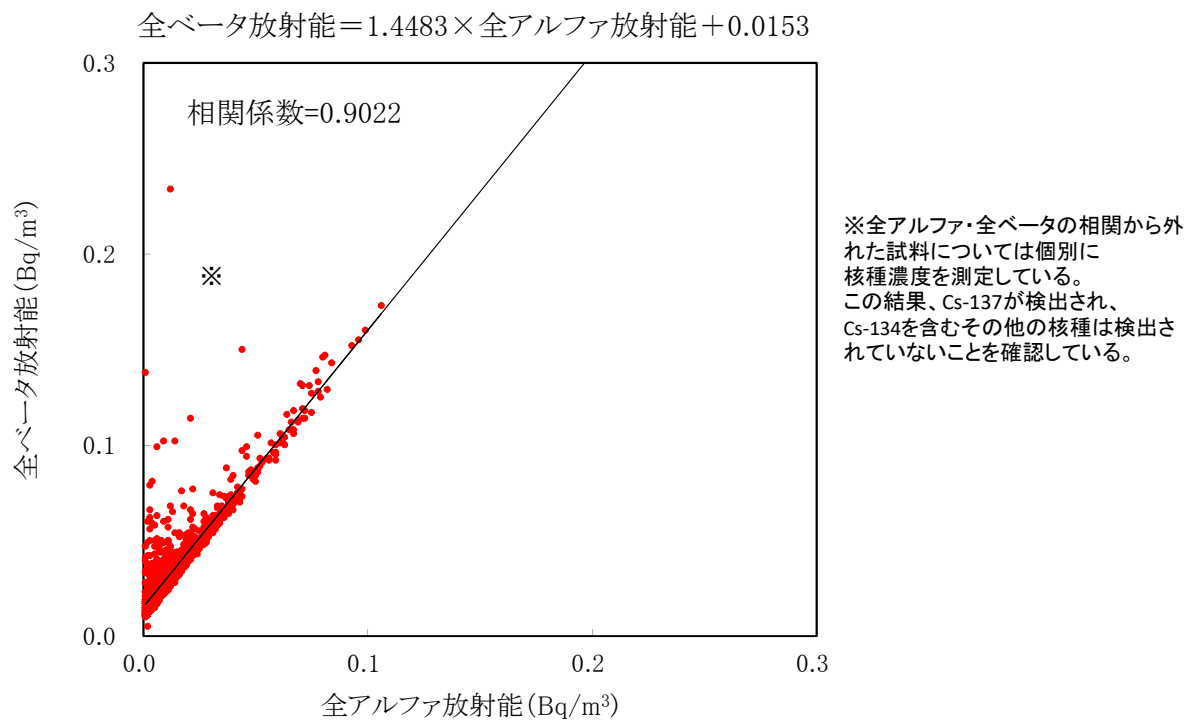
(単位：Bq/m <sup>3</sup> )								
No.	測定地点名	測定項目	今年度測定値		過去の測定値の範囲			
					令和3年度～*3	平成26年度～*4	事故直後*5	事故前*6
			平均値*1	最大値*2	平均値 (最大値)	平均値 (最大値)	平均値 (最大値)	平均値 (最大値)
1	M P - 3※	全アルファ放射能	0.013	0.11	0.011～0.014 (0.12)	0.015～0.018 (0.17)	— ( — )	0.016～0.022 (0.15 )
		全ベータ放射能	0.034	0.23	0.032～0.033 (0.20)	0.044～0.052 (0.65)	— ( — )	0.031～0.039 (0.20 )
2	M P - 8※	全アルファ放射能	0.011	0.083	0.009～0.012 (0.12)	0.011～0.014 (0.11)	— ( — )	0.014～0.020 (0.17 )
		全ベータ放射能	0.034	0.15	0.032～0.036 (0.20)	0.036～0.040 (0.21)	— ( — )	0.028～0.037 (0.24 )

(注) \*1 平均値は、6時間ごとの測定値の和を測定値の数で除して算出。  
\*2 最大値は、6時間ごとの測定値の最大値。  
\*3 「令和3年度～」は令和3年度から前年度まで。  
\*4 MP-3は平成28年10月、MP-8は平成29年10月から令和2年度まで。  
\*5 測定値なし。(MP-3は平成28年10月、MP-8は平成29年10月より運用開始したため。)  
\*6 事故前の測定値は機器更新後の平成13年9月から東日本大震災発生の前日の平成22年度第4四半期(平成23年3月10日)まで。

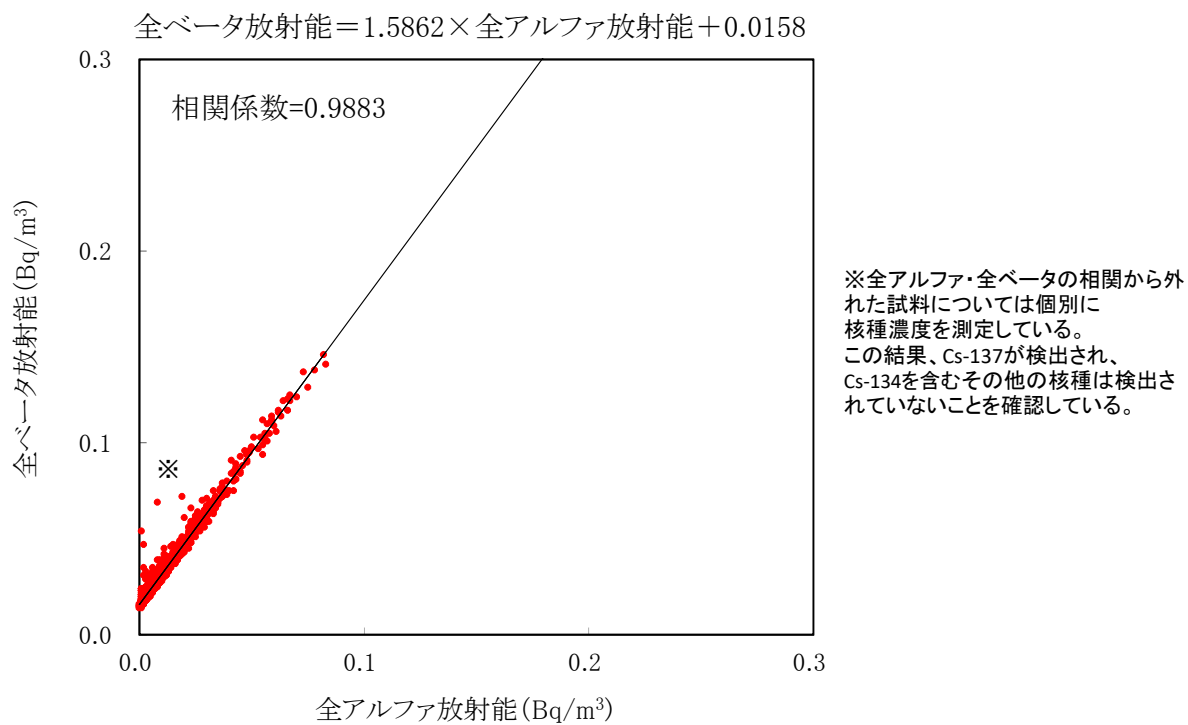
※ 福島第一原子力発電所のダストモニタ(2地点)については、機器本体及びダスト吸入配管等の取り替えが完了し、MP3地点は平成28年10月から全アルファ放射能及び全ベータ放射能の連続測定を開始し、MP8地点については平成29年10月から全アルファ放射能及び全ベータ放射能の連続測定を開始した。

図2. 4 全アルファ放射能と全ベータ放射能の相関

## No.1 MP-3



## No.2 MP-8



## 2-3-2-(2) 環境試料中の核種濃度（ガンマ線放出核種及びトリチウム）

今年度の測定結果を表2.4、2.5に示す。

大気浮遊じん、土壌、海水、海底土、松葉、ほんだわらから、事故前の過去の測定値の範囲を上回るセシウム-137の人工放射性核種が検出され、セシウム-134は、松葉、ほんだわら、海水の一部、海底土の一部を除く全ての試料から検出されたが、年月の経過とともに減少傾向にある。

また、海水のトリチウムにおいては、事故前の過去の測定値の範囲と同程度のトリチウムが検出された。

なお、ほんだわらについては、令和2年度以降の測定値と同程度であった。

表2.4 環境試料中のガンマ線放出核種濃度測定結果

試料名	今年度 試料数	単位	核種	今年度測定値	過去の測定値の範囲			
					令和3年度～	平成26年度～	事故直後	事故前
大気浮遊じん	24	mBq/m <sup>3</sup>	セシウム-134	ND ～ 0.15	0.012 ～ 0.46	0.052 ～ 18	1.7 ～ 88	ND
			セシウム-137	0.29 ～ 13	0.48 ～ 13	0.65 ～ 76	2.6 ～ 200	ND
土 壌	8	Bq/kg乾	セシウム-134	28 ～ 1,700	43 ～ 12,000	130 ～ 110,000	1,400 ～ 330,000	ND
			セシウム-137	2,000 ～ 120,000	2,200 ～ 320,000	2,800 ～ 460,000	2,600 ～ 680,000	2.4 ～ 28
海 水	12	Bq/L	セシウム-134	ND ～ 0.003	ND ～ 0.008	ND ～ 6.0	ND ～ 76	ND
			セシウム-137	0.024 ～ 0.14	0.026 ～ 0.23	0.036 ～ 18	ND ～ 110	ND ～ 0.003
海 底 土	8	Bq/kg乾	セシウム-134	ND ～ 4.8	1.5 ～ 14	6.2 ～ 350	110 ～ 1,200	ND
			セシウム-137	100 ～ 270	76 ～ 370	130 ～ 1,100	210 ～ 1,800	ND ～ 1.2
松 葉	2	Bq/kg生	セシウム-134	ND	ND ～ 9.8	8.1 ～ 2,100	890 ～ 220,000	ND
			セシウム-137	43 ～ 53	72 ～ 420	90 ～ 5,900	1,600 ～ 310,000	ND ～ 0.14
ほんだわら	1	Bq/kg生	セシウム-134	ND	ND ～ 0.75	0.12 ～ 0.74	※	ND
			セシウム-137	1.7	4.7 ～ 15	2.4 ～ 11	※	ND

※は測定値なし（令和元年度より測定再開）

- (注) 1. 「今年度試料数」は各採取地点毎の年間採取回数の合計である。  
2. NDは、検出限界未満。  
3. 「過去の測定値の範囲」について  
「令和3年度～」は令和3年度から前年度まで。  
「平成26年度～」は平成26年度から令和2年度まで。  
「事故直後」は事故後（平成23年3月11日以降）から平成25年度まで。  
「事故前」は平成13年度から平成22年度第4四半期（平成23年3月10日）まで。  
4. 土壌及び海底土の測定時試料状態。  
・平成22年度第4四半期（平成23年3月11日）から平成25年度まで：湿（Bq/kg湿）  
・事故前及び平成26年度～：乾（Bq/kg乾）  
5. 松葉の測定時試料状態。  
・事故前：乾（Bq/kg乾）  
・事故直後及び平成26年度～：生（Bq/kg生）

表2.5 環境試料中のトリチウム濃度測定結果

試料名	今年度 試料数	単位	今年度測定値	過去の測定値の範囲			
				令和3年度～	平成26年度～	事故直後	事故前
海 水	12	Bq/L	ND～0.66	ND ～ 0.74	ND ～ 340	ND ～ 180	ND ～ 0.67

- (注) 1. 「今年度試料数」は各採取地点毎の年間採取回数の合計である。  
2. NDは、検出限界未満。  
3. 「過去の測定値の範囲」について  
「令和3年度～」は令和3年度から前年度まで。  
「平成26年度～」は平成26年度から令和2年度まで。  
「事故直後」は事故後（平成23年3月11日以降）から平成25年度まで。  
「事故前」は平成13年度から平成22年度第4四半期（平成23年3月10日）まで。

### 2-3-2-(3) 環境試料中の放射性ストロンチウム濃度

今年度の測定結果を表2. 6に示す。  
 土壌、海水、海底土から、事故前の測定値の範囲を上回るストロンチウム-90の人工放射性核種が検出されたが、事故直後と比較すると概ね横ばい傾向、または減少傾向にある。  
 なお、ストロンチウム-90については、事故後から平成24年度まで欠測。

表2. 6 環境試料中の放射性ストロンチウム濃度測定結果

試料名	今年度 試料数	単位	核種	今年度測定値	過去の測定値の範囲			
					令和3年度～	平成26年度～	事故直後	事故前
土 壌	4	Bq/kg乾	ストロンチウム-90	6.2 ～ 23	2.5 ～ 55	2.3 ～ 210	4.1 ～ 160	0.77 ～ 2.1
海 水	3	Bq/L	ストロンチウム-90	ND ～ 0.0006	ND ～ 0.003	ND ～ 21	0.005 ～ 21	0.001 ～ 0.003
海 底 土	2	Bq/kg乾	ストロンチウム-90	0.50 ～ 0.53	ND ～ 3.9	0.27 ～ 9.6	19 ～ 22	ND ～ 0.17

- (注) 1. 「今年度試料数」は各採取地点毎の年間採取回数の合計である。  
 2. NDは、検出限界未満。  
 3. 「過去の測定値の範囲」について  
 「令和3年度～」は令和3年度から前年度まで。  
 「平成26年度～」は平成26年度から令和2年度まで。  
 「事故直後」は事故後(平成23年3月11日以降)から平成25年度まで。  
 「事故前」は平成13年度から平成22年度第4四半期(平成23年3月10日)まで。

### 2-3-2-(4) 環境試料中のプルトニウム放射能濃度

今年度の測定結果を表2. 7に示す。  
 土壌から、プルトニウム-238及びプルトニウム-239+240が検出されたが、事故直後と比較すると概ね横ばい傾向、または減少傾向にある。  
 なお、プルトニウムについては、事故後に測定を開始した。

表2. 7 環境試料中のプルトニウム放射能濃度測定結果

試料名	今年度 試料数	単位	核種	今年度測定値	過去の測定値の範囲			
					令和3年度～	平成26年度～	事故直後	事故前
土 壌	4	Bq/kg乾	プルトニウム-238	ND ～ 0.02	ND ～ 0.02	ND ～ 0.07	ND ～ 0.11	ND ～ 0.03
			プルトニウム-239+240	0.06 ～ 0.40	0.05 ～ 0.35	0.08 ～ 0.56	0.19 ～ 0.39	ND ～ 0.44

- (注) 1. 「過去の測定値の範囲」について  
 「令和3年度～」は令和3年度から前年度まで。  
 「平成26年度～」は平成26年度から令和2年度まで。  
 「事故直後」は事故後(平成23年3月11日以降)から平成25年度まで。  
 「事故前」は平成13年度から平成22年度第4四半期(平成23年3月10日)までに福島県が測定した値を抜粋。

### 2-3-2-(5) 環境試料中のアメリカシウム放射能濃度

今年度の測定結果を表2. 8に示す。

土壌から、アメリカシウム-241が検出されたが、事故直後と比較すると概ね横ばい傾向、または減少傾向にある。

なお、アメリカシウムについては、事故後に測定を開始した。

**表2. 8 環境試料中のアメリカシウム放射能濃度測定結果**

試料名	今年度 試料数	単位	核種	今年度測定値	過去の測定値の範囲			
					令和3年度～	平成26年度～	事故直後	事故前
土 壌	4	Bq/kg乾	アメリカシウム-241	0.01 ～ 0.18	0.03 ～ 0.16	0.04 ～ 0.22	0.45 ～ 1.2	—

(注) 1. 「過去の測定値の範囲」について

「令和3年度～」は令和3年度から前年度まで。

「平成26年度～」は平成26年度から令和2年度まで。

「事故直後」は事故後の平成23年3月11日以降から平成25年度まで。

「事故前」は平成13年度から平成22年度第4四半期（平成23年3月10日）まで。

### 2-3-2-(6) 環境試料中のキュリウム放射能濃度

今年度の測定結果を表2. 9に示す。

土壌のキュリウム-244は検出されなかった。

なお、キュリウムについては、事故後に測定を開始したが今年度は検出されず、減少傾向にある。

**表2. 9 環境試料中のキュリウム放射能濃度測定結果**

試料名	今年度 試料数	単位	核種	今年度測定値	過去の測定値の範囲			
					令和3年度～	平成26年度～	事故直後	事故前
土 壌	4	Bq/kg乾	キュリウム-244	ND	ND	ND ～ 0.03	ND ～ 0.05	—

(注) 1. 「過去の測定値の範囲」について

「令和3年度～」は令和3年度から前年度まで。

「平成26年度～」は平成26年度から令和2年度まで。

「事故直後」は事故後(平成23年3月11日以降)から平成25年度まで。

「事故前」は平成13年度から平成22年度第4四半期（平成23年3月10日）まで。



2-4 原子力発電所周辺環境放射能測定値一覧表

2-4-1 空間放射線

2-4-1-1 (1) 空間線量率

単位:  
線量率:nGy/h  
測定時間:h

上段:平均値  
中段:(最大値)  
下段:(最小値)

測定年月 測定 地点名	R6.4		5		6		7		8		9		10		11		12		R7.1		2		3	
	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間
1 M P - 1	501 (517) (462)	720	500 (522) (473)	744	500 (523) (476)	717	498 (521) (466)	744	508 (523) (475)	741	492 (518) (461)	720	480 (497) (456)	744	476 (491) (454)	720	489 (500) (474)	744	488 (505) (472)	744	496 (503) (488)	672	480 (507) (422)	744
2 M P - 2	762 (790) (692)	720	763 (795) (715)	744	767 (796) (727)	717	764 (794) (711)	744	772 (796) (720)	742	752 (788) (701)	720	736 (762) (689)	744	734 (753) (692)	720	751 (763) (726)	744	747 (767) (717)	744	760 (771) (743)	672	731 (774) (632)	744
3 M P - 3	481 (493) (455)	720	482 (498) (461)	740	484 (499) (464)	720	486 (502) (460)	743	492 (504) (465)	744	481 (499) (457)	720	473 (487) (455)	744	472 (481) (458)	720	480 (489) (471)	744	480 (493) (465)	744	484 (495) (476)	672	468 (492) (419)	744
4 M P - 4	942 (982) (859)	720	948 (994) (892)	740	951 (993) (896)	720	956 (1,000) (885)	741	974 (1,003) (912)	744	939 (993) (872)	720	912 (949) (856)	744	915 (942) (859)	720	954 (976) (916)	744	957 (980) (915)	744	973 (983) (960)	672	920 (985) (859)	744
5 M P - 5	675 (704) (591)	720	686 (722) (628)	741	696 (728) (652)	720	697 (731) (642)	741	706 (731) (653)	744	679 (723) (616)	720	655 (686) (588)	744	650 (668) (605)	720	667 (682) (647)	744	666 (685) (638)	744	680 (691) (666)	672	645 (693) (555)	744
6 M P - 6	312 (320) (299)	720	313 (322) (301)	741	315 (324) (305)	720	315 (324) (303)	744	315 (322) (298)	743	309 (319) (298)	720	304 (314) (297)	744	303 (311) (297)	720	307 (312) (302)	744	305 (314) (299)	744	306 (317) (302)	672	300 (311) (279)	744
7 M P - 7	548 (558) (523)	720	548 (564) (527)	740	550 (562) (533)	720	551 (564) (528)	744	555 (564) (535)	742	542 (558) (522)	720	531 (547) (512)	744	529 (537) (511)	720	537 (544) (527)	744	537 (544) (527)	744	541 (546) (536)	672	526 (545) (498)	744
8 M P - 8	514 (524) (495)	720	512 (525) (497)	744	509 (519) (496)	716	509 (521) (491)	744	512 (520) (496)	741	504 (516) (489)	720	498 (507) (485)	744	497 (504) (484)	720	504 (513) (496)	744	504 (510) (496)	744	508 (513) (503)	672	497 (514) (475)	744

注)・空間線量率の測定は高線量率モニタリングポストによる。

・欠測時には代替測定器にて測定し、指示値に異常がないことを確認している。

※点検に伴う欠測期間は下記の通り。

MP-1：令和6年6月6日，8月26日 MP-2：令和6年6月10日，8月29日 MP-3：令和6年5月8日，7月3日 MP-4：令和6年5月16日，7月5日  
MP-5：令和6年5月17日，7月10日 MP-6：令和6年5月22日，8月8日 MP-7：令和6年5月24日，8月19日 MP-8：令和6年6月5日，8月21日  
・震災後MP-6，7，8については，高線量率の環境下にあることから，新たな放出によって上空を通過する放射性物質を検知しやすくなるため，  
検出器廻りに遮へいを設置し，地表面等からの放射線の影響を抑えていた。  
尚，MP-6については事務棟工事などにより周辺環境の線量率が低下したことから，平成25年7月に検出器廻りの遮へいを撤去している。

2-4-1-(2) 空間積算線量

(単位：mG.y)

No.	測定期間		R6.4.4		R6.7.4		R6.10.10		R7.1.9	
	測定地点名		～		～		～		～	
	測定	項目	積算線量	測定 日数	積算線量	測定 日数	積算線量	測定 日数	積算線量	測定 日数
1	M P - 1		0.93 ( 0.92 )	91	0.93 ( 0.85 )	98	0.84 ( 0.83 )	91	0.78 ( 0.84 )	84
2	M P - 2		1.48 ( 1.46 )	91	1.51 ( 1.39 )	98	1.37 ( 1.35 )	91	1.27 ( 1.36 )	84
3	M P - 3		1.04 ( 1.03 )	91	1.06 ( 0.97 )	98	0.98 ( 0.97 )	91	0.91 ( 0.98 )	84
4	M P - 4		1.04 ( 1.03 )	91	1.10 ( 1.01 )	98	0.99 ( 0.98 )	91	0.95 ( 1.02 )	84
5	M P - 5		1.28 ( 1.27 )	91	1.32 ( 1.21 )	98	1.15 ( 1.14 )	91	1.06 ( 1.14 )	84
6	M P - 6		0.82 ( 0.81 )	91	0.84 ( 0.77 )	98	0.75 ( 0.74 )	91	0.70 ( 0.75 )	84
7	M P - 7		3.23 ( 3.19 )	91	3.34 ( 3.07 )	98	2.96 ( 2.93 )	91	2.75 ( 2.94 )	84
8	M P - 8		6.55 ( 6.48 )	91	6.63 ( 6.09 )	98	6.05 ( 5.98 )	91	5.66 ( 6.06 )	84
9※	双葉町郡山塚ノ腰		0.73 ( 0.72 )	91	0.73 ( 0.67 )	98	0.68 ( 0.67 )	91	0.63 ( 0.68 )	84
10	双葉町長塚鬼木		0.36 ( 0.36 )	91	0.38 ( 0.35 )	98	0.34 ( 0.34 )	91	0.33 ( 0.35 )	84
11	双葉町山田西郷内		1.38 ( 1.36 )	91	1.41 ( 1.29 )	98	1.26 ( 1.25 )	91	1.17 ( 1.25 )	84
12	大熊町夫沢中央台		2.95 ( 2.92 )	91	3.21 ( 2.95 )	98	2.70 ( 2.67 )	91	2.64 ( 2.83 )	84
13	大熊町旧役場		2.14 ( 2.12 )	91	2.17 ( 1.99 )	98	1.97 ( 1.95 )	91	1.84 ( 1.97 )	84
14※	大熊町小入野東大和久		4.59 ( 4.54 )	91	4.88 ( 4.48 )	98	4.20 ( 4.15 )	91	4.03 ( 4.32 )	84
15	大熊町熊川緑ヶ丘		5.46 ( 5.40 )	91	5.49 ( 5.04 )	98	4.97 ( 4.91 )	91	4.55 ( 4.87 )	84
16※	大熊町熊川久麻川		4.78 ( 4.73 )	91	5.05 ( 4.64 )	98	4.45 ( 4.40 )	91	4.24 ( 4.54 )	84
17※	浪江町棚塩安養院		0.17 ( 0.17 )	91	0.18 ( 0.17 )	98	0.16 ( 0.16 )	91	0.16 ( 0.17 )	84
18	浪江町川添中上ノ原		0.33 ( 0.33 )	91	0.34 ( 0.31 )	98	0.31 ( 0.31 )	91	0.29 ( 0.31 )	84
19	大熊町野上湯の神		0.86 ( 0.85 )	91	0.86 ( 0.79 )	98	0.79 ( 0.78 )	91	0.73 ( 0.78 )	84
20	富岡町新福島変電所		0.89 ( 0.88 )	91	0.91 ( 0.84 )	98	0.82 ( 0.81 )	91	0.78 ( 0.84 )	84
21※	富岡町富岡中学校		0.25 ( 0.25 )	91	0.28 ( 0.26 )	98	0.24 ( 0.24 )	91	0.23 ( 0.25 )	84

(注) 1. ( ) 内は、90日換算値。

※No9:郡山堂ノ上から郡山塚ノ腰へ地点変更 (国の中間貯蔵施設造成対象区域となったことによる変更；平成28年度第3四半期より)

※No14:小入野東大和久およびNo16:熊川久麻川地点については、国の中間貯蔵施設造成対象区域となったことにより測定地点変更 (令和元年度第1四半期より)

※No17:北棚塩総合集会所から棚塩安養院へ地点変更 (建屋解体工事が実施されることによる変更；令和3年度第1四半期より)

※No21:東京電力西原寮から富岡中学校へ地点変更 (建屋解体工事が実施されることによる変更；令和4年度第4四半期より)

2-4-2 環境試料  
2-4-2-1 大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能

単位: 測定値: Bq/m<sup>3</sup> 上段: 平均値  
測定時間: h 下段: (最大値)

測定年月	測定項目	R6.4		5		6		7		8		9		10		11		12		R7.1		2		3	
	測定地点名	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間
1 MP-3*	全アルファ放射能	0.016 (0.099)	720	0.013 (0.080)	744	0.016 (0.093)	720	0.017 (0.082)	716	0.015 (0.072)	744	0.015 (0.096)	720	0.012 (0.051)	744	0.011 (0.051)	720	0.009 (0.037)	744	0.011 (0.053)	740	0.011 (0.071)	672	0.014 (0.11)	744
	全ベータ放射能	0.036 (0.16)	720	0.033 (0.15)	744	0.040 (0.15)	720	0.037 (0.13)	716	0.034 (0.12)	744	0.033 (0.16)	720	0.030 (0.086)	744	0.032 (0.11)	720	0.032 (0.23)	744	0.033 (0.10)	740	0.036 (0.14)	672	0.037 (0.17)	744
2 MP-8*	全アルファ放射能	0.014 (0.078)	720	0.011 (0.066)	744	0.014 (0.083)	720	0.015 (0.082)	701	0.014 (0.066)	744	0.012 (0.073)	720	0.010 (0.043)	744	0.010 (0.043)	720	0.007 (0.026)	744	0.009 (0.033)	740	0.009 (0.045)	672	0.012 (0.075)	744
	全ベータ放射能	0.036 (0.14)	720	0.032 (0.12)	744	0.036 (0.14)	720	0.038 (0.15)	701	0.038 (0.12)	744	0.035 (0.14)	720	0.032 (0.087)	744	0.033 (0.089)	720	0.029 (0.063)	744	0.031 (0.071)	740	0.032 (0.085)	672	0.034 (0.13)	744

※ 福島第一原子力発電所のダストモニタ：MP3については、平成28年10月より本運用開始。

MP-3については、平成29年10月より本運用開始。

・欠測時には、可搬型連続ダストモニタにて測定し、指示値に異常がないことを確認している。

\*点検に伴う欠測期間は下記の通り。

MP-3：令和6年7月23日・24日・25日・令和7年1月13日・14日・20日・21日

MP-8：令和6年7月16日・17日・18日・19日・令和7年1月14日・15日・21日・22日

2-4-2-(2) 大気浮遊じんの核種濃度

No.	採取地点名	採取時期	核種							濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )			
			<sup>51</sup> Cr	<sup>54</sup> Mn	<sup>58</sup> Co	<sup>59</sup> Fe	<sup>60</sup> Co	<sup>95</sup> Zr	<sup>95</sup> Nb	<sup>106</sup> Ru	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>144</sup> Ce
1	MP-3	R6. 4. 1 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.057	3.4	ND
		R6. 5. 1 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.093	6.1	ND
		R6. 6. 1 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.091	6.0	ND
		R6. 7. 1 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.053	3.6	ND
		R6. 8. 1 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.046	3.3	ND
		R6. 9. 1 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.030	2.1	ND
		R6.10. 1 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.042	2.9	ND
		R6.11. 1 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.080	5.9	ND
		R6.12. 1 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.12	9.7	ND
		R7. 1. 1 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.10	8.2	ND
		R7. 2. 1 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.15	13	ND
		R7. 3. 1 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.090	7.0	ND
2	MP-8	R6. 4. 1 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.010	0.60	ND
		R6. 5. 1 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.57	ND
		R6. 6. 1 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.016	0.97	ND
		R6. 7. 1 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.012	0.62	ND
		R6. 8. 1 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.017	0.99	ND
		R6. 9. 1 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.29	ND
		R6.10. 1 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.012	0.61	ND
		R6.11. 1 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.014	0.99	ND
		R6.12. 1 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.020	1.4	ND
		R7. 1. 1 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.018	1.6	ND
		R7. 2. 1 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.043	3.2	ND
		R7. 3. 1 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.029	2.1	ND

(注) 1. 「ND」は検出限界未満である。

2-4-2-2-(3) 環境試料中の核種濃度

試料名	種類 又は部位	採取地点番号 及び採取地点名	採取 年月日	単位	核種										濃度										天然核種 <sup>40</sup> K
					<sup>51</sup> Cr	<sup>54</sup> Mn	<sup>58</sup> Co	<sup>59</sup> Fe	<sup>60</sup> Co	<sup>95</sup> Zr	<sup>95</sup> Nb	<sup>106</sup> Ru	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>144</sup> Ce	<sup>3</sup> H	<sup>131</sup> I	<sup>90</sup> Sr	<sup>238</sup> Pu	<sup>239+240</sup> Pu	<sup>241</sup> Am	<sup>244</sup> Cm			
土壌表土	土	1 敷地内	R6. 5. 30	Bq/kg乾	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1,200	81,000	ND	/	/	23	0.02	0.40	0.14	ND	310	
		2 大熊町下野上	R6. 11. 12		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1,700	120,000	ND	/	/	/	/	/	/	/	410		
		3 大熊町熊川	R6. 11. 12		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	400	29,000	ND	/	/	/	/	/	/	/	280		
		4 双葉町こおりやま山	R6. 11. 12		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	310	22,000	ND	/	/	/	/	/	/	/	610		
海水表面水	土	1 東京電力ホールディングス 茨城県福島第一原子力発電所	R6. 5. 22	Bq/L	/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.077	ND	ND	ND	/	0.0006	/	/	/	/	/	
		R6. 8. 6	/		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.003	0.14	ND	ND	ND	ND	/	/	/	/	/	/		
		R6. 11. 14	/		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.054	ND	0.48	/	/	/	/	/	/	/	/		
		R7. 2. 5	/		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.10	ND	ND	ND	ND	/	/	/	/	/	/		
		R6. 5. 22	/		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.024	ND	0.66	/	ND	/	/	/	/	/	/		
		R6. 8. 6	/		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.028	ND	ND	ND	ND	/	/	/	/	/	/		
	土	2 東京電力ホールディングス 茨城県福島第一原子力発電所	R6. 11. 14	Bq/L	/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.063	ND	ND	ND	/	/	/	/	/	/	
		R6. 5. 22	/		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.042	ND	0.48	/	/	/	/	/	/	/	/		
		R7. 2. 5	/		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.062	ND	ND	ND	ND	/	0.0006	/	/	/	/		
		R6. 5. 22	/		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.11	ND	ND	ND	ND	/	/	/	/	/	/		
		R6. 8. 6	/		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.047	ND	ND	ND	ND	/	/	/	/	/	/		
		R6. 11. 14	/		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.028	ND	ND	ND	ND	/	/	/	/	/	/		
海底土	土	1 東京電力ホールディングス 茨城県福島第一原子力発電所	R6. 5. 22	Bq/kg乾	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1.6	130	ND	/	/	0.53	/	/	/	380		
		R6. 8. 6	ND		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1.9	120	ND	/	/	/	/	/	/	/	320			
		R6. 11. 14	ND		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1.8	100	ND	/	/	/	/	/	/	/	300			
		R7. 2. 5	ND		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	110	ND	/	/	/	/	/	/	/	150			
松葉	葉	2 茨城県環境管理棟付近	R6. 5. 22	Bq/kg生	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	4.8	270	ND	/	/	0.50	/	/	/	410			
		R6. 8. 6	ND		ND	ND	ND	ND	ND	ND	2.7	190	ND	/	/	/	/	/	/	/	380				
		R6. 11. 14	ND		ND	ND	ND	ND	ND	ND	3.1	200	ND	/	/	/	/	/	/	/	330				
		R7. 2. 5	ND		ND	ND	ND	ND	ND	ND	2.2	150	ND	/	/	/	/	/	/	/	260				
松葉	葉	1 M P - 3 付近	R6. 11. 22	Bq/kg生	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	43	ND	/	ND	/	/	/	ND	ND			
		2 環境管理棟付近	R6. 11. 22		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	53	ND	/	ND	/	/	/	/	110				
ほんだわら	葉	1 港内	R6. 5. 23	Bq/kg生	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1.7	ND	/	/	/	/	/	/	380			

(注) 1. 「ND」は検出限界未満, 「/」は対象外核種である。  
2. 上記の他, 人工放射性核種は検出されなかった。

### 第3 東京電力ホールディングス（株）福島第二原子力発電所測定分

#### 3-1 測定項目

測定項目は、以下に示すとおりであり、測定及び採取地点については、図3-1に示す。

##### 3-1-1 空間放射線

##### 3-1-1-（1）空間線量率

測定地点		測定頻度	実施機関
発電所敷地境界付近	7地点	連続	東京電力ホールディングス(株) 福島第二原子力発電所

##### 3-1-1-（2）空間積算線量

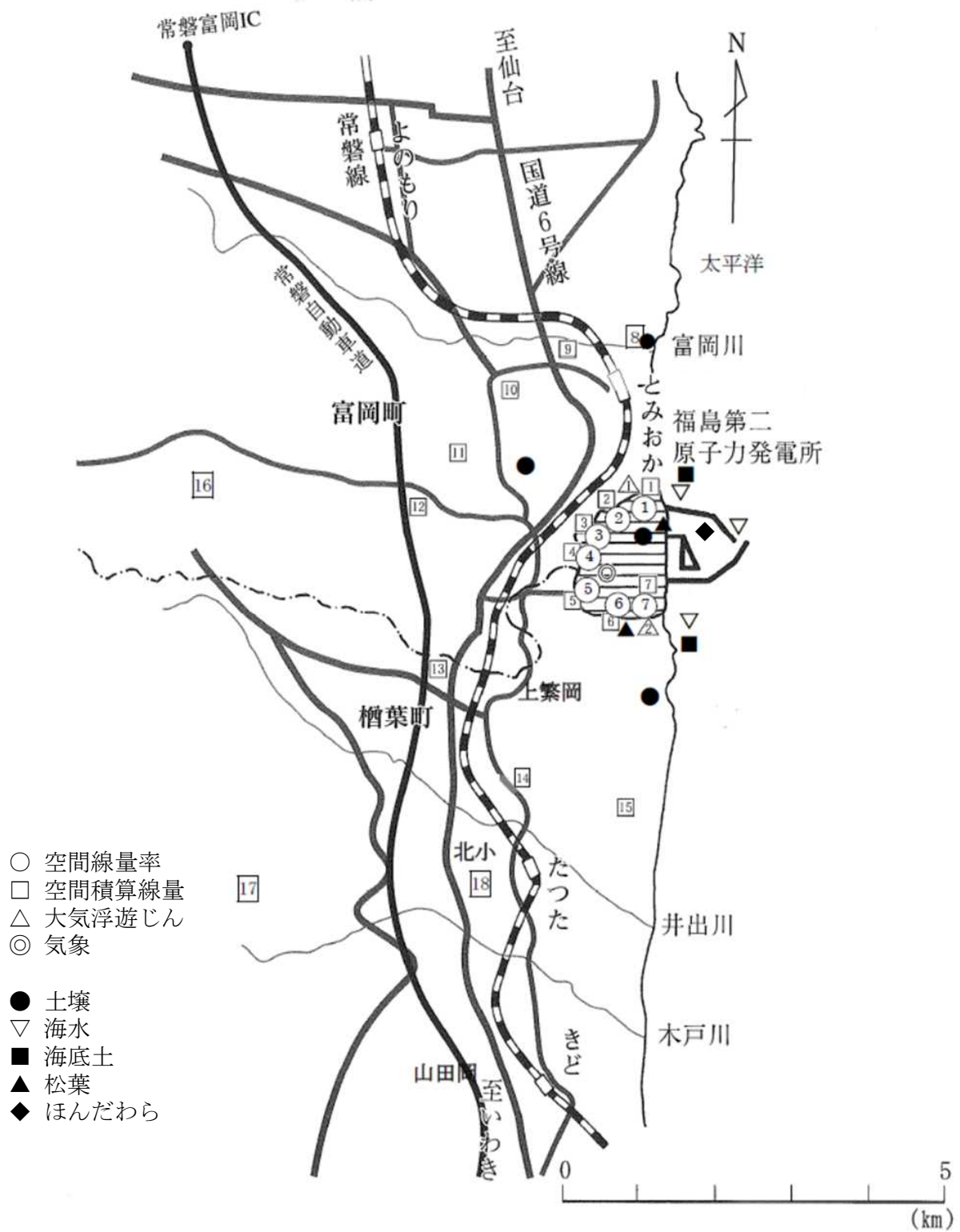
測定地点		測定頻度	実施機関
発電所敷地境界付近	7地点	3か月積算	東京電力ホールディングス(株) 福島第二原子力発電所
発電所敷地外	11地点		

#### 3-1-2 環境試料

##### 3-1-2-（1）環境試料中の全アルファ放射能、全ベータ放射能及び核種濃度

区分名	試料名（部位）	採取地点名	採取頻度	採取量	測定項目	実施機関
大気浮遊じん	大気浮遊じん （地表上約3m）	発電所敷地南境界付近 発電所敷地北境界付近	連続	約90m <sup>3</sup> /6h	全アルファ放射能 全ベータ放射能	東京電力ホールディングス (株) 福島第二原子力 発電所
			12回／年	1ヶ月分の集じんろ紙	ガンマ線放出核種濃度	
土 壌	土（表土，0～5cm）	敷地内	2回／年	1Kg	ガンマ線放出核種濃度	
		楢葉町波倉	1回／年	0.5Kg	ストロンチウム-90 プルトニウム-238, 239+240	
		富岡町小浜			アメリカシウム-241 キュリウム-244	
海 水	海（表面水）	発電所取水口	4回／年	30L	ガンマ線放出核種濃度	
		発電所南放水口		2L	トリチウム濃度	
		発電所北放水口	1回／年	40L	ストロンチウム-90	
海 底 土	海底土（海砂又は海底土）	発電所南放水口	4回／年	1Kg	ガンマ線放出核種濃度	
		発電所北放水口	1回／年	1Kg	ストロンチウム-90	
指標植物	松（葉）	発電所敷地南境界付近 発電所敷地北境界付近	1回／年	0.1Kg	ガンマ線放出核種濃度	
指標海洋生物	ほんだわら（葉茎）	発電所港湾内	1回／年	2kg	ガンマ線放出核種濃度	

図 3 - 1 環境放射能等測定地点



## 3-2 測定方法

測定項目		測定装置	測定方法
空間放射線	空間線量率	モニタリングポスト	検出器：2"φ×2"NaI (Tl) シンチレーション検出器 (富士電機, 温度補償・エネルギー補償回路付) 測定位置：地表上約1.6m 校正線源：Cs-137及びRa-226
	空間積算線量	蛍光ガラス線量計	測定法：文部科学省編「蛍光ガラス線量計を用いた環境 γ線量測定法」(平成14年制定) 検出器：蛍光ガラス線量計, 旭テクノグラス SC-1 測定器：旭テクノグラス FGD-202 測定位置：地表上約1m 校正線源：Cs-137
環境試料	大気浮遊全アルファ及び全ベータ放射能	ダストモニタ	測定法：6時間連続集じん, 6時間放置後全アルファ及び全 ベータ放射能を同時測定 集じん法：ろ紙ステップ式, 使用ろ紙：HE-40T 吸引量：約90m <sup>3</sup> /6時間 検出器：プラスチックシンチレータにZnS (Ag) を吹き付け塗布した検出器 (HITACHI ADC-7221) 採取位置：地表上約3m 校正線源：Am-241及びC1-36
	核種濃度	Ge半導体検出装置	測定法：原子力規制庁編「ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線 スペクトロメトリー」(令和2年改訂) 大気浮遊じんは1カ月の集じんろ紙をU8容器に入れ測定。 土壌・海底土は乾燥後に測定。 松葉(指標植物)は生試料により測定。 海水は, リンモリブデン酸アンモニウム法及び二酸化マンガン 共沈法で処理後測定。 ほんだわら(指標海洋生物)は乾燥試料により測定。 測定器：Ge半導体検出器 (ORTEC GEM35-76-LB-A-S型) 波高分析器 (SEIKO EG&G MCA-7シリーズ(4096ch))
	トリチウム濃度	ローバックグラウンド液体シンチレーション検出装置	測定法：原子力規制庁編「トリチウム分析法」(令和5年改訂) 海水のトリチウムは蒸留後測定。 測定器：ローバックグラウンド液体シンチレーション検出装置 (Aloka LSC-LB7型)
	ストロンチウム-90濃度	ローバックグラウンドガスフロー計数装置	測定法：文部科学省編「放射性ストロンチウム分析法」 のうちイオン交換法(平成15年改訂) 測定器：ローバックグラウンドガスフロー計数装置 (Aloka LBC-4202B型) 校正線源：Sr-90
	プルトニウム-238 プルトニウム-239+240濃度	シリコン半導体検出器	測定法：文部科学省編「プルトニウム分析法」 のうちイオン交換法(平成2年改訂) 測定器：ORTEC Alpha Duo 第三者機関((株)化研)にて分析
	アメリカシウム-241 キュリウム-244濃度	シリコン半導体検出器	測定法：文部科学省編「アメリカシウム分析法」 のうちイオン交換法(平成2年制定) 測定器：ORTEC Alpha Duo 第三者機関((株)化研)にて分析



3-3 測定結果
3-3-1 空間放射線
3-3-1-1 空間線量率

今年度の測定結果を表3.1に示す。
各測定地点の年間平均値は75～206nGy/h、最小値は70～180nGy/h、最大値は95～226nGy/hであった。
年間平均値及び最大値は、事故前の年間平均値及び最大値を上回っていた。
なお、各地点における測定値は、年月の経過とともに減少傾向にあった。
各測定地点における空間線量率の月間平均値及び変動幅の推移を図3.2に示す。

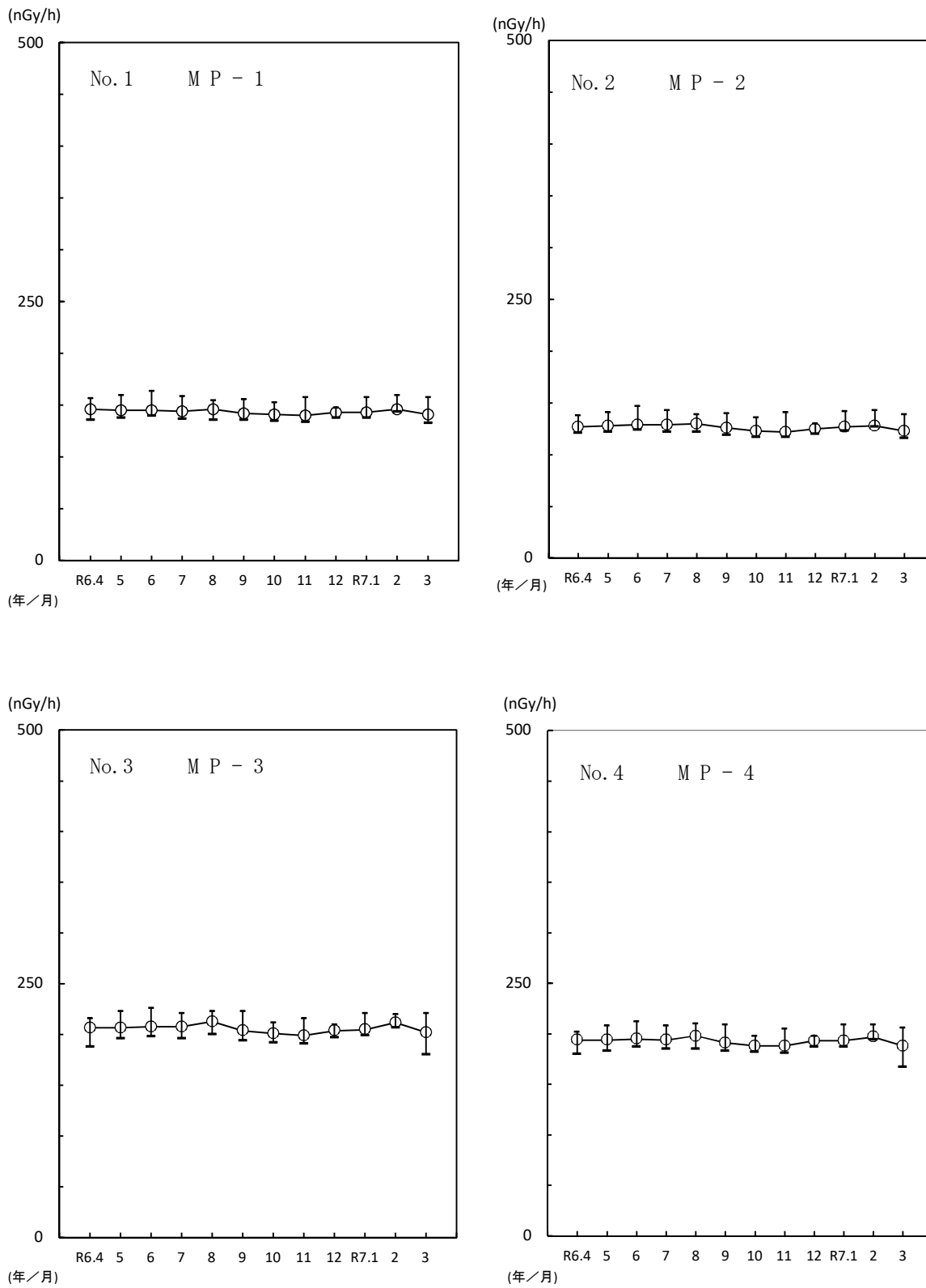
表3.1 空間線量率の測定結果（年間平均値及び最小値、最大値）

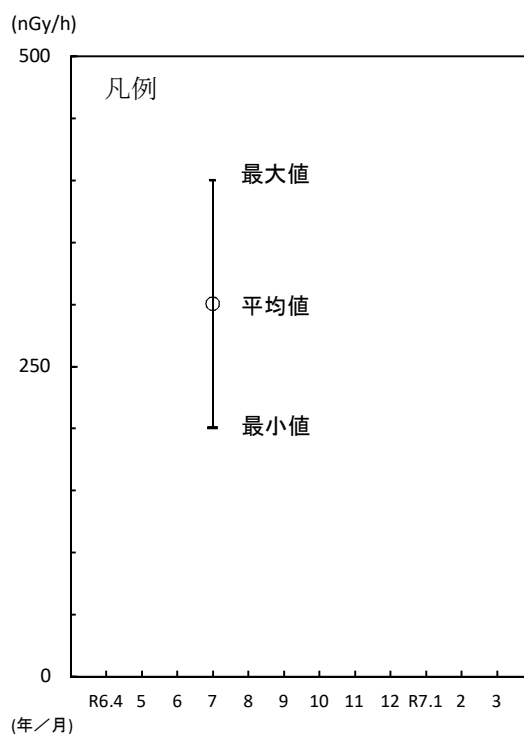
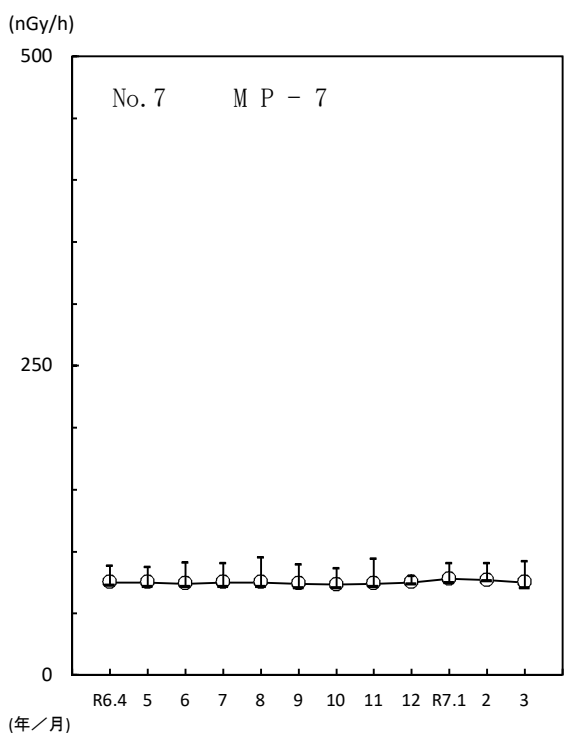
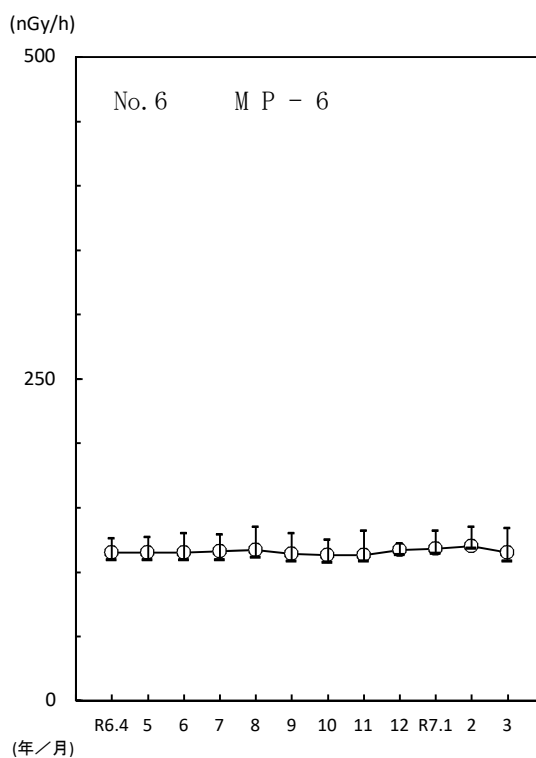
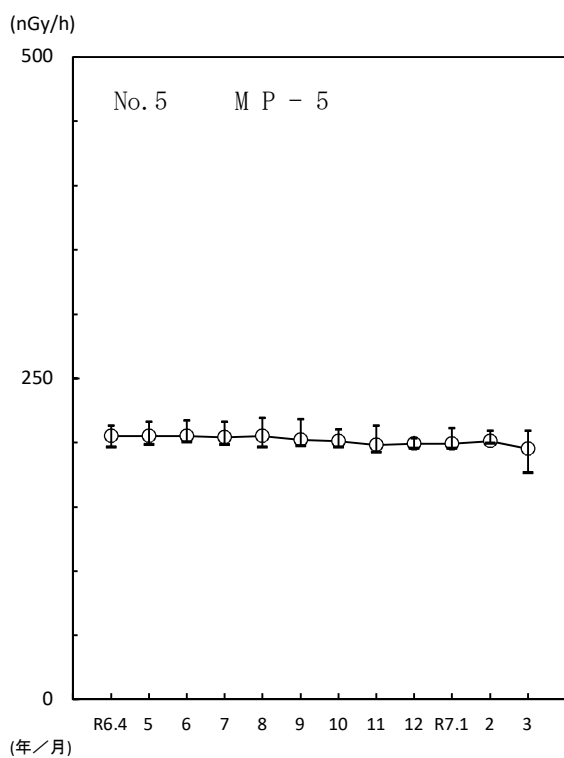
(単位：nGy/h)

No.	測定地点名	今年度測定値			過去の測定値の範囲			
		平均値	最小値	最大値	令和3年度～	平成26年度～	事故直後	事故前
					平均値 (最大値)	平均値 (最大値)	平均値 (最大値)	平均値 (最大値)
1	M P - 1	143	133	164	148 ～ 161 ( 184 )	175 ～ 636 ( 761 )	854 ～ 13,353 ( 130,000 )	38 ～ 40 ( 142 )
2	M P - 2	126	116	147	133 ～ 147 ( 180 )	158 ～ 427 ( 542 )	587 ～ 7,481 ( 31,428 )	45 ～ 47 ( 134 )
3	M P - 3	206	180	226	212 ～ 232 ( 262 )	258 ～ 669 ( 795 )	863 ～ 13,695 ( 182,000 )	38 ～ 39 ( 79 )
4	M P - 4	193	167	212	203 ～ 225 ( 252 )	244 ～ 609 ( 728 )	804 ～ 9,950 ( 145,000 )	38 ～ 40 ( 91 )
5	M P - 5	202	176	219	209 ～ 228 ( 255 )	244 ～ 600 ( 672 )	752 ～ 9,368 ( 157,000 )	43 ～ 44 ( 108 )
6	M P - 6	115	107	135	119 ～ 126 ( 160 )	138 ～ 278 ( 329 )	371 ～ 8,693 ( 26,418 )	46 ～ 48 ( 145 )
7	M P - 7	75	70	95	77 ～ 80 ( 128 )	84 ～ 244 ( 289 )	309 ～ 4,513 ( 19,100 )	46 ～ 47 ( 162 )

(注) 1. 平均値は、年間の1時間値の測定値の和を測定値の数で除して求めた。  
2. 最小値と最大値は、1時間値の最小と最大の値を示す。  
3. 「過去の測定値の範囲」は、  
令和3年度～：令和3年度から前年度まで。  
H26～：平成26年度から令和2年度まで。  
事故直後：事故後（平成23年3月11日）から平成25年度まで。  
事故前：平成13年9月から事故前（平成23年3月10日）まで。

図 3. 2 空間線量率の月間平均値及び変動幅の推移





### 3-3-1-(2) 空間積算線量

今年度の測定結果（年間相当値<sup>\*1</sup>）を表3. 2に示す。

今年度の測定値は、0.69mGy（MP-7）から1.9mGy（MP-3，MP-5）であった。

今年度の測定値は、事故前の測定値を上回っていた。

なお、四半期毎の各地点の測定値は、年月の経過とともに減少傾向にあった。

今年度の四半期ごとの測定結果（90日換算値）の推移を図3. 3に示す。

表3. 2 空間積算線量の測定結果（年間相当値）

（単位：mGy）

No.	測 定 地 点 名	今年度測定値	過去の測定値の範囲 <sup>*2</sup>			
			令和3年度～	平成26年度～	事故直後	事故前
1	M P - 1	1.6	1.8～1.9	2.0～6.2	7.4～16	0.49～0.52
2	M P - 2	1.3	1.4～1.5	1.6～3.6	4.7～11	0.52～0.56
3	M P - 3	1.9	2.0～2.3	2.6～6.5	7.9～16	0.46～0.50
4	M P - 4	1.8	1.9～2.0	2.2～4.9	5.8～14	0.45～0.48
5	M P - 5	1.9	2.0～2.2	2.3～5.1	5.3～12	0.52～0.54
6	M P - 6	1.1	1.1～1.2	1.3～2.4	3.1～7.8	0.54～0.59
7	M P - 7	0.69	0.69～0.71	0.74～1.6	2.0～8.9	0.53～0.56
8	富岡町小こはま浜	1.4	1.5～1.6	1.7～6.5	— *3	— *3
9	*5 富岡町とみおかちゅうがっこう富岡中学校	1.0	1.0～1.3	1.3～4.6	8.3～39	0.49～0.59
10	*5 富岡町こはまちゅうおう小浜中央	1.2	1.3～1.4	1.5～11	12～29	0.50～0.53
11	富岡町かみこおりやましみず上郡山清水	1.5	1.6～1.7	1.8～12	11～29	0.48～0.52
12	富岡町かみこおりやまかみこおり上郡山上郡	1.7	1.8～2.0	2.1～8.5	9.9～25	0.49～0.53
13	檜葉町かみしげおかやまね根上繁岡山根	1.6	1.6～1.7	1.9～4.4	5.6～15	0.47～0.51
14	檜葉町いでじょう浄光東井出	1.4	1.4～1.6	1.7～3.7	5.2～12	0.47～0.52
15	檜葉町しもしげおかいつちようつぽ下繁岡一丁坪	1.4	1.5～1.6	1.8～3.8	4.7～12	0.44～0.47
16	富岡町かみこおりやまいわいど上郡山岩井戸	1.5	1.6～1.7	1.8～7.3	9.7	— *4
17	檜葉町いで出八石	0.86	0.89～0.93	0.96～1.7	3.6	— *4
18	檜葉町ならはちゅうがっこう檜葉中学校	0.72	0.74～0.75	0.77～1.9	3.8	— *4

\*1 年間相当値は、各四半期の測定値の和を365日相当に換算し、有効数字2桁で表示。

\*2 「過去の測定値の範囲」は、

令和3年度～：令和3年度から前年度まで。

平成26年度～：平成26年度から令和2年度まで。

事故直後：平成22年度第4四半期から平成25年度まで。

事故前：平成15年度より測定装置を蛍光ガラス線量計に変更したため、平成15年度から平成22年度第3四半期まで。

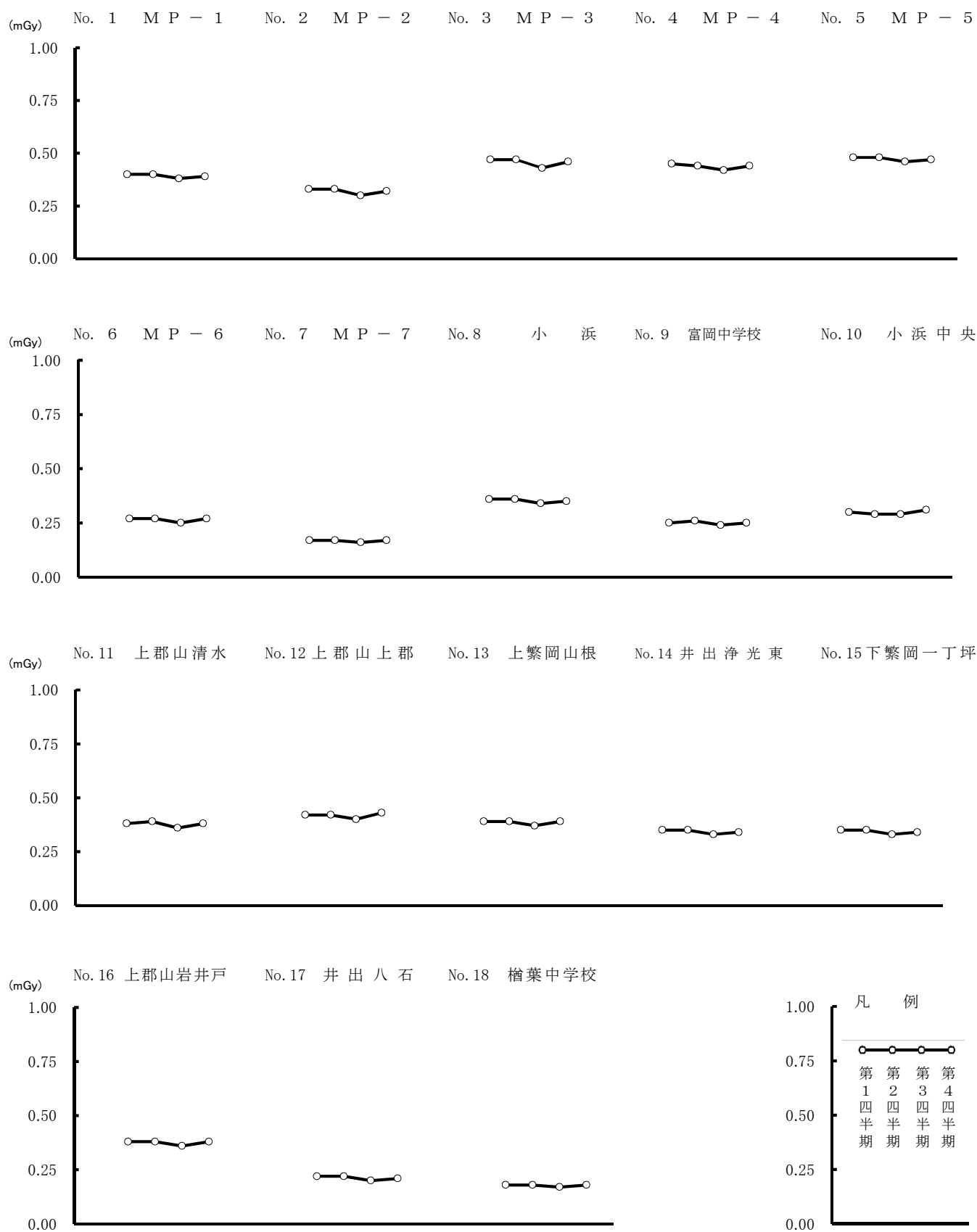
\*3 平成26年度より測定を開始した。

\*4 平成25年度より測定を開始した。

\*5 ※令和4年度第3四半期より地点名を変更

「富岡第一中学校」→「富岡中学校」、「上の町社宅」→「小浜中央」

図 3. 3 空間積算線量（90日換算値\*<sup>1</sup>）の推移



(注) \* 1 90日換算値は、四半期ごとの測定値を換算した。

### 3-3-2 環境試料

#### 3-3-2-（1） 大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能

今年度の測定結果を表3.3に示す。

各測定地点の全アルファ放射能の平均値は、 $0.009\text{Bq/m}^3$ 、最大値は $0.061\sim 0.063\text{Bq/m}^3$ であり、  
全ベータ放射能の平均値は $0.043\sim 0.045\text{Bq/m}^3$ 、最大値は $0.19\sim 0.21\text{Bq/m}^3$ であった。

いずれも事故前の値の範囲内でした。

なお、令和3年9月にダストモニタの更新を行った。

**表3.3 大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能測定結果**

(単位： $\text{Bq/m}^3$ )

No.	測定地点名	測定項目	今年度測定値		過去の測定値の範囲			
			平均値	最大値	令和3年度～	平成26年度～	事故直後	事故前
					平均値 (最大値)	平均値 (最大値)	平均値 (最大値)	平均値 (最大値)
1	M P - 1	全アルファ放射能	0.009	0.061	0.010 ( 0.098 )	0.015～0.019 ( 0.16 )	0.014～0.015 ( 0.14 )	0.006～0.030 ( 0.20 )
		全ベータ放射能	0.045	0.19	0.035～0.048 ( 0.28 )	0.030～0.035 ( 0.25 )	0.030～0.033 ( 0.23 )	0.020～0.058 ( 0.29 )
2	M P - 7	全アルファ放射能	0.009	0.063	0.010 ( 0.088 )	0.014～0.018 ( 0.13 )	0.015～0.016 ( 0.11 )	0.005～0.026 ( 0.15 )
		全ベータ放射能	0.043	0.21	0.034～0.046 ( 0.27 )	0.030～0.034 ( 0.20 )	0.031 ( 0.17 )	0.019～0.049 ( 0.21 )

(注) 1. 平均値は、6時間ごとの測定値の和を測定値の数で除して求めた。

2. 最大値は、6時間ごとの測定値の最大を示す。

3. 「過去の測定値の範囲」は、

令和3年度～：令和3年度から前年度まで。

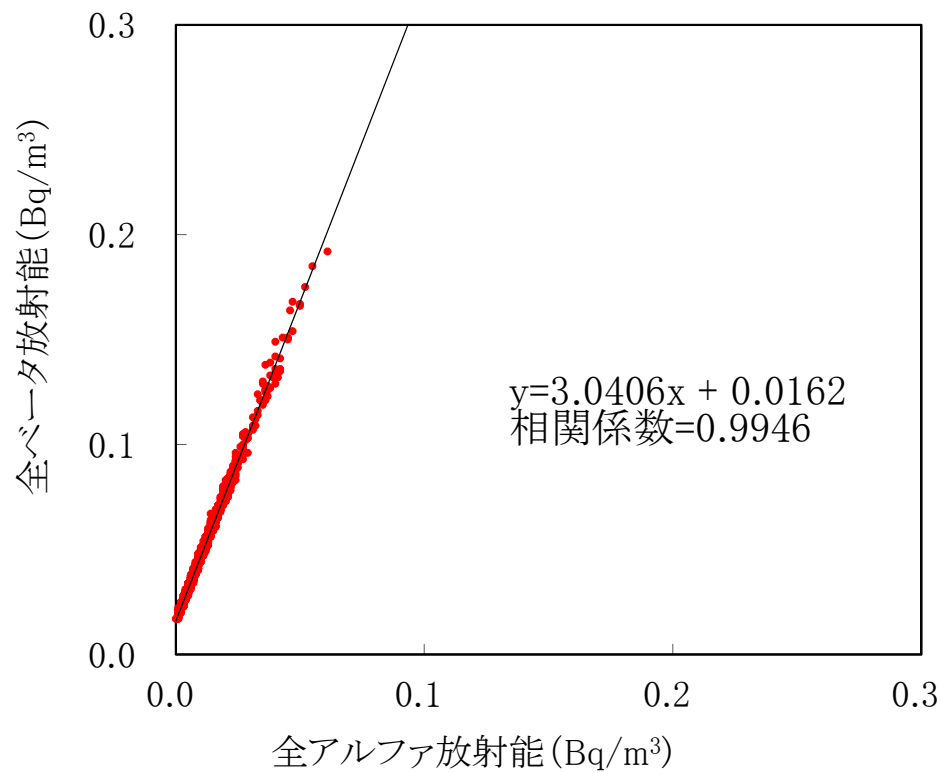
平成26年度～：平成26年度から令和2年度まで。

事故直後：測定を開始した平成24年度から平成25年度まで。

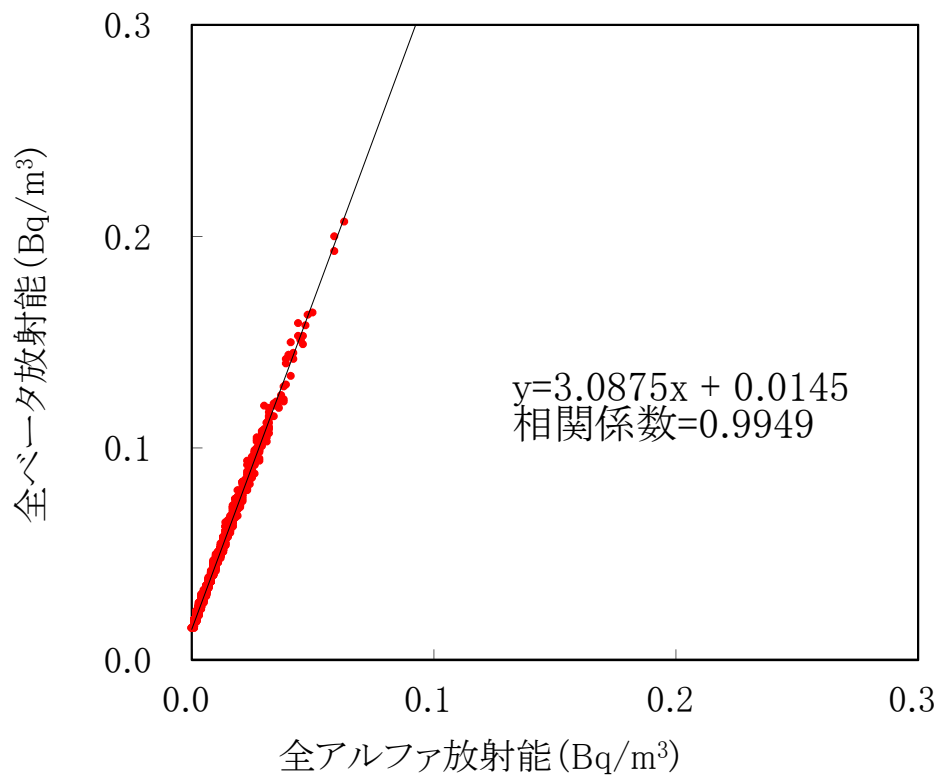
事故前：機器更新後の平成13年9月から平成22年度第4四半期（平成23年3月10日）まで。

図3. 4 全アルファ放射能と全ベータ放射能の相関

No.1 MP-1



No.2 MP-7



### 3-3-2-(2) 環境試料中の核種濃度（ガンマ線放出核種及びトリチウム）

今年度の測定結果を表3. 4, 3. 5に示す。

土壌、海底土から事故前の測定値の範囲を上回るセシウム-134及び大気浮遊じんの一部を除く試料からセシウム-137の人工放射性核種が検出されたが、年月の経過とともに減少傾向にある。

ベータ線放出核種については、海水のトリチウムが、過去の測定値の範囲を上回る値で検出されている。試料採取当日に2号機排水口から放射性液体廃棄物の放出をしており、放出中に海水を採取したことによるものである。

トリチウムの検出が、この放出の影響であったことを確認するため、同地点で海水を採取してトリチウムが検出されていないことから、放出の影響であったと考える。

表3. 4 環境試料中のガンマ線放出核種濃度測定結果

試料名	今年度試料数	単位	核種	今年度測定値	過去の測定値の範囲			
					令和3年度～	平成26年度～	事故直後	事故前
大気浮遊じん	24	mBq/m <sup>3</sup>	セシウム-134	ND	ND	ND～0.066	ND～0.75	ND
			セシウム-137	ND ～ 0.025	ND～0.037	ND～0.20	ND～1.1	ND
土 壌	8	Bq/kg乾	セシウム-134	ND ～ 55	ND～150	4.5～2,800	490～9,000	ND
			セシウム-137	130 ～ 3,600	100～3,900	53～7,900	900～15,000	1.1～15
海 水	12	Bq/L	セシウム-134	ND	ND～0.002	ND～0.043	ND～0.36	ND
			セシウム-137	0.005 ～ 0.014	0.006～0.030	ND～0.12	0.079～1.1	ND～0.003
海 底 土	8	Bq/kg乾	セシウム-134	ND ～ 0.98	ND～2.4	3.1～74	50～200	ND
			セシウム-137	27 ～ 51	32～89	52～220	120～360	ND～1.5
松 葉	2	Bq/kg生	セシウム-134	ND	ND	ND～120	60～17,160	ND
			セシウム-137	4.3 ～ 8.9	7.8～19	12～330	130～22,840	ND～0.06
ほんだわら	1	Bq/kg生	セシウム-134	ND	ND	ND	12～35	ND
			セシウム-137	0.51	1.3～6.9	1.4～1.8	22～54	ND～0.06

- (注) 1. 「今年度試料数」は各採取地点毎の年間採取回数の合計である。  
2. NDは、検出限界未満。  
3. 「過去の測定値の範囲」は、  
令和3年度～：令和3年度から前年度まで。  
平成26年度～：平成26年度から令和2年度まで。  
事故直後：平成22年度第4四半期（平成23年3月11日）から平成25年度まで。  
事故前：平成13年度から平成22年度第4四半期（平成23年3月10日）まで。

表3. 5 環境試料中のトリチウム濃度測定結果

試料名	今年度試料数	単位	核種	今年度測定値	過去の測定値の範囲			
					令和3年度～	平成26年度～	事故直後	事故前
海 水	12	Bq/L	トリチウム	ND ～ 3.3	ND	ND	ND	ND

- (注) 1. 「今年度試料数」は各採取地点毎の年間採取回数の合計である。  
2. NDは、検出限界未満。  
3. 「過去の測定値の範囲」は、  
令和3年度～：令和3年度から前年度まで。  
平成26年度～：平成26年度から令和2年度まで。  
事故直後：平成22年度第4四半期（平成23年3月11日）から平成25年度まで。  
事故前：平成13年度から平成22年度第4四半期（平成23年3月10日）まで。



### 3-3-2-(3) 環境試料中の放射性ストロンチウム濃度

今年度の測定結果を表3. 6に示す。

土壌、海水、海底土から、ストロンチウム-90の人工放射性核種が検出されたが、概ね横ばいから減少傾向にある。

なお、ストロンチウム-90については、事故後、平成24年度まで欠測。

表3. 6 環境試料中の放射性ストロンチウム濃度測定結果

試料名	今年度試料数	単位	核種	今年度測定値	過去の測定値の範囲			
					令和3年度～	平成26年度～	事故直後	事故前
土 壌	4	Bq/kg乾	ストロンチウム-90	ND ～ 2.8	ND～2.5	ND～5.5	2.4～3.9	1.4～2.4
海 水	3	Bq/L	ストロンチウム-90	ND ～ 0.0010	ND～0.002	ND～0.005	0.011～0.014	0.001～0.003
海 底 土	2	Bq/kg乾	ストロンチウム-90	ND	ND～0.45	ND～0.36	ND	ND～0.16

- (注) 1. 「今年度試料数」は各採取地点毎の年間採取回数の合計である。  
 2. NDは、検出限界未満。  
 3. 「過去の測定値の範囲」は、  
 令和3年度～：令和3年度から前年度まで。  
 平成26年度～：平成26年度から令和2年度まで。  
 事故直後：平成22年度第4四半期（平成23年3月11日）から平成25年度まで。  
 事故前：平成13年度から平成22年度第4四半期（平成23年3月10日）まで。

### 3-3-2-(4) 環境試料中のプルトニウム放射能濃度

今年度の測定結果を表3. 7に示す。

土壌から、プルトニウム-238、239+240が検出され、事故後概ね横ばい傾向にある。

なお、プルトニウムについては事故後に測定を開始した。

表3. 7 環境試料中の放射性プルトニウム濃度測定結果

試料名	今年度試料数	単位	核種	今年度測定値	過去の測定値の範囲			
					令和3年度～	平成26年度～	事故直後	事故前
土 壌	4	Bq/kg乾	プルトニウム238	ND ～ 0.01	ND	ND	ND	ND～0.03
			プルトニウム239+240	0.04 ～ 0.28	0.04～0.37	0.03～0.37	0.11～0.28	ND～0.44

- (注) 1. 「今年度試料数」は各採取地点毎の年間採取回数の合計である。  
 2. NDは、検出限界未満。  
 3. 「過去の測定値の範囲」は、  
 令和3年度～：令和3年度から前年度まで。  
 平成26年度～：平成26年度から令和2年度まで。  
 事故直後：平成22年度第4四半期（平成23年3月11日）から平成25年度まで。  
 事故前：平成13年度から平成22年度第4四半期（平成23年3月10日）まで。

### 3-3-2-(5) 環境試料中のアメリカシウム放射能濃度

今年度の測定結果を表3. 8に示す。

土壌から、アメリカシウム-241が検出され、事故後概ね横ばい傾向にある。

なお、アメリカシウムについては事故後に測定を開始した。

**表3. 8 環境試料中の放射性アメリカシウム濃度測定結果**

試料名	今年度 試料数	単位	核種	今年度測定値	過去の測定値の範囲			
					令和3年度～	平成26年度～	事故直後	事故前
土壌	4	Bq/kg乾	アメリカシウム-241	0.02 ～ 0.12	ND～0.14	0.01～0.15	0.36～0.53	-

(注) 1. 「今年度試料数」は各採取地点毎の年間採取回数の合計である。

2. NDは、検出限界未満。

3. 「過去の測定値の範囲」は、

令和3年度～：令和3年度から前年度まで。

平成26年度～：平成26年度から令和2年度まで。

事故直後：平成22年度第4四半期（平成23年3月11日）から平成25年度まで。

事故前：平成13年度から平成22年度第4四半期（平成23年3月10日）まで。

### 3-3-2-(6) 環境試料中のキュリウム放射能濃度

今年度の測定結果を表3. 9に示す。

土壌のキュリウム-244は検出されなかった。

なお、キュリウムについては事故後に測定を開始したが、測定開始以降、検出されていない。

**表3. 9 環境試料中の放射性キュリウム濃度測定結果**

試料名	今年度 試料数	単位	核種	今年度測定値	過去の測定値の範囲			
					令和3年度～	平成26年度～	事故直後	事故前
土壌	4	Bq/kg乾	キュリウム-244	ND	ND	ND	ND	-

(注) 1. 「今年度試料数」は各採取地点毎の年間採取回数の合計である。

2. NDは、検出限界未満。

3. 「過去の測定値の範囲」は、

令和3年度～：令和3年度から前年度まで。

平成26年度～：平成26年度から令和2年度まで。

事故直後：平成22年度第4四半期（平成23年3月11日）から平成25年度まで。

事故前：平成13年度から平成22年度第4四半期（平成23年3月10日）まで。

3-4 原子力發電所周边环境放射能測定値一覽表

3-4-1 空間放射線  
3-4-1-1 (1) 空間線量率

単位：  
線量率：nGy/h  
測定時間：h

上段：平均値  
中段：(最大值)  
下段：(最小値)

測定年月 測定 地点名 No	R6.4		R6.5		R6.6		R6.7		R6.8		R6.9		R6.10		R6.11		R6.12		R7.1		R7.2		R7.3	
	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間
1 MP-1	146 (157) (136)	713	145 (160) (138)	744	145 (164) (140)	720	144 (159) (137)	744	146 (155) (136)	744	142 (156) (136)	720	141 (153) (135)	744	140 (158) (134)	719	143 (148) (138)	744	143 (158) (138)	744	146 (160) (144)	672	141 (158) (133)	744
2 MP-2	127 (138) (121)	713	128 (141) (122)	744	129 (147) (124)	720	129 (143) (122)	744	130 (139) (122)	744	126 (140) (119)	720	123 (136) (117)	744	122 (141) (117)	719	127 (142) (123)	744	127 (142) (123)	744	128 (143) (127)	672	123 (139) (116)	744
3 MP-3	207 (216) (188)	720	207 (223) (196)	738	208 (226) (198)	720	208 (221) (196)	744	213 (223) (200)	744	204 (223) (194)	720	201 (212) (192)	744	199 (216) (191)	719	204 (210) (197)	744	205 (221) (199)	744	212 (220) (207)	672	202 (221) (180)	744
4 MP-4	194 (202) (180)	720	194 (208) (183)	738	195 (212) (187)	720	194 (208) (185)	744	198 (210) (185)	744	191 (209) (183)	720	188 (198) (182)	744	188 (205) (181)	719	193 (198) (187)	744	193 (209) (187)	744	197 (209) (194)	672	188 (206) (167)	744
5 MP-5	205 (213) (196)	720	205 (216) (198)	738	205 (217) (200)	720	204 (216) (198)	744	205 (219) (196)	744	202 (218) (197)	720	201 (210) (196)	744	198 (213) (192)	719	199 (211) (195)	744	199 (211) (195)	744	201 (209) (199)	672	195 (209) (176)	744
6 MP-6	115 (126) (109)	720	115 (127) (109)	738	115 (130) (109)	720	116 (129) (109)	744	117 (135) (111)	744	114 (130) (108)	720	113 (125) (107)	744	113 (132) (108)	719	117 (122) (113)	744	118 (132) (114)	744	120 (135) (118)	672	115 (134) (108)	744
7 MP-7	75 (88) (72)	720	75 (87) (71)	738	74 (91) (71)	720	75 (90) (71)	744	75 (95) (71)	744	74 (89) (70)	720	73 (86) (70)	744	74 (94) (71)	719	75 (80) (73)	744	76 (90) (74)	744	77 (90) (76)	672	75 (92) (70)	744

### 3-4-1-(2) 空間積算線量

(単位：mGy)

No.	測定地点名	測定項目		測定期間		R6.4.4 ～ R6.7.4		R6.7.4 ～ R6.10.10		R6.10.10 ～ R7.1.9		R7.1.9 ～ R7.4.3	
		測定	項目	積算線量	測定 日数	積算線量	測定 日数	積算線量	測定 日数	積算線量	測定 日数	積算線量	測定 日数
1	M P - 1	0.40	(0.40)	91	0.43	(0.40)	98	0.38	(0.38)	91	0.36	(0.39)	84
2	M P - 2	0.33	(0.33)	91	0.36	(0.33)	98	0.30	(0.30)	91	0.30	(0.32)	84
3	M P - 3	0.48	(0.47)	91	0.51	(0.47)	98	0.43	(0.43)	91	0.43	(0.46)	84
4	M P - 4	0.46	(0.45)	91	0.48	(0.44)	98	0.42	(0.42)	91	0.41	(0.44)	84
5	M P - 5	0.49	(0.48)	91	0.52	(0.48)	98	0.46	(0.46)	91	0.44	(0.47)	84
6	M P - 6	0.27	(0.27)	91	0.29	(0.27)	98	0.25	(0.25)	91	0.25	(0.27)	84
7	M P - 7	0.17	(0.17)	91	0.19	(0.17)	98	0.16	(0.16)	91	0.16	(0.17)	84
8	富岡町小はま	0.36	(0.36)	91	0.39	(0.36)	98	0.34	(0.34)	91	0.33	(0.35)	84
9	富岡町富岡中学校	0.25	(0.25)	91	0.28	(0.26)	98	0.24	(0.24)	91	0.23	(0.25)	84
10	富岡町小浜中央	0.30	(0.30)	91	0.32	(0.29)	98	0.29	(0.29)	91	0.29	(0.31)	84
11	富岡町上郡山清水	0.38	(0.38)	91	0.42	(0.39)	98	0.36	(0.36)	91	0.35	(0.38)	84
12	富岡町上郡山	0.42	(0.42)	91	0.46	(0.42)	98	0.40	(0.40)	91	0.40	(0.43)	84
13	榎葉町上繁岡山根	0.39	(0.39)	91	0.43	(0.39)	98	0.37	(0.37)	91	0.36	(0.39)	84
14	榎葉町井出浄光東	0.35	(0.35)	91	0.36	(0.35)	98	0.33	(0.33)	91	0.32	(0.34)	84
15	榎葉町下繁岡一丁坪	0.35	(0.35)	91	0.38	(0.35)	98	0.33	(0.33)	91	0.32	(0.34)	84
16	富岡町上郡山岩井戸	0.38	(0.38)	91	0.41	(0.38)	98	0.36	(0.36)	91	0.35	(0.38)	84
17	榎葉町井出八石	0.22	(0.22)	91	0.24	(0.22)	98	0.20	(0.20)	91	0.20	(0.21)	84
18	榎葉町榎葉中学校	0.18	(0.18)	91	0.20	(0.18)	98	0.17	(0.17)	91	0.17	(0.18)	84

注) ( ) 内は、90日換算値。

3-4-2 環境試料  
3-4-2-1(1) 大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能

測定値: Bq/m<sup>3</sup> 上段: 平均値  
単位: 測定時間: h 下段: (最大値)

No	測定年月	R6. 4		5		6		7		8		9		10		11		12		R7. 1		2		3	
		測定項目	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間
1	MP-1	全アルファ放射能	0.010 (0.043)	0.009 (0.047)	744	0.011 (0.055)	678	0.013 (0.045)	744	0.011 (0.052)	744	0.010 (0.045)	720	0.008 (0.031)	744	0.008 (0.029)	720	0.006 (0.027)	744	0.007 (0.028)	744	0.008 (0.042)	672	0.010 (0.061)	744
		全ベータ放射能	0.048 (0.15)	0.045 (0.17)	744	0.049 (0.19)	678	0.057 (0.15)	744	0.048 (0.18)	744	0.045 (0.15)	720	0.041 (0.11)	744	0.040 (0.11)	720	0.036 (0.099)	744	0.037 (0.11)	744	0.042 (0.14)	672	0.046 (0.19)	744
2	MP-7	全アルファ放射能	0.010 (0.041)	0.008 (0.039)	744	0.009 (0.044)	678	0.014 (0.046)	744	0.010 (0.046)	744	0.010 (0.048)	720	0.009 (0.029)	744	0.009 (0.029)	720	0.007 (0.028)	744	0.007 (0.031)	744	0.009 (0.050)	672	0.011 (0.063)	744
		全ベータ放射能	0.046 (0.15)	0.039 (0.14)	744	0.043 (0.16)	678	0.058 (0.15)	744	0.045 (0.15)	744	0.045 (0.16)	720	0.041 (0.10)	744	0.042 (0.10)	720	0.036 (0.099)	744	0.035 (0.11)	744	0.043 (0.16)	672	0.047 (0.21)	744

### 3-4-2-2) 大気浮遊じんの核種濃度

No.	採取地点名	採取時期	核 種 濃 度 (mBq/m <sup>3</sup> )										
			<sup>51</sup> Cr	<sup>54</sup> Mn	<sup>58</sup> Co	<sup>59</sup> Fe	<sup>60</sup> Co	<sup>95</sup> Zr	<sup>95</sup> Nb	<sup>106</sup> Ru	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>144</sup> Ce
1	MP-1	R6. 4. 1 ~ R6. 4. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.011	ND
		R6. 5. 1 ~ R6. 5. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.009	ND
		R6. 6. 1 ~ R6. 6. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R6. 7. 1 ~ R6. 7. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R6. 8. 1 ~ R6. 8. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R6. 9. 1 ~ R6. 9. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R6.10. 1 ~ R6.10. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.007	ND	ND
		R6.11. 1 ~ R6.11. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R6.12. 1 ~ R6.12. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.007	ND
		R7. 1. 1 ~ R7. 1. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.010	ND
		R7. 2. 1 ~ R7. 2. 28	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.025	ND
		R7. 3. 1 ~ R7. 3. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.013	ND
2	MP-7	R6. 4. 1 ~ R6. 4. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.011	ND
		R6. 5. 1 ~ R6. 5. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.010	ND
		R6. 6. 1 ~ R6. 6. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.007	ND
		R6. 7. 1 ~ R6. 7. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R6. 8. 1 ~ R6. 8. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R6. 9. 1 ~ R6. 9. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R6.10. 1 ~ R6.10. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.009	ND	ND
		R6.11. 1 ~ R6.11. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R6.12. 1 ~ R6.12. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.009	ND	ND
		R7. 1. 1 ~ R7. 1. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.011	ND	ND
		R7. 2. 1 ~ R7. 2. 28	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.018	ND	ND
		R7. 3. 1 ~ R7. 3. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.011	ND	ND

注) 「ND」は検出限界未満である。

3-4-2-2-(3) 環境試料中の核種濃度

試料名	種類又は部位	採取位置	採年月日	単位	核種濃度														天然核種				
					<sup>51</sup> Cr	<sup>54</sup> Mn	<sup>58</sup> Co	<sup>59</sup> Fe	<sup>60</sup> Co	<sup>95</sup> Zr	<sup>95</sup> Nb	<sup>106</sup> Ru	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>144</sup> Ce	<sup>3</sup> H	<sup>131</sup> I	<sup>90</sup> Sr		<sup>238</sup> Pu	<sup>239+240</sup> Pu	<sup>241</sup> Am	<sup>244</sup> Cm
土壌	表土	敷地内	1	Bq/kg乾	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	50	3,000	ND	/	/	0.5	ND	0.17	0.07	ND	320
			2		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	29	2,000	ND	/	/	/	/	/	/	/	240	
			3		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	38	2,500	ND	/	/	2.8	ND	0.19	0.09	ND	340	
			4		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	39	2,900	ND	/	/	/	/	/	/	/	300	
土壌	表土	敷地内	1	Bq/kg乾	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	55	3,400	ND	/	/	1.1	0.01	0.28	0.12	ND	360	
			2		ND	ND	ND	ND	ND	ND	49	3,600	ND	/	/	/	/	/	/	/	430		
			3		ND	ND	ND	ND	ND	ND	150	ND	/	/	ND	ND	0.04	0.02	ND	420			
			4		ND	ND	ND	ND	ND	ND	2.8	130	ND	/	/	/	/	/	/	/	730		
海水	表面水	取水口	1	Bq/L	/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.011	ND	ND	ND	ND	/	/	/	/	
			2		/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.009	ND	ND	ND	ND	/	/	/	/		
			3		/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.005	ND	ND	ND	ND	/	/	/	/		
			4		/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.009	ND	ND	ND	ND	/	/	/	/		
			5		/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.014	ND	ND	ND	ND	ND	/	/	/	/	
			6		/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.011	ND	ND	ND	ND	/	/	/	/		
			7		/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.005	ND	3.3	/	/	/	/	/	/		
			8		/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.010	ND	ND	ND	/	/	/	/	/		
			9		/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.014	ND	ND	ND	0.0010	/	/	/	/		
			10		/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.013	ND	ND	ND	/	/	/	/	/		
			11		/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.007	ND	ND	ND	/	/	/	/	/		
			12		/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.005	ND	ND	ND	/	/	/	/	/		
海水	砂は海底土	敷地の南境界付近	1	Bq/kg乾	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.98	27	ND	/	/	ND	/	/	/	230	
			2		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	32	ND	/	/	/	/	/	/	/	280		
			3		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	28	ND	/	/	/	/	/	/	/	310		
			4		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	34	ND	/	/	/	/	/	/	/	350		
			5		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	47	ND	/	/	ND	/	/	/	/	380		
			6		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	45	ND	/	/	/	/	/	/	/	420		
			7		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	34	ND	/	/	/	/	/	/	/	330		
			8		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	51	ND	/	/	/	/	/	/	/	500		
松葉	葉	敷地の南境界付近	1	Bq/kg生	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	8.9	ND	/	/	/	/	/	/	ND		
			2		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	4.3	ND	/	/	/	/	/	/	/	ND		
ほんだわら	葉	敷地の北境界付近	1	Bq/kg生	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.51	ND	/	/	/	/	/	/	/	290	
			2		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.51	ND	/	/	/	/	/	/	/	/	290	

注) 1 「ND」は検出限界未満,「/」は対象外核種。  
2 上記の他,人工放射性核種は検出されなかった。

## 第4 参考資料



4-1 放射性気体廃棄物及び液体廃棄物の放出状況(令和6年度)

ア 福島第一原子力発電所測定分

(ア) 気体廃棄物の放出量(1～4号機)

1～4号機原子炉建屋及び1～3号機格納容器からの追加放出量

(単位:Bq)

		粒子状物質		備 考
		$^{134}\text{Cs}$	$^{137}\text{Cs}$	
1～4号機合計※1		$7.3 \times 10^7$	$8.2 \times 10^7$	「福島第一原子力発電所 特定原子力施設に係る実施計画」において、「1～4号機原子炉建屋及び1～3号機原子炉格納容器以外からの追加的放出は、極めて少ないと考えられる」と評価されていることから、1～4号機における気体廃棄物の放出量としては、1～4号機原子炉建屋及び1～3号機格納容器から放出される $^{134}\text{Cs}$ 及び $^{137}\text{Cs}$ を対象としている。 月1回以上の試料採取により得られた放射能濃度(Bq/cm <sup>3</sup> )に排気設備風量又は風量推定値(m <sup>3</sup> /h)を乗ずることによって放出率(Bq/h)を求め、その放出率に報告対象期間の時間(h)を乗ずることによって、追加放出量を求めている。
内訳	1号機	$1.9 \times 10^6$	$3.3 \times 10^6$	
	2号機	$1.9 \times 10^7$ ※2	$1.6 \times 10^7$	
	3号機	$3.6 \times 10^7$	$4.9 \times 10^7$	
	4号機	$1.7 \times 10^7$ ※2	$1.3 \times 10^7$ ※3	
年間放出管理目標値 (年間)		$4.3 \times 10^9$	$4.3 \times 10^{10}$	

※1 四捨五入の関係より、「号機毎の合計値」と「1～4号機合計」が合わない場合がある。

※2 全て $^{134}\text{Cs}$ の検出下限値を用いて放出量を算出している。

※3 全て $^{137}\text{Cs}$ の検出下限値を用いて放出量を算出している。

(イ) 放射性気体廃棄物の放出量(5・6号機及びその他)

(単位:Bq)					備 考
原子炉施設合計		全希ガス	<sup>131</sup> I	全粒子状物質	<sup>3</sup> H
排気筒 別内訳	5、6号機共用排気筒	検出されず	検出されず	2.7×10 <sup>3</sup>	3.4×10 <sup>10</sup>
	焼却炉建屋排気筒	—	検出されず	検出されず	2.9×10 <sup>10</sup>
	大型機器除染設備排気口 <sup>※3</sup> 及び	—	—	1.4×10 <sup>3</sup>	—
	汚染拡大防止ハブス排気口 <sup>※2</sup>	—	—	—	—
	使用済燃料共用プール排気口	検出されず	検出されず	検出されず	5.1×10 <sup>9</sup>
	増設焼却炉建屋排気筒	—	検出されず	検出されず	検出されず
	油処理装置排気口 <sup>※4</sup>	—	—	1.2×10 <sup>3</sup>	1.1×10 <sup>7</sup>
	分析・研究施設第1棟排気口	—	—	検出されず	—
	固体廃棄物貯蔵庫第9棟排気口	—	—	検出されず	—
	減容処理設備排気口	—	—	検出されず	—
年間放出管理目標値 <sup>※1</sup>		2.4×10 <sup>14</sup>	8.4×10 <sup>7</sup>	—	—

※1 特定原子力施設に係わる実施計画値(5、6号機の合計値)。

※2 汚染拡大防止ハブス排気口は排気設備停止中。

※3 大型機器除染設備排気口から以下の期間で粒子状物質放出あり。

2024年10月7日から2024年12月27日において、<sup>90</sup>Srが平均で2.2×10<sup>-10</sup>(Bq/cm<sup>3</sup>)で放出あり。

2024年11月19日から2024年11月26日において、全β放射能が平均で2.5×10<sup>-9</sup>(Bq/cm<sup>3</sup>)で放出あり。

2024年11月26日から2024年12月3日において、全β放射能が平均で3.6×10<sup>-9</sup>(Bq/cm<sup>3</sup>)で放出あり。

なお、大型機器除染設備を収納する大型機器点検建屋の排気口では放射性物質は検出されていない。

※4 油処理装置排気口から以下の期間で粒子状物質放出あり。

2024年4月1日から2024年7月1日において、<sup>90</sup>Srが平均で1.0×10<sup>-9</sup>(Bq/cm<sup>3</sup>)で放出あり。

2024年4月10日から2024年4月18日において、<sup>137</sup>Csが平均で9.5×10<sup>-9</sup>(Bq/cm<sup>3</sup>)、全α放射能が平均で4.8×10<sup>-10</sup>(Bq/cm<sup>3</sup>)で放出あり。

2024年4月18日から2024年4月24日において、<sup>137</sup>Csが平均で3.9×10<sup>-8</sup>(Bq/cm<sup>3</sup>)、全α放射能が平均で1.4×10<sup>-9</sup>(Bq/cm<sup>3</sup>)で放出あり。

2024年6月6日から2024年6月13日において、全α放射能が平均で3.7×10<sup>-10</sup>(Bq/cm<sup>3</sup>)で放出あり。

2024年6月26日から2024年7月1日において、<sup>137</sup>Csが平均で9.8×10<sup>-9</sup>(Bq/cm<sup>3</sup>)、全α放射能が平均で5.2×10<sup>-10</sup>(Bq/cm<sup>3</sup>)で放出あり。

2024年7月1日から2024年8月14日において、<sup>90</sup>Srが平均で2.0×10<sup>-9</sup>(Bq/cm<sup>3</sup>)で放出あり。

2024年7月1日から2024年7月11日において、全α放射能が平均で4.6×10<sup>-11</sup>(Bq/cm<sup>3</sup>)で放出あり。

2024年7月11日から2024年7月17日において、<sup>137</sup>Csが平均で5.3×10<sup>-9</sup>(Bq/cm<sup>3</sup>)、全α放射能が平均で4.2×10<sup>-10</sup>(Bq/cm<sup>3</sup>)で放出あり。

2024年7月17日から2024年7月24日において、<sup>137</sup>Csが平均で2.7×10<sup>-8</sup>(Bq/cm<sup>3</sup>)、全α放射能が平均で4.5×10<sup>-10</sup>(Bq/cm<sup>3</sup>)で放出あり。

2024年7月24日から2024年7月31日において、<sup>137</sup>Csが平均で5.2×10<sup>-9</sup>(Bq/cm<sup>3</sup>)で放出あり。

2024年8月7日から2024年8月14日において、<sup>137</sup>Csが平均で3.4×10<sup>-8</sup>(Bq/cm<sup>3</sup>)、全α放射能が平均で3.8×10<sup>-10</sup>(Bq/cm<sup>3</sup>)で放出あり。

2024年10月1日から2024年12月24日において、<sup>90</sup>Srが平均で9.5×10<sup>-9</sup>(Bq/cm<sup>3</sup>)で放出あり。

2025年1月7日から2025年1月8日において、全α放射能が平均で1.4×10<sup>-10</sup>(Bq/cm<sup>3</sup>)で放出あり。

2025年1月30日から2025年2月3日において、<sup>137</sup>Csが平均で7.6×10<sup>-9</sup>(Bq/cm<sup>3</sup>)で放出あり。

油処理装置は運転時間が短いことから分析時間を延長し測定したが、当該期間の<sup>90</sup>Sr測定において「発電用軽水型原子炉施設における放出放射性物質の測定に関する指針」に定める

測定下限濃度4.0×10<sup>-10</sup>(Bq/cm<sup>3</sup>)を満足していないことから検出したものとして放出量を評価した。

## (ウ) 放射性液体廃棄物の放出量

(単位：Bq)

	全核種 ( <sup>3</sup> Hを除く)	核 種 別					
		<sup>51</sup> Cr	<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>131</sup> I	<sup>134</sup> Cs
原子炉施設合計	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
排水口	1号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
	2号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
	3号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
	4号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
別内訳	5号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
	6号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
年間放出管理目標値※1	7.4×10 <sup>10</sup>						

(続き)

	核 種 別	核 種 別				備 考
		<sup>137</sup> Cs	<sup>89</sup> Sr	<sup>90</sup> Sr	ベータ線を放出する放射性物質	
原子炉施設合計	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	・ 1～4号機排水口は、閉塞済み。
排水口	1号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
	2号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
	3号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
	4号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
別内訳	5号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
	6号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
年間放出管理目標値※1		7.4×10 <sup>12※2</sup>				

※1 5号機排水口および6号機排水口の放出管理目標値を示す。

なお、現在、実施計画においては1号機排水口～4号機排水口の放出管理目標値を設定していない。

※2 トリチウムについては、放出管理の年間基準値を記載。

イ 福島第二原子力発電所測定分

(ア) 放射性気体廃棄物の放出量

(単位:Bq)

	全希ガス	$^{131}\text{I}$	$^{133}\text{I}$	全粒子状物質	$^3\text{H}$	備 考
原子炉施設合計	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	$5.2 \times 10^{10}$	
排気筒 別内訳	1号機排気筒	検出されず	検出されず	検出されず	$7.7 \times 10^9$	
	2号機排気筒	検出されず	検出されず	検出されず	$1.2 \times 10^{10}$	放射性気体廃棄物の放出放射エネルギー(Bq)は、排気中の放射性物質の濃度(Bq/cm <sup>3</sup> )に排気量(m <sup>3</sup> )を乗じて求めている。
	3号機排気筒	検出されず	検出されず	検出されず	$1.3 \times 10^{10}$	なお、放射性物質が検出されない場合は、放出放射エネルギー(Bq)の算出は実施せず“検出されず”と表示した。
	4号機排気筒	検出されず	検出されず	検出されず	$1.6 \times 10^{10}$	検出されずとは、以下の濃度未満の場合をいう。 全希ガス: $2 \times 10^{-2}$ (Bq/cm <sup>3</sup> ) $^{131}\text{I}$ : $7 \times 10^{-9}$ (Bq/cm <sup>3</sup> ) $^{133}\text{I}$ : $7 \times 10^{-8}$ (Bq/cm <sup>3</sup> )
	廃棄物処理建屋 換気系排気筒	検出されず	検出されず	検出されず	$3.4 \times 10^9$	全粒子状物質: $4 \times 10^{-9}$ (Bq/cm <sup>3</sup> ) ( $^{60}\text{Co}$ で代表した) $^3\text{H}$ : $4 \times 10^{-5}$ (Bq/cm <sup>3</sup> )
サイトベンカ建屋排気口	――	――	――	検出されず	――	
焼却設備排気筒	――	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	
年間放出管理目標値	――	――	――	――	――	

(イ) 放射性液体廃棄物の放出量

(単位:Bq)

		全核種 ( <sup>3</sup> Hを除く)	核 種 別							
			<sup>51</sup> Cr	<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>131</sup> I	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs
原子炉施設合計		検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	放出されず	放出されず	放出されず	放出されず
	排水口 別内訳	1号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
2号機排水口		検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	
3号機排水口		放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
4号機排水口		放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
年間放出管理目標値		1.2×10 <sup>9</sup>								

(続き)

	核 種 別				<sup>3</sup> H	備 考
	<sup>89</sup> Sr	<sup>90</sup> Sr	アルファ線を放出する 放射性物質	ベータ線を放出する 放射性物質		
原子炉施設 排水口 別内訳	原子炉施設合計	検出されず	検出されず	検出されず	3.3×10 <sup>10</sup>	放射性液体廃棄物の放出放射エネルギー(Bq)は、排水中の放射性物質の濃度(Bq/cm <sup>3</sup> )に排水量(m <sup>3</sup> )を乗じて求めている。  なお、放射性物質が検出されない場合は、放出放射エネルギー(Bq)の算出は実施せず”検出されず”と表示した。  検出されずとは、以下の濃度未満の場合をいう。  全核種(3Hを除く):2×10 <sup>-2</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> ) ( <sup>60</sup> Coで代表した) <sup>89</sup> Sr、 <sup>90</sup> Sr:7×10 <sup>-4</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> ) ( <sup>90</sup> Srで代表した) アルファ線を放出する放射性物質:4×10 <sup>-3</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> ) ベータ線を放出する放射性物質:4×10 <sup>-2</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> )
	1号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
	2号機排水口	検出されず	検出されず	検出されず	3.3×10 <sup>10</sup>	
	3号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
	4号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
年間放出管理目標値					1.4×10 <sup>11</sup> ※	

※トリチウムについては、放出管理の年間基準値を記載。

## 4-2 試料採取時の付帯データ集

### 4-2-(1) 東京電力ホールディングス㈱福島第一原子力発電所測定分

ア 環境試料

(ア) 海水

採取地点名	採取年月日	気温(℃)	水温(℃)	pH	Cl- (‰)
第一 ( 発 ) 取水口	R6. 5. 22	23. 8	16. 8	8. 0	19. 1
	R6. 8. 6	26. 8	26. 1	8. 0	18. 9
	R6. 11. 14	12. 0	16. 0	8. 2	18. 8
	R7. 2. 5	3. 0	11. 0	8. 2	19. 4
第一 ( 発 ) 南放水口	R6. 5. 22	19. 2	17. 0	8. 1	18. 8
	R6. 8. 6	32. 0	24. 3	8. 1	18. 8
	R6. 11. 14	14. 5	16. 8	8. 2	17. 1
	R7. 2. 5	2. 0	10. 9	8. 2	19. 1
第一 ( 発 ) 北放水口	R6. 5. 22	19. 6	16. 8	8. 0	18. 6
	R6. 8. 6	29. 5	26. 0	8. 0	18. 8
	R6. 11. 14	13. 0	18. 8	8. 2	18. 9
	R7. 2. 5	4. 8	10. 2	8. 2	19. 3

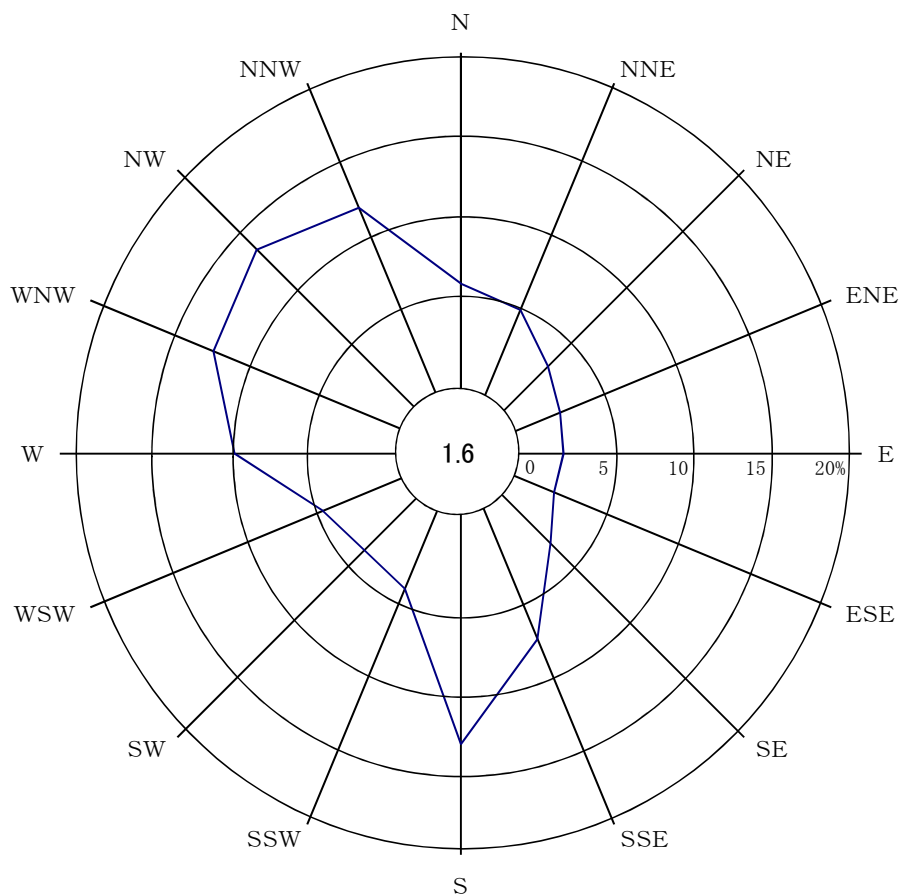
イ 気象測定結果

(ア) 風向, 風速, 気温, 降雨雪量, 大気安定度の月別記録

測定項目 測定年月	風向※ (最多)	風速(m/sec) ※		気 温(℃)			降 雨 雪		大 気 安定度 (最多)
		最大値	平均値	最高値	最低値	平均値	量(mm)	日 数	
令和6年 4月	S	18.3	4.7	24.7	4.1	14.7	85.0	9	D
5月	S	16.9	5.9	29.3	8.1	18.1	123.5	10	D
6月	S	16.1	5.0	32.2	14.6	21.4	29.5	7	D
7月	S	16.9	3.3	38.2	19.5	26.5	81.5	15	D
8月	S	19.1	5.1	33.9	23.1	27.2	77.0	8	D
9月	NNW	14.6	4.2	35.4	16.5	24.2	126.5	14	D
10月	NW	16.1	4.0	29.0	6.2	18.1	180.0	15	D
11月	NW	14.4	4.4	25.6	-0.3	11.5	91.0	9	D
12月	W	14.5	4.8	20.7	-4.5	5.3	1.0	1	F
令和7年 1月	W	16.1	5.1	12.6	-3.8	4.1	16.0	5	F
2月	W	16.7	5.1	15.5	-6.3	3.0	1.5	2	F
3月	WNW	17.8	4.5	23.3	-4.4	7.5	128.5	9	D

※ 風向・風速は排気筒高さでの測定値を示す。

(イ) 風 配 図



(注) 小円内の数字は静穏の頻度(%)

#### 4-2-(2) 東京電力ホールディングス㈱福島第二原子力発電所測定分

ア 環境試料

(ア) 海水

採取地点名	採取年月日	気温 (°C)	水温 (°C)	pH	Cl <sup>-</sup> (‰)
第二 ( 発 ) 取水口	R6. 5. 17	21. 6	15. 4	8. 2	18. 8
	R6. 8. 9	26. 6	25. 2	8. 1	18. 8
	R6. 11. 21	16. 5	19. 3	8. 2	18. 8
	R7. 2. 14	5. 8	10. 7	8. 1	19. 1
第二 ( 発 ) 南放水口	R6. 5. 17	25. 0	15. 9	8. 2	18. 6
	R6. 8. 9	31. 2	27. 5	8. 1	18. 9
	R6. 11. 21	14. 1	19. 6	8. 2	18. 9
	R7. 2. 14	8. 8	10. 7	8. 2	19. 1
第二 ( 発 ) 北放水口	R6. 5. 17	23. 6	15. 7	8. 1	18. 8
	R6. 8. 9	27. 6	26. 6	8. 1	18. 7
	R6. 11. 21	18. 9	18. 4	8. 2	19. 0
	R7. 2. 14	7. 8	10. 8	8. 1	19. 1



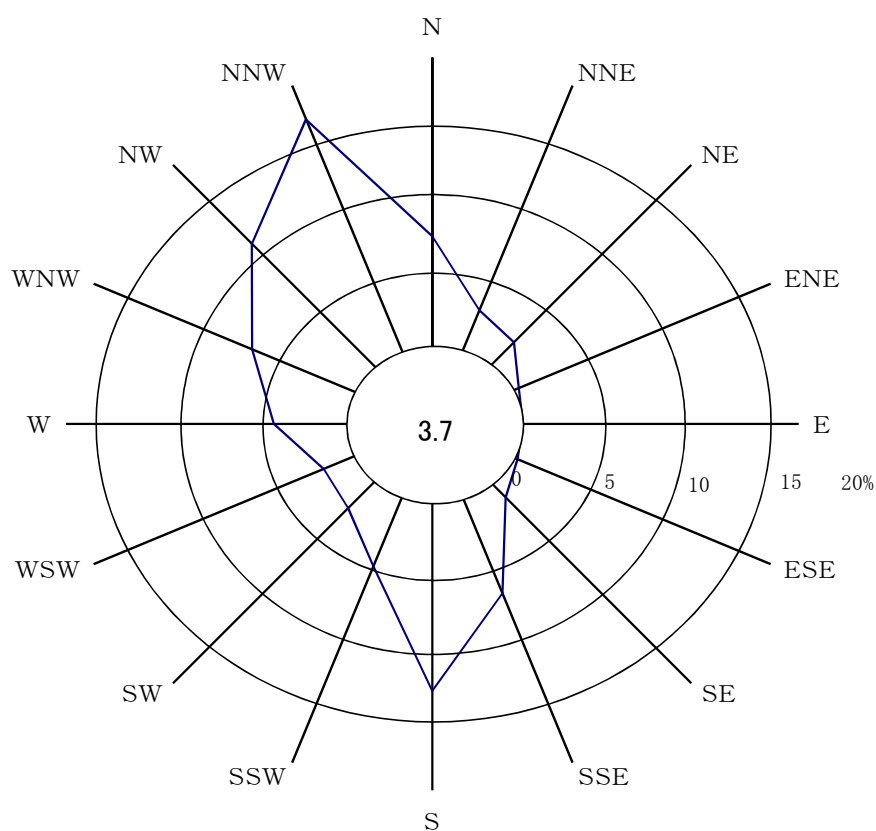
イ 気象測定結果

(ア) 風向, 風速, 気温, 降雨雪量, 大気安定度の月別記録

測定年月	測定項目 風向※ (最多)	風速(m/sec) ※		気 温(℃)			降 雨 雪		大 気 安 定 度 (最多)
		最大値	平均値	最高値	最低値	平均値	量(mm)	日 数	
令和6年 4月	NNW	8.9	4.0	24.1	1.2	14.0	103.5	8	D
5月	S	9.5	5.3	27.5	6.9	17.0	144.0	11	D
6月	S	7.9	4.5	30.5	12.6	20.2	44.5	9	D
7月	S	5.1	2.9	35.0	18.0	25.1	114.0	13	D
8月	S	9.2	4.6	30.1	21.3	25.7	98.0	9	D
9月	NNW	7.1	3.9	32.9	15.5	23.2	132.0	16	D
10月	NNW	7.4	4.5	27.9	7.2	18.3	160.0	14	D
11月	NW	6.7	4.4	25.7	1.4	12.1	108.0	8	D
12月	W	9.2	4.9	20.2	-2.0	6.0	0.0	0	D
令和7年 1月	NNW	9.3	5.2	13.5	-3.0	4.9	19.0	4	D
2月	WNW	8.7	5.3	15.2	-5.2	3.8	0.0	0	D
3月	NNW	9.5	5.6	22.9	-3.4	7.9	135.0	11	D

※ 風向・風速は排気筒高さでの測定値を示す。

(イ) 風 配 図



(注) 小円内の数字は静穏の頻度(%)

4-3 環境試料測定日  
4-3-1 東京電力ホールディングス（株）福島第一原子力発電所測定分

試料名	採取地点名	採取年月日	測定年月日	
			全α・β 放射能	γ
大気浮遊じん	MP-3	R6. 4. 1～R6. 4. 30	連続	R6. 5. 20
		R6. 5. 1～R6. 5. 31	連続	R6. 6. 20
		R6. 6. 1～R6. 6. 30	連続	R6. 7. 16
		R6. 7. 1～R6. 7. 31	連続	R6. 8. 19
		R6. 8. 1～R6. 8. 31	連続	R6. 9. 19
		R6. 9. 1～R6. 9. 30	連続	R6. 10. 24
		R6. 10. 1～R6. 10. 31	連続	R6. 11. 18
		R6. 11. 1～R6. 11. 30	連続	R6. 12. 16
	MP-8	R6. 12. 1～R6. 12. 31	連続	R7. 2. 5
		R7. 1. 1～R7. 1. 31	連続	R7. 2. 24
		R7. 2. 1～R7. 2. 28	連続	R7. 3. 16
		R7. 3. 1～R7. 3. 31	連続	R7. 4. 22
		R6. 4. 1～R6. 4. 30	連続	R6. 5. 20
		R6. 5. 1～R6. 5. 31	連続	R6. 6. 25
		R6. 6. 1～R6. 6. 30	連続	R6. 7. 15
		R6. 7. 1～R6. 7. 31	連続	R6. 8. 20
		R6. 8. 1～R6. 8. 31	連続	R6. 9. 25
		R6. 9. 1～R6. 9. 30	連続	R6. 10. 25
		R6. 10. 1～R6. 10. 31	連続	R6. 11. 14
		R6. 11. 1～R6. 11. 30	連続	R6. 12. 12
		R6. 12. 1～R6. 12. 31	連続	R7. 1. 31
		R7. 1. 1～R7. 1. 31	連続	R7. 2. 15
		R7. 2. 1～R7. 2. 28	連続	R7. 3. 19
		R7. 3. 1～R7. 3. 31	連続	R7. 4. 18

(注) 「/」は測定対象外。

試料名	採取地点名	採取年月日	測定年月日						
			γ	<sup>3</sup> H	<sup>90</sup> Sr	<sup>238</sup> Pu	<sup>239+240</sup> Pu	<sup>241</sup> Am	<sup>244</sup> Cm
土	敷地内	R6. 5. 30	R6. 6. 18		R6. 7. 22	R6. 10. 8	R6. 10. 8	R6. 10. 17	
		R6. 11. 12	R6. 11. 21						
	大熊町の野上	R6. 5. 30	R6. 6. 18		R6. 7. 22	R6. 10. 8	R6. 10. 8	R6. 10. 17	
		R6. 11. 12	R6. 11. 21						
	大熊町の熊川	R6. 5. 30	R6. 6. 18		R6. 7. 22	R6. 10. 8	R6. 10. 8	R6. 10. 17	
		R6. 11. 12	R6. 11. 25						
海	双葉町の郡山	R6. 5. 30	R6. 6. 18		R6. 7. 22	R6. 10. 8	R6. 10. 8	R6. 10. 17	
		R6. 11. 12	R6. 11. 21						
	取水口	R6. 5. 22	R6. 7. 4	R6. 6. 8	R6. 7. 22				
		R6. 8. 6	R6. 9. 7	R6. 8. 16					
		R6. 11. 14	R6. 12. 11	R6. 11. 23					
		R7. 2. 5	R7. 3. 4	R7. 2. 14					
海水	南放水口	R6. 5. 22	R6. 7. 3	R6. 6. 9	R6. 7. 22				
		R6. 8. 6	R6. 9. 4	R6. 8. 17					
		R6. 11. 14	R6. 12. 19	R6. 11. 24					
		R7. 2. 5	R7. 3. 15	R7. 2. 15					
	北放水口	R6. 5. 22	R6. 7. 4	R6. 6. 8	R6. 7. 22				
		R6. 8. 6	R6. 9. 6	R6. 8. 16					
海底土	南放水口	R6. 11. 14	R6. 11. 27	R6. 11. 23					
		R7. 2. 5	R7. 3. 14	R7. 2. 14					
		R6. 5. 22	R6. 6. 12	R6. 7. 16					
		R6. 8. 6	R6. 8. 22						
	北放水口	R6. 11. 14	R6. 11. 21						
		R7. 2. 5	R7. 2. 26						
松	M P ー 3 付近環境管理棟付近港	R6. 5. 22	R6. 6. 11	R6. 7. 16					
		R6. 8. 6	R6. 8. 20						
		R6. 11. 14	R6. 11. 26						
松	M P ー 3 付近環境管理棟付近港	R7. 2. 5	R7. 2. 26						
		R6. 11. 22	R6. 12. 10						
松	M P ー 3 付近環境管理棟付近港	R6. 11. 22	R6. 12. 3						
		R6. 5. 23	R6. 6. 14						

(注) 「/」は測定対象外。

4-3-2 東京電力ホールディングス(株) 福島第二原子力発電所測定分

試料名	採取地点名	採取年月日	測定年月日		
			全放	$\alpha \cdot \beta$ 射能	$\gamma$
大気 浮遊じん	M P - 1	R6. 4. 1～R6. 4. 30	連続	R6. 5. 21	
		R6. 5. 1～R6. 5. 31	連続	R6. 6. 25	
		R6. 6. 1～R6. 6. 30	連続	R6. 7. 24	
		R6. 7. 1～R6. 7. 31	連続	R6. 8. 22	
		R6. 8. 1～R6. 8. 31	連続	R6. 9. 17	
		R6. 9. 1～R6. 9. 30	連続	R6. 10. 17	
		R6. 10. 1～R6. 10. 31	連続	R6. 11. 28	
		R6. 11. 1～R6. 11. 30	連続	R6. 12. 17	
		R6. 12. 1～R6. 12. 31	連続	R7. 1. 23	
		R7. 1. 1～R7. 1. 31	連続	R7. 2. 27	
		R7. 2. 1～R7. 2. 28	連続	R7. 3. 27	
		R7. 3. 1～R7. 3. 31	連続	R7. 4. 24	
	M P - 7	R6. 4. 1～R6. 4. 30	連続	R6. 5. 21	
		R6. 5. 1～R6. 5. 31	連続	R6. 7. 2	
		R6. 6. 1～R6. 6. 30	連続	R6. 7. 24	
		R6. 7. 1～R6. 7. 31	連続	R6. 8. 21	
		R6. 8. 1～R6. 8. 31	連続	R6. 9. 18	
		R6. 9. 1～R6. 9. 30	連続	R6. 10. 21	
		R6. 10. 1～R6. 10. 31	連続	R6. 12. 9	
		R6. 11. 1～R6. 11. 30	連続	R6. 12. 19	
		R6. 12. 1～R6. 12. 31	連続	R7. 1. 29	
		R7. 1. 1～R7. 1. 31	連続	R7. 2. 28	
		R7. 2. 1～R7. 2. 28	連続	R7. 3. 29	
		R7. 3. 1～R7. 3. 31	連続	R7. 4. 27	

(注)「/」:測定対象外核種

試料名	採取地点名	採取年月日	測定年月日						
			$\gamma$	$^3\text{H}$	$^{90}\text{Sr}$	$^{238}\text{Pu}$	$^{239+240}\text{Pu}$	$^{241}\text{Am}$	$^{244}\text{Cm}$
土壌	敷地内	R6. 5.15 R6.11.13	R6. 6. 5 R7. 1. 2		R6. 7.16	R6.10. 2	R6.10. 2	R6.10. 2	R6.10. 9 R6.10. 9
	植葉町波倉	R6. 5.15 R6.11.13	R6. 6. 5 R6.12.31		R6. 7.16	R6.10. 2	R6.10. 2	R6.10. 2	R6.10. 9 R6.10. 9
	富岡町小浜	R6. 5.15 R6.11.13	R6. 6. 5 R6.12.26		R6. 7.16	R6.10. 2	R6.10. 2	R6.10. 2	R6.10. 9 R6.10. 9
	富岡町下郡山	R6. 5.15 R6.11.13	R6. 6. 6 R6.12.26		R6. 7.16	R6.10. 2	R6.10. 2	R6.10. 2	R6.10. 9 R6.10. 9
	取水口	取水口	R6. 5.17	R6. 7. 1	R6. 6.12				
			R6. 8. 9	R6. 9.16	R6. 8.29				
R6.11.21			R7. 1. 6	R6.12. 6					
R7. 2.14			R7. 3.24	R7. 3. 1					
海水	南放水口	R6. 5.17	R6. 7. 2	R6. 6.13	R6. 7.18				
		R6. 8. 9	R6. 9.24	R6. 8.30					
		R6.11.21	R7. 1. 1	R6.12. 7					
	北放水口	R7. 2.14	R7. 3.24	R7. 3. 2					
		R6. 5.17	R6. 6.26	R6. 6.12	R6. 7.18				
		R6. 8. 9	R6. 9.19	R6. 8.29					
海底	南放水口	R6.11.21	R6.12.23	R6.12. 6					
		R7. 2.14	R7. 3.23	R7. 3. 1					
		R6. 5.17	R6. 6. 4	R6. 7.18					
	北放水口	R6. 8. 9	R6. 8.24						
		R6.11.21	R7. 1.15						
		R7. 2.14	R7. 3.25						
松葉	敷地の南境界付近 敷地の北境界付近	R6. 5.17	R6. 5.30	R6. 7.18					
		R6. 8. 9	R6. 8.26						
		R6.11.21	R7. 1.14						
		R7. 2.14	R7. 3.27						
ほんだわら	敷地の南境界付近 敷地の北境界付近	R6.11.14	R6.11.28						
		R6.11.14	R6.12.13						
		R6. 5. 22	R6. 6.27						

4-4 環境試料の核種濃度の検出限界について  
4-4-1 東京電力ホールディングス（株）福島第一原子力発電所測定分

区分名	試料名 (部位)	単位	測定容器	前処理方法	測定時間	<sup>51</sup> Cr	<sup>54</sup> Mn	<sup>58</sup> Co	<sup>59</sup> Fe	<sup>60</sup> Co	<sup>95</sup> Zr	<sup>95</sup> Nb	<sup>106</sup> Ru	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>144</sup> Ce	<sup>3</sup> H	<sup>131</sup> I	<sup>90</sup> Sr	<sup>238</sup> Pu	<sup>239+240</sup> Pu	<sup>241</sup> Am	<sup>244</sup> Cm	<sup>40</sup> K
大気浮遊じん	大気浮遊じん	mBq/m <sup>3</sup>	U8容器	1ヶ月分	80,000秒	0.40	0.008	0.011	0.025	0.008	0.023	0.013	0.11	0.011	0.013	0.09	/	/	/	/	/	/	/	/
					1,000秒	1,600	19	26	54	23	51	26	1,100	32	110	700	/	/	/	/	/	/	/	210
土壌	土壌	Bq/kg乾土	U8容器	乾土	3,600秒	560	7.6	7.0	17.0	6.5	16	8.8	320	11	32	210	/	/	0.22	0.014	0.014	0.012	0.012	65
					80,000秒	/	0.002	0.002	0.005	0.002	0.004	0.004	0.016	0.002	0.002	0.017	0.42	/	0.0006	/	/	/	/	/
海底土	海底土	Bq/kg乾土	U8容器	乾土	80,000秒	12	0.61	0.74	1.4	0.58	1.4	1.11	6.0	0.83	0.77	6.0	/	/	0.22	/	/	/	/	5.9
					10,000秒	68	5.4	4.9	9.7	5.6	8.5	5.6	39	6.7	4.8	34	/	28	/	/	/	/	/	67
松	葉	Bq/kg生	U8容器	生	80,000秒	2.6	0.21	0.22	0.58	0.23	0.46	0.27	1.6	0.25	0.19	1.2	/	/	/	/	/	/	/	1.9

(注) 1. 「/」は対象核種外である。  
2. 検出限界値については、令和5年度の値の中で最も高い数値を掲げた。

# 4-4-2 東京電力ホールディングス㈱福島第二原子力発電所測定分

福島第二原子力発電所

区分名	試料名 (部位)	単位	測定容器	前処理方法	測定時間	<sup>51</sup> Cr	<sup>54</sup> Mn	<sup>58</sup> Co	<sup>59</sup> Fe	<sup>60</sup> Co	<sup>95</sup> Zr	<sup>95</sup> Nb	<sup>106</sup> Ru	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>144</sup> Ce	<sup>3</sup> H	<sup>131</sup> I	<sup>90</sup> Sr	<sup>238</sup> Pu	<sup>239+240</sup> Pu	<sup>241</sup> Am	<sup>244</sup> Cm	<sup>40</sup> K
大気浮遊じん	大気浮遊じん	mBq/m <sup>3</sup>	U8容器	1ヶ月分	80,000秒	0.24	0.008	0.015	0.025	0.008	0.024	0.018	0.075	0.010	0.009	0.074	/	/	/	/	/	/	/	/
土壌	表土	Bq/kg乾	U8容器	乾	3,600秒	180	3.6	4.1	9.2	3.4	8.4	5.5	60	3.6	6.4	48	/	/	0.26	0.012	0.012	0.012	0.012	29
海水	表面水	Bq/L	U8容器	生	80,000秒	/	0.002	0.002	0.005	0.002	0.004	0.003	0.015	0.002	0.002	0.017	0.49	/	0.0005	/	/	/	/	/
海底土	海砂または 海底土	Bq/kg乾	U8容器	乾	80,000秒	22	0.68	0.96	2.7	0.69	2.1	1.7	6.6	0.94	0.80	6.4	/	/	0.21	/	/	/	/	7.5
松葉	葉	Bq/kg生	U8容器	生	10,000秒	78	4.6	5.7	12	6.0	8.8	6.2	41	5.4	4.1	35	/	55	/	/	/	/	/	66
ほんだわら	葉茎	Bq/kg生	U8容器	生	80,000秒	3.0	0.17	0.20	0.59	0.18	0.45	0.28	1.3	0.20	0.41	2.2	/	/	/	/	/	/	/	1.4

(注) 1 「/」は対象外移種である。

2 検出限界については、令和6年度の値の中で、最も高い数値を掲げた。

## 4-5 空間線量率等の変動グラフ

### 令和6年度

東京電力ホールディングス株式会社

福島第一廃炉推進カンパニー

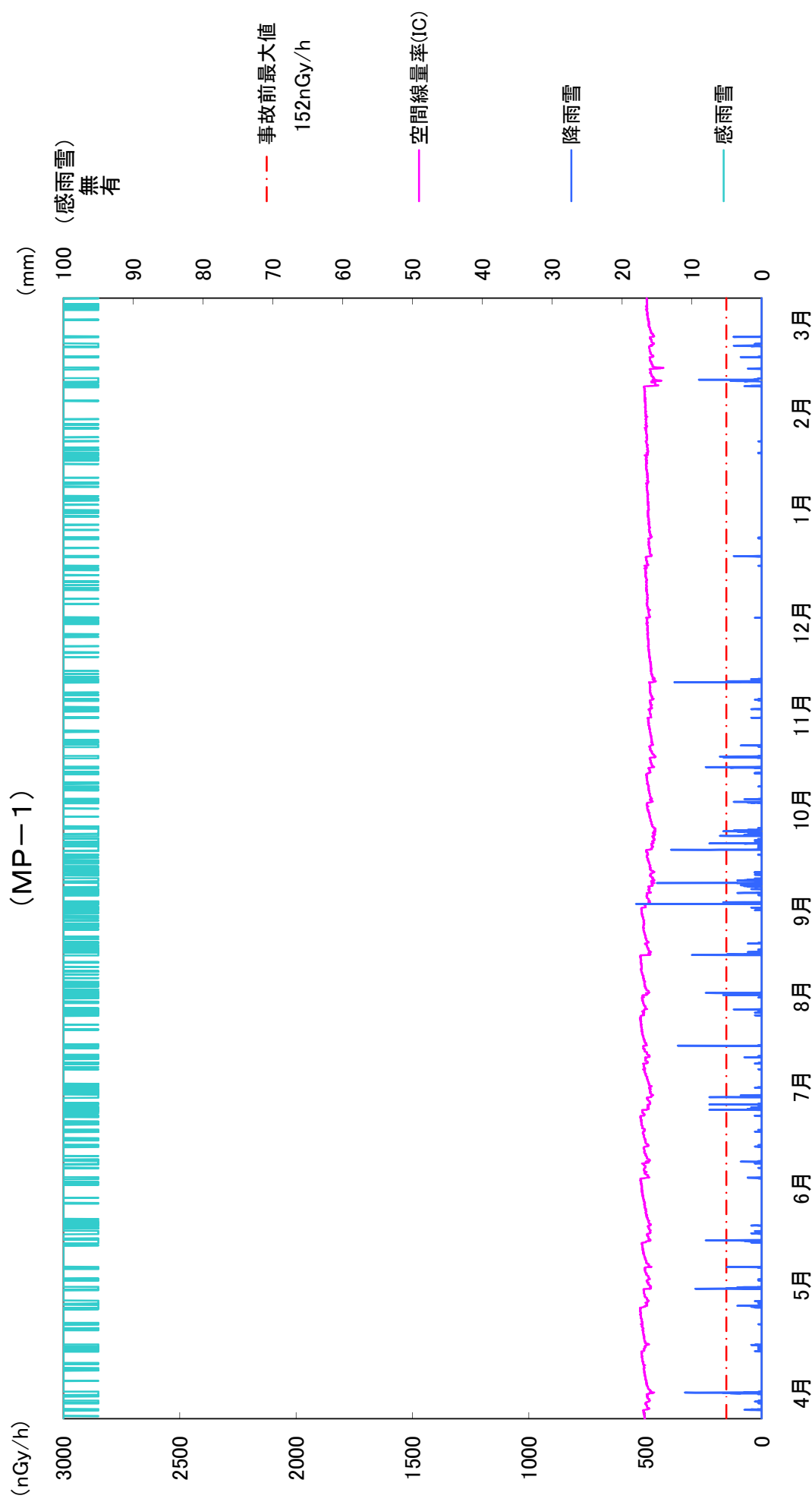
福島第一原子力発電所

福島第二原子力発電所

## 目次

空間線量率		大気浮遊じん（推移）	
1	福島第一原子力発電所 MP-1	1	福島第一原子力発電所 MP-3
2	福島第一原子力発電所 MP-2	2	福島第一原子力発電所 MP-8
3	福島第一原子力発電所 MP-3	3	福島第二原子力発電所 MP-1
4	福島第一原子力発電所 MP-4	4	福島第二原子力発電所 MP-7
5	福島第一原子力発電所 MP-5		
6	福島第一原子力発電所 MP-6		
7	福島第一原子力発電所 MP-7		
8	福島第一原子力発電所 MP-8		
9	福島第二原子力発電所 MP-1		
10	福島第二原子力発電所 MP-2		
11	福島第二原子力発電所 MP-3		
12	福島第二原子力発電所 MP-4		
13	福島第二原子力発電所 MP-5		
14	福島第二原子力発電所 MP-6		
15	福島第二原子力発電所 MP-7		

# 空間線量率の変動グラフ

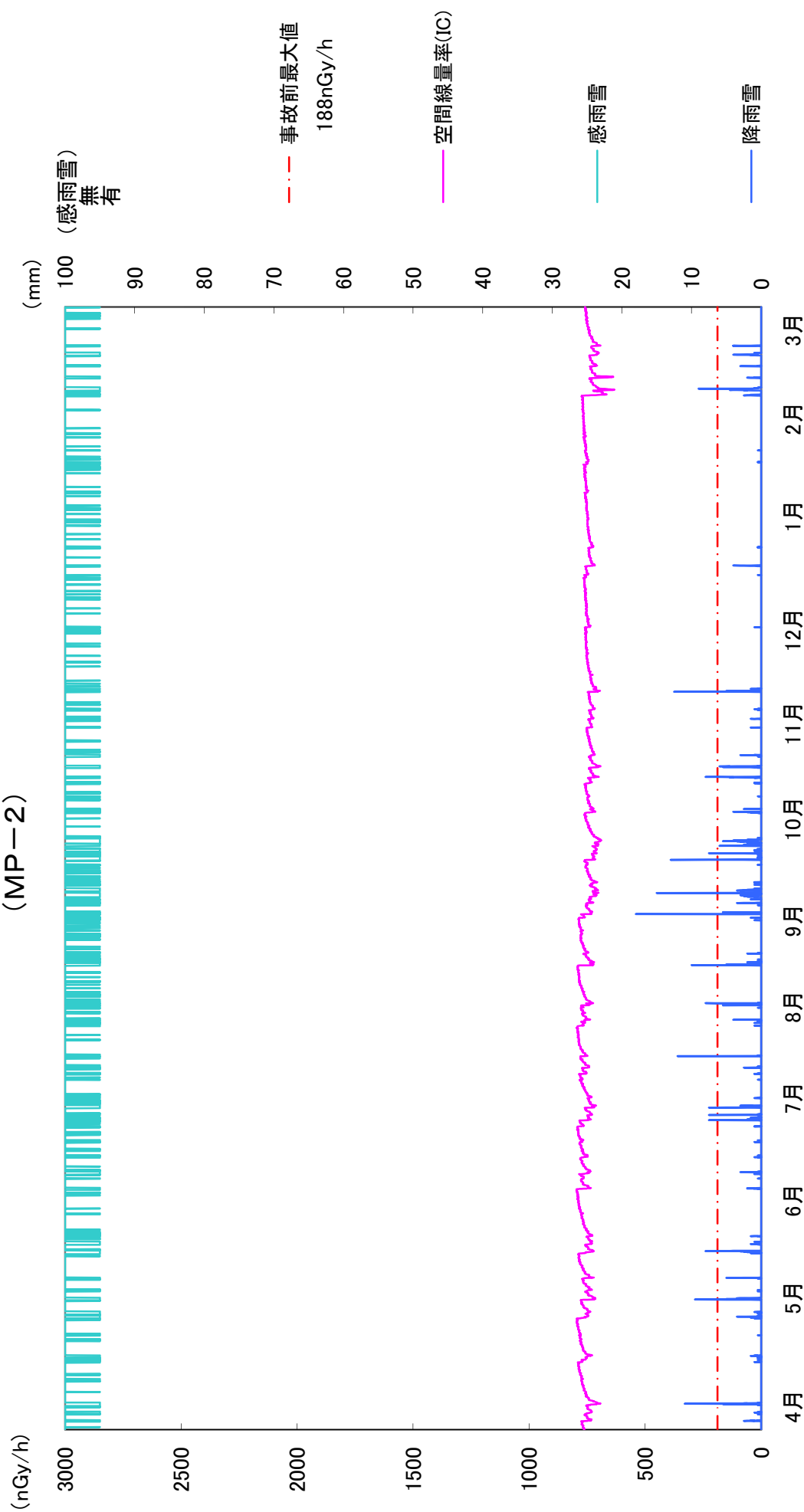


点検及び定期保守作業に伴う欠測:6月6日, 8月26日  
 欠測時には, 代替測定器にて測定し, 指示値に異常がないことを確認している。  
 周辺環境線量率のバックグラウンドが事故の影響で上昇したことにより, 測定を電離箱式検出器(IC)にて行っている。



# 空間線量率の変動グラフ

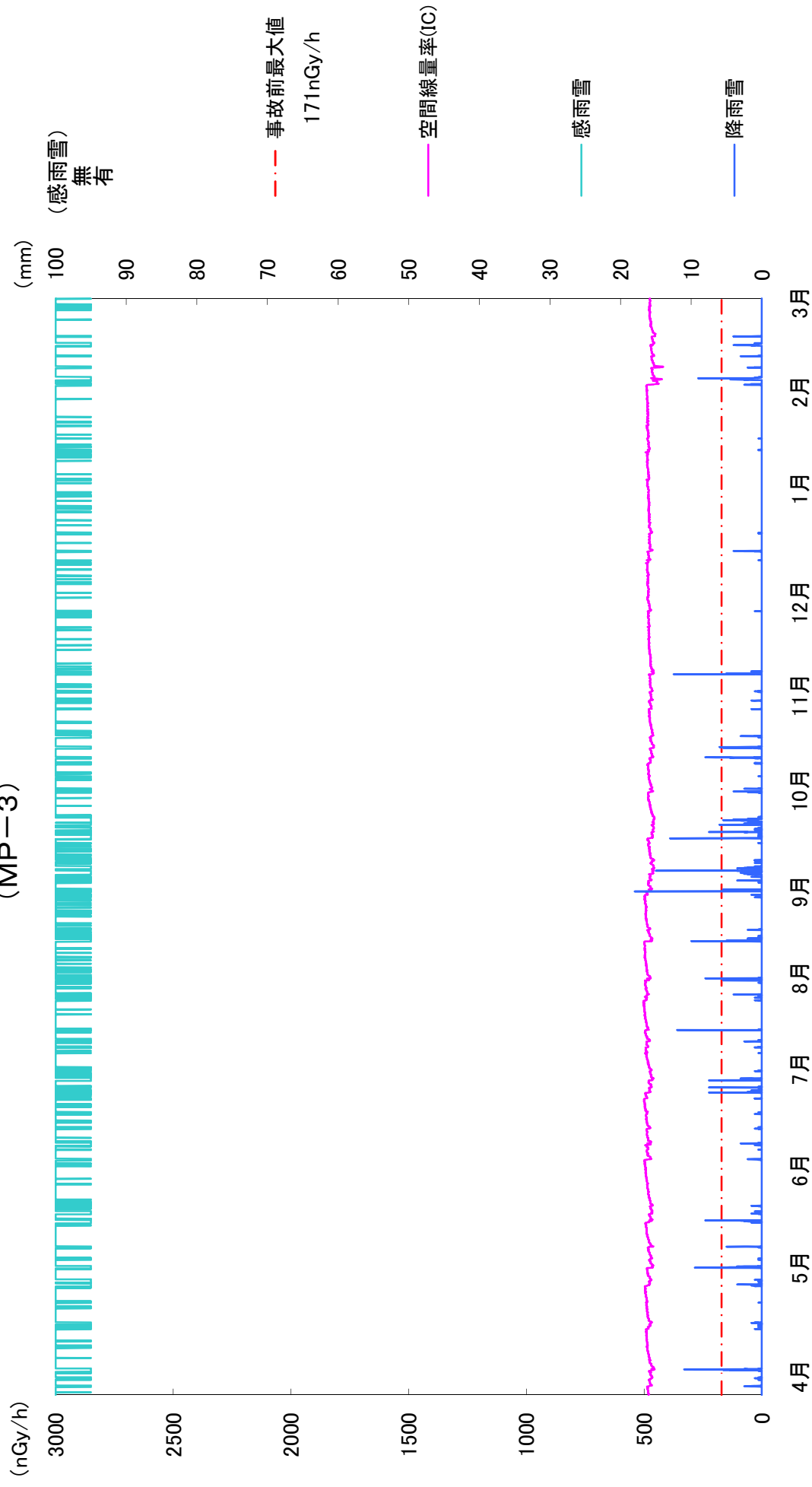
(MP-2)



点検及び定期保守作業に伴う欠測: 6月10日, 8月29日  
 欠測時には, 代替測定器にて測定し, 指示値に異常がないことを確認している。  
 周辺環境線量率のバックグラウンドが事故の影響で上昇したことにより, 測定を電離箱式検出器(IC)にて行っている。

# 空間線量率の変動グラフ

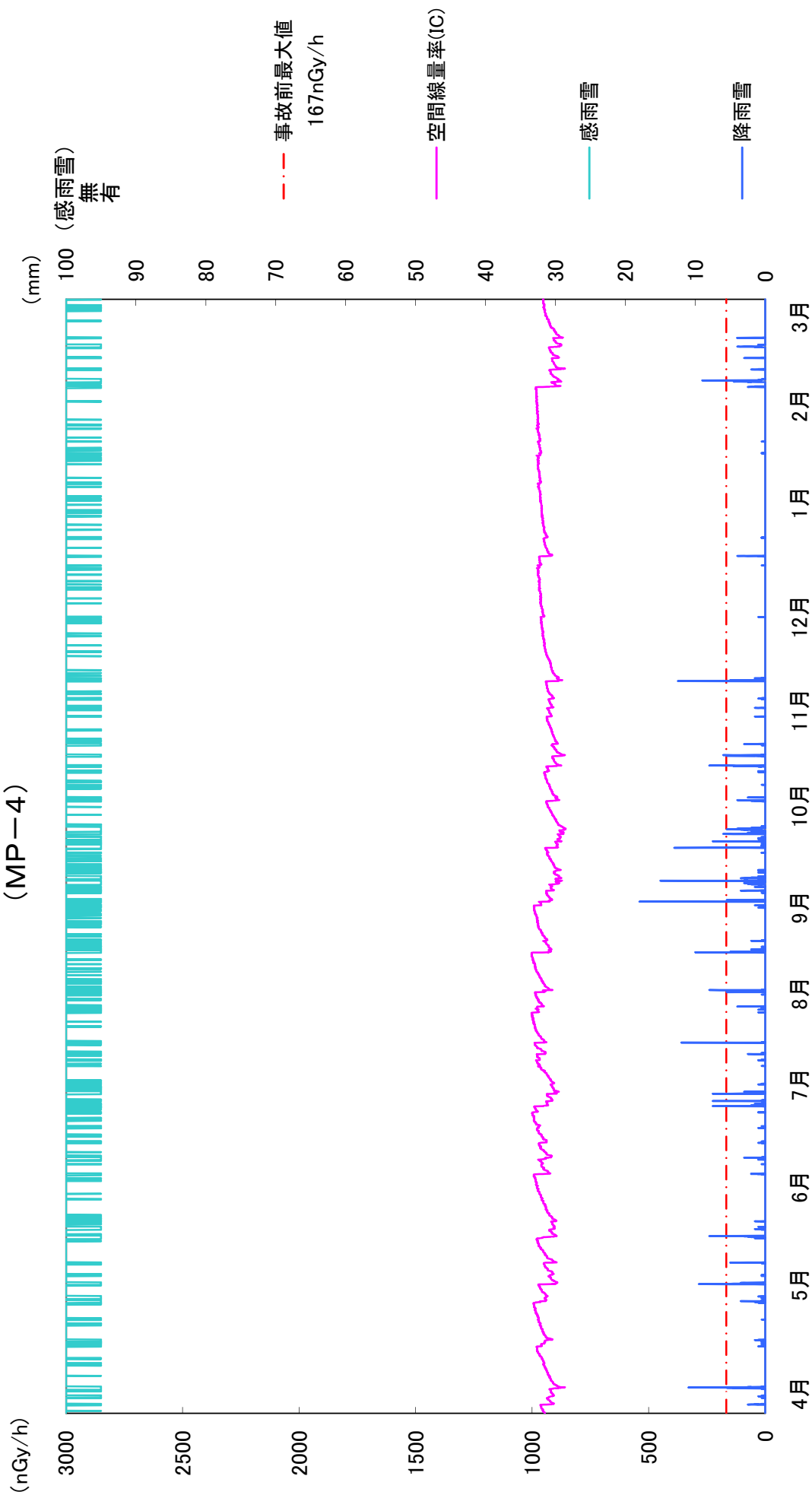
(MP-3)



点検及び定期保守作業に伴う欠測: 5月8日, 7月3日  
 欠測時には、代替測定器にて測定し、指示値に異常がないことを確認している。  
 周辺環境線量率のバックグラウンドが事故の影響で上昇したことにより、測定を電離箱式検出器(IC)にて行っている。

# 空間線量率の変動グラフ

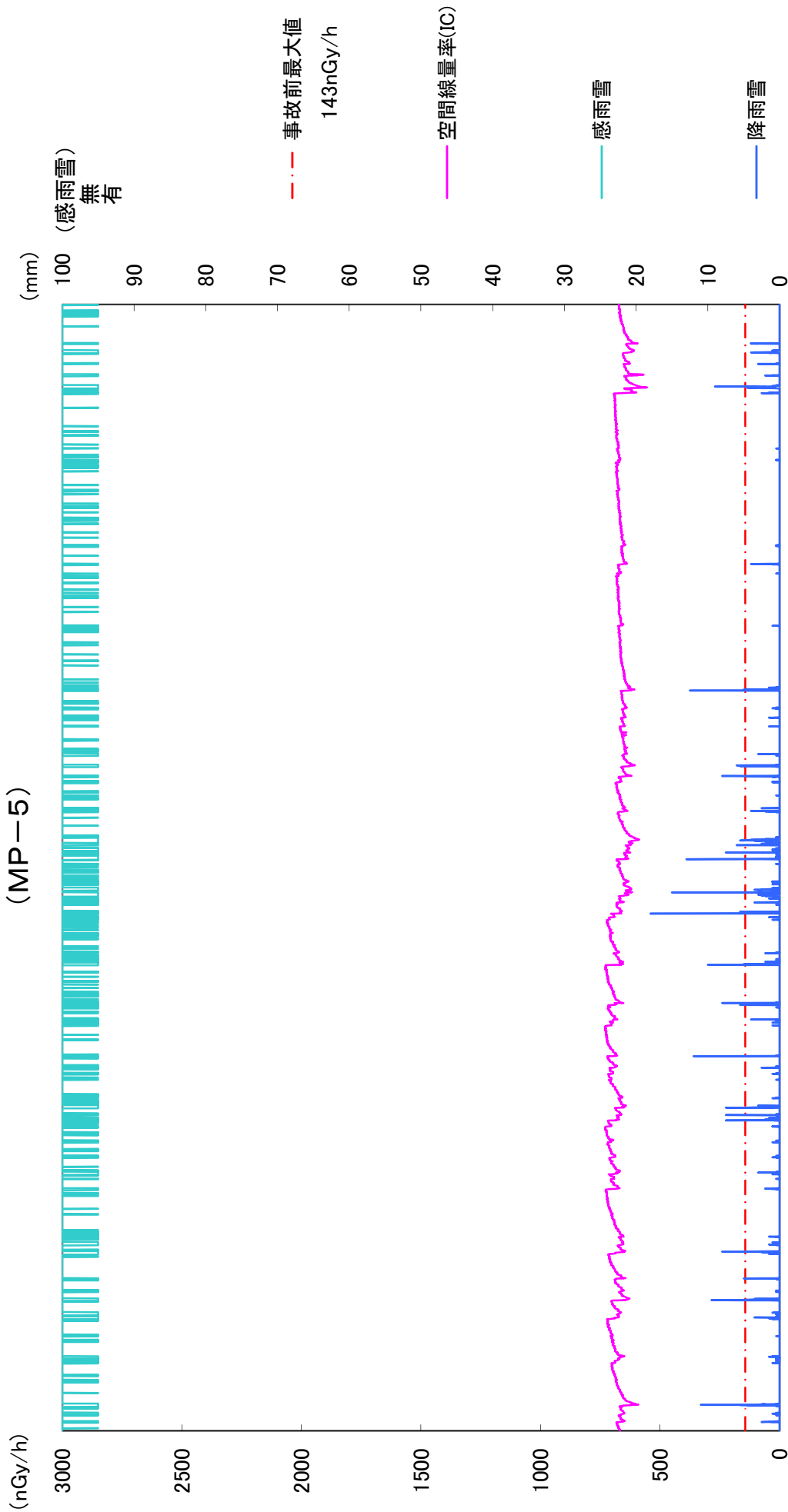
(MP-4)



点検及び定期保守作業に伴う欠測: 5月16日, 7月5日  
 欠測時には, 代替測定器にて測定し, 指示値に異常がないことを確認している。  
 周辺環境線量率のバックグラウンドが事故の影響で上昇したことにより, 測定を電離箱式検出器(IC)にて行っている。

# 空間線量率の変動グラフ

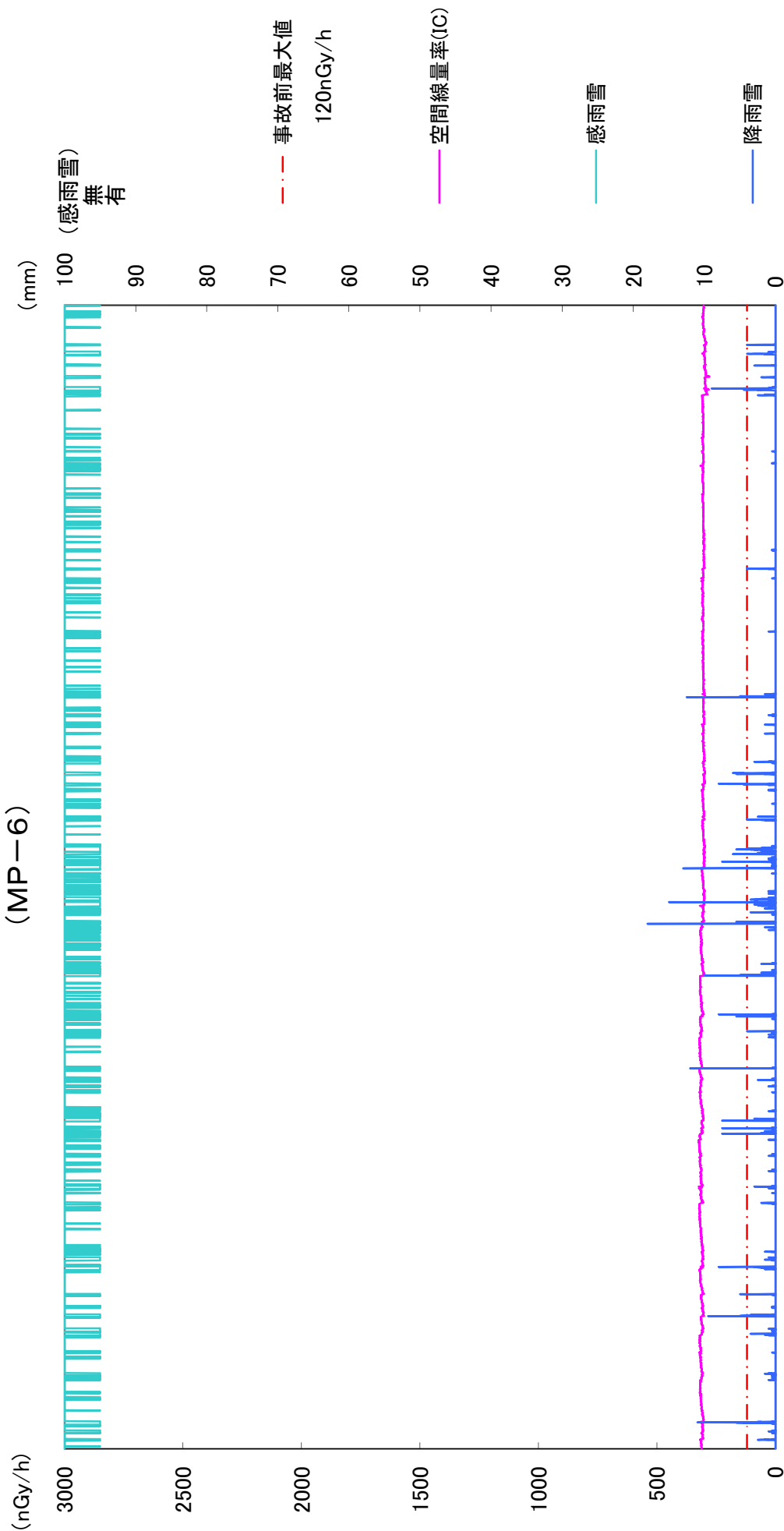
(MP-5)



点検及び定期保守作業に伴う欠測: 5月17日, 7月10日  
 欠測時には, 代替測定器にて測定し, 指示値に異常がないことを確認している。  
 周辺環境線量率のバックグラウンドが事故の影響で上昇したことにより, 測定を電離箱式検出器(IC)に行っている。

# 空間線量率の変動グラフ

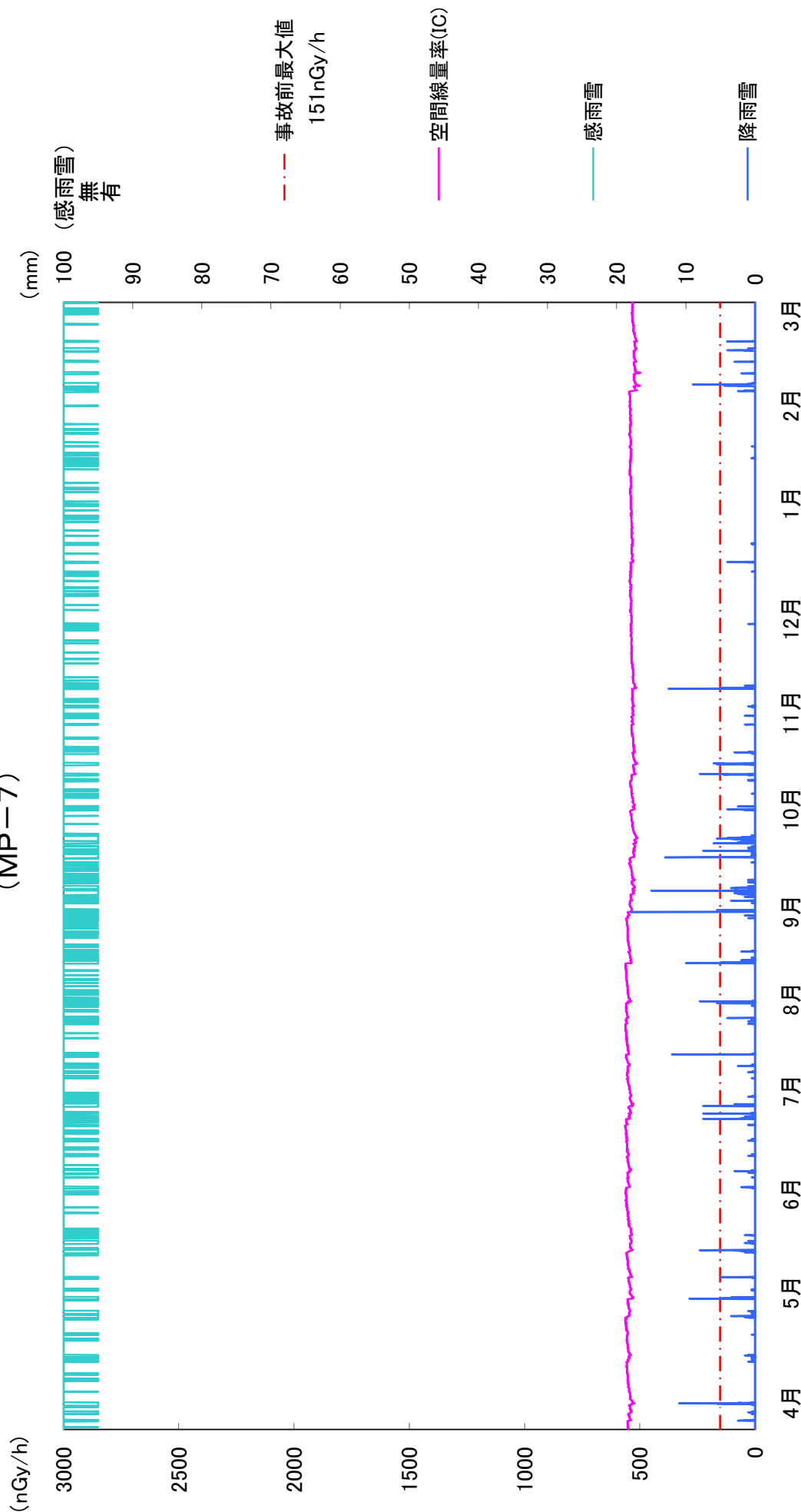
(MP-6)



点検及び定期保守作業に伴う欠測:5月22日, 8月8日  
 欠測時には, 代替測定器にて測定し, 指示値に異常がないことを確認している。  
 周辺環境線量率のバックグラウンドが事故の影響で上昇したことにより, 測定を電離箱式検出器(IC)にて行っている。

# 空間線量率の変動グラフ

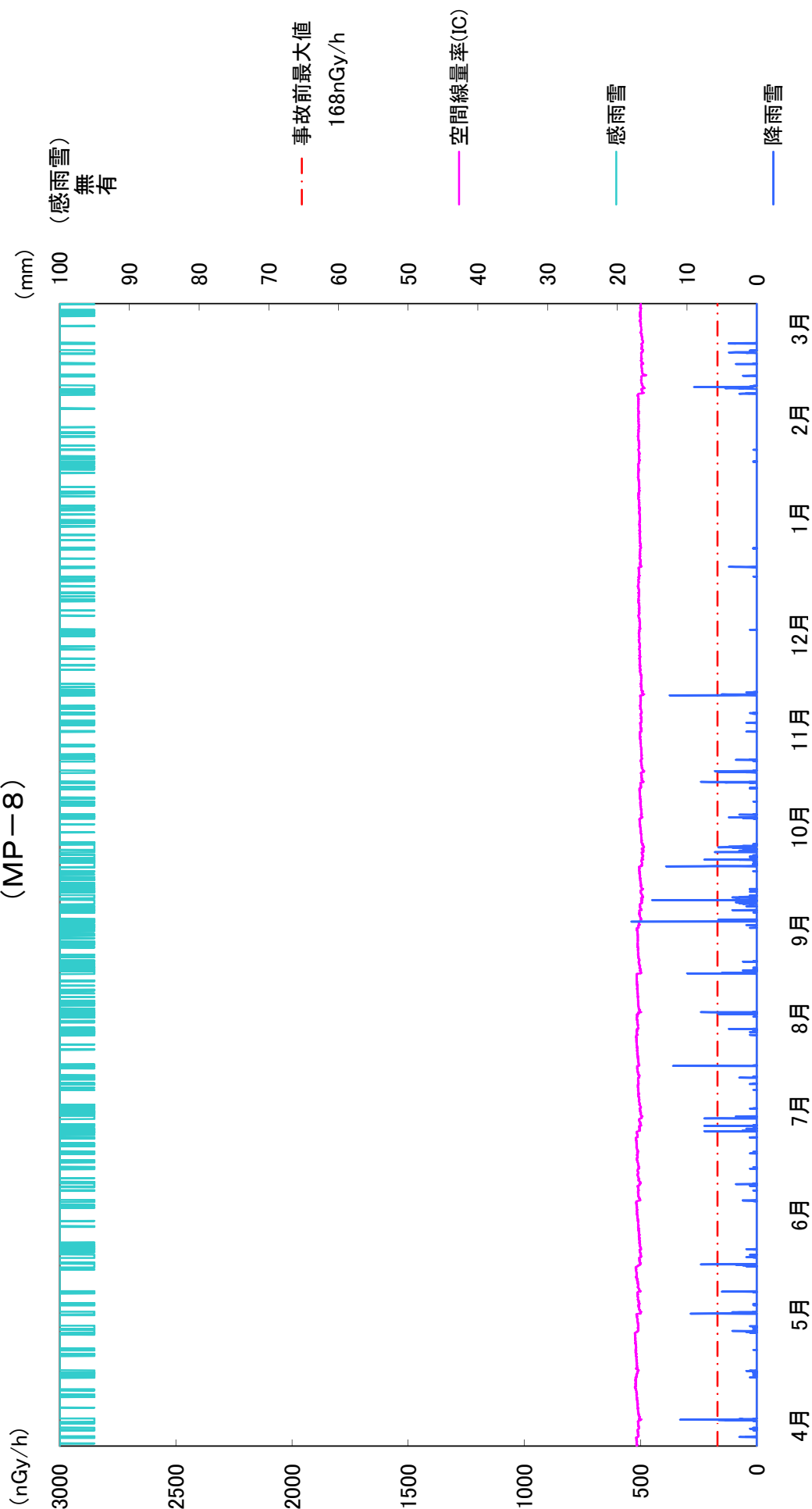
(MP-7)



点検及び定期保守作業に伴う欠測: 5月24日, 8月19日  
 欠測時には, 代替測定器にて測定し, 指示値に異常がないことを確認している。  
 MP-7, 8については, 高線量率の環境下にあることから, 新たな放出によって上空を通過する放射性物質を検知しやすいため, 検出器廻りに遮へいを設置し, 地表面等からの放射線の影響を抑えている。  
 周辺環境線量率のバックグラウンドが事故の影響で上昇したことにより, 測定を電離箱式検出器(IC)にて行っている。

# 空間線量率の変動グラフ

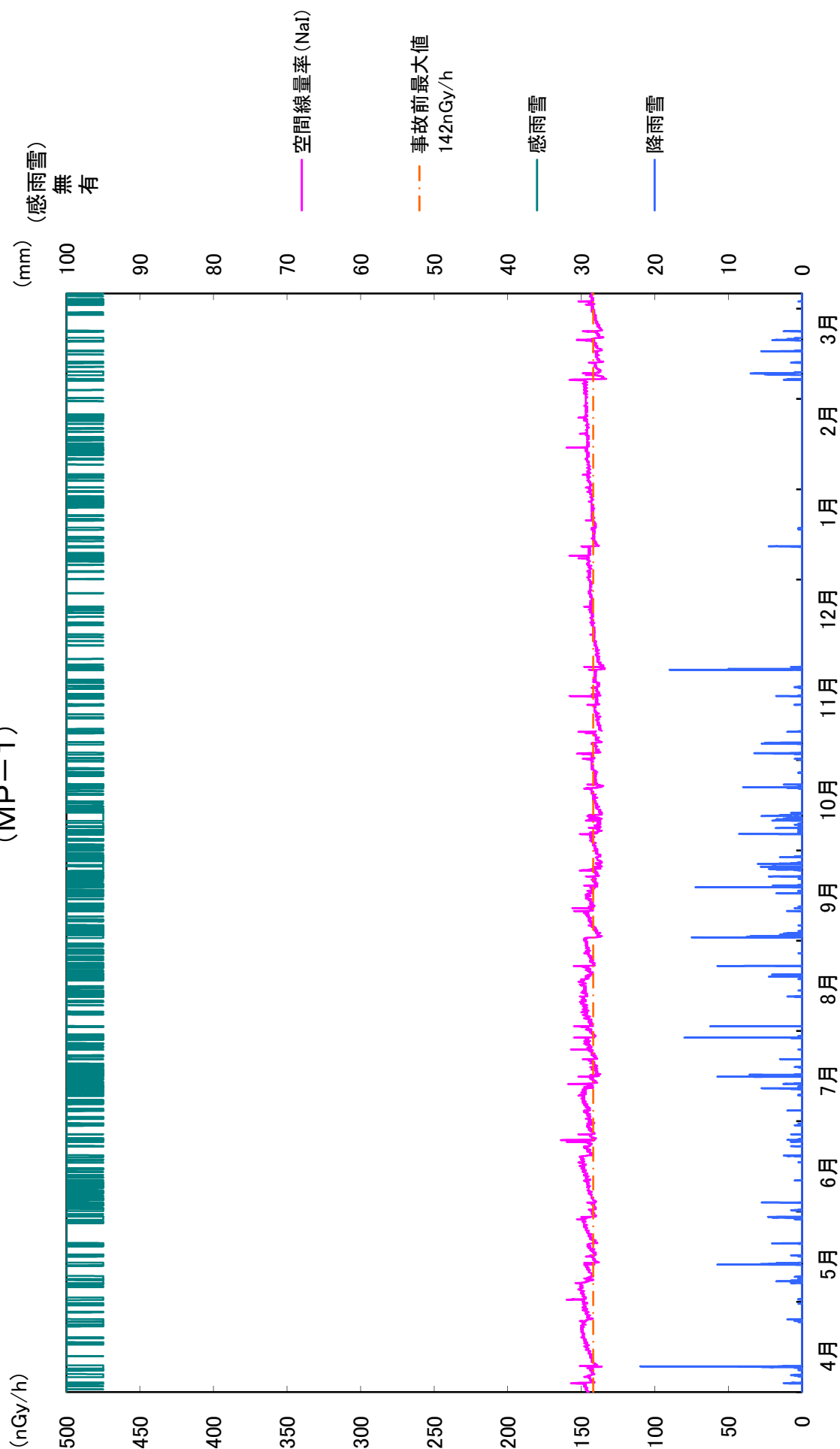
(MP-8)



点検及び定期保守作業に伴う欠測: 6月5日, 8月21日  
 欠測時には, 代替測定器にて測定し, 指示値に異常がないことを確認している。  
 MP-7, 8については, 高線量率の環境下にあることから, 新たな放出によって上空を通過する放射性物質を検知しやすくなるため, 検出器廻りに遮へいを設置し, 地表面等からの放射線の影響を抑えている。  
 周辺環境線量率のバックグラウンドが事故の影響で上昇したことにより, 測定を電離箱式検出器(IC)にて行っている。

# 空間線量率の変動グラフ

(MP-1)

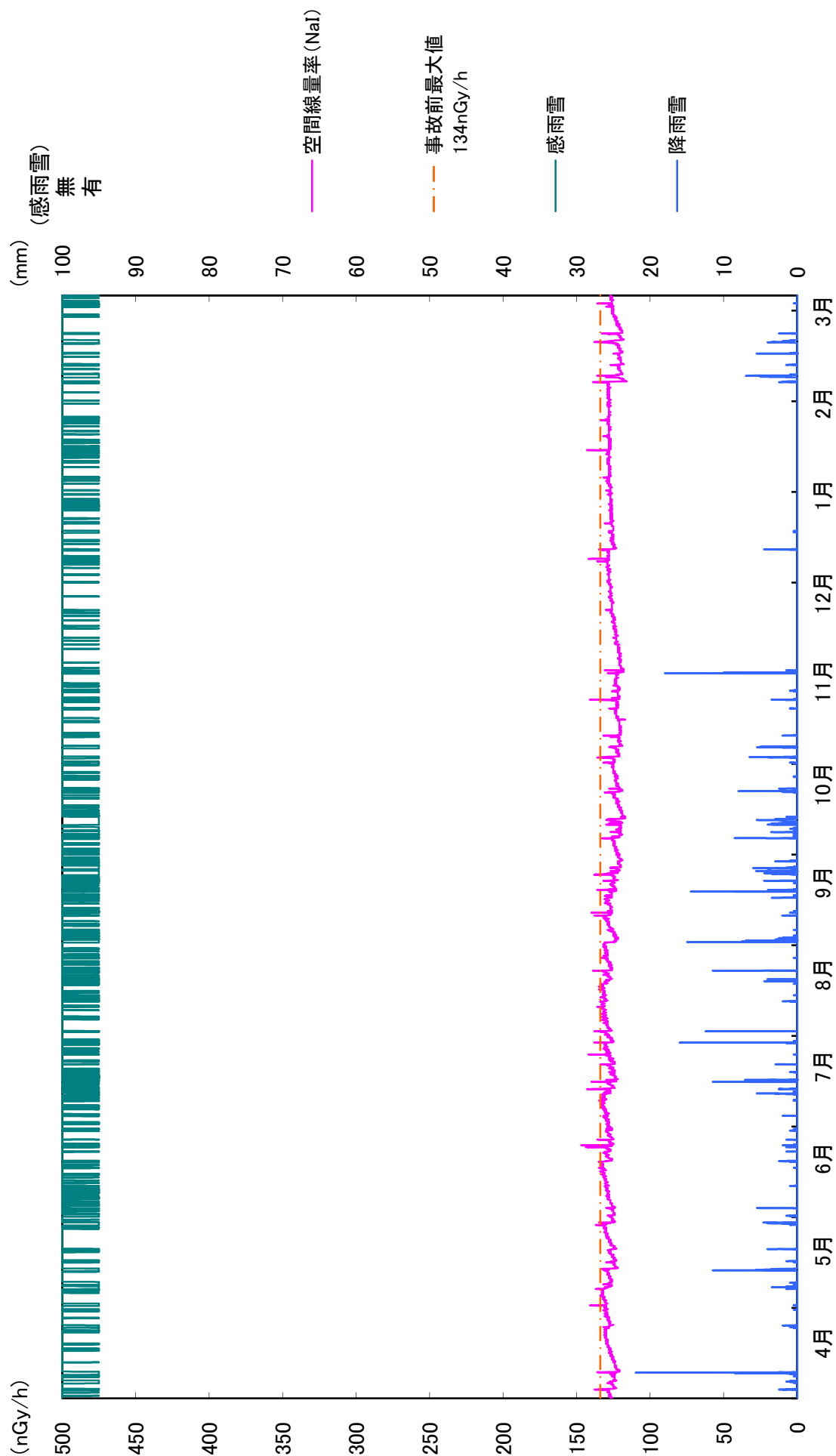


点検伴う欠測: 4月23日, 11月6日

なお、欠測時には、可搬型モニタリングポストを設置し、指示値に異常がないことを確認している。



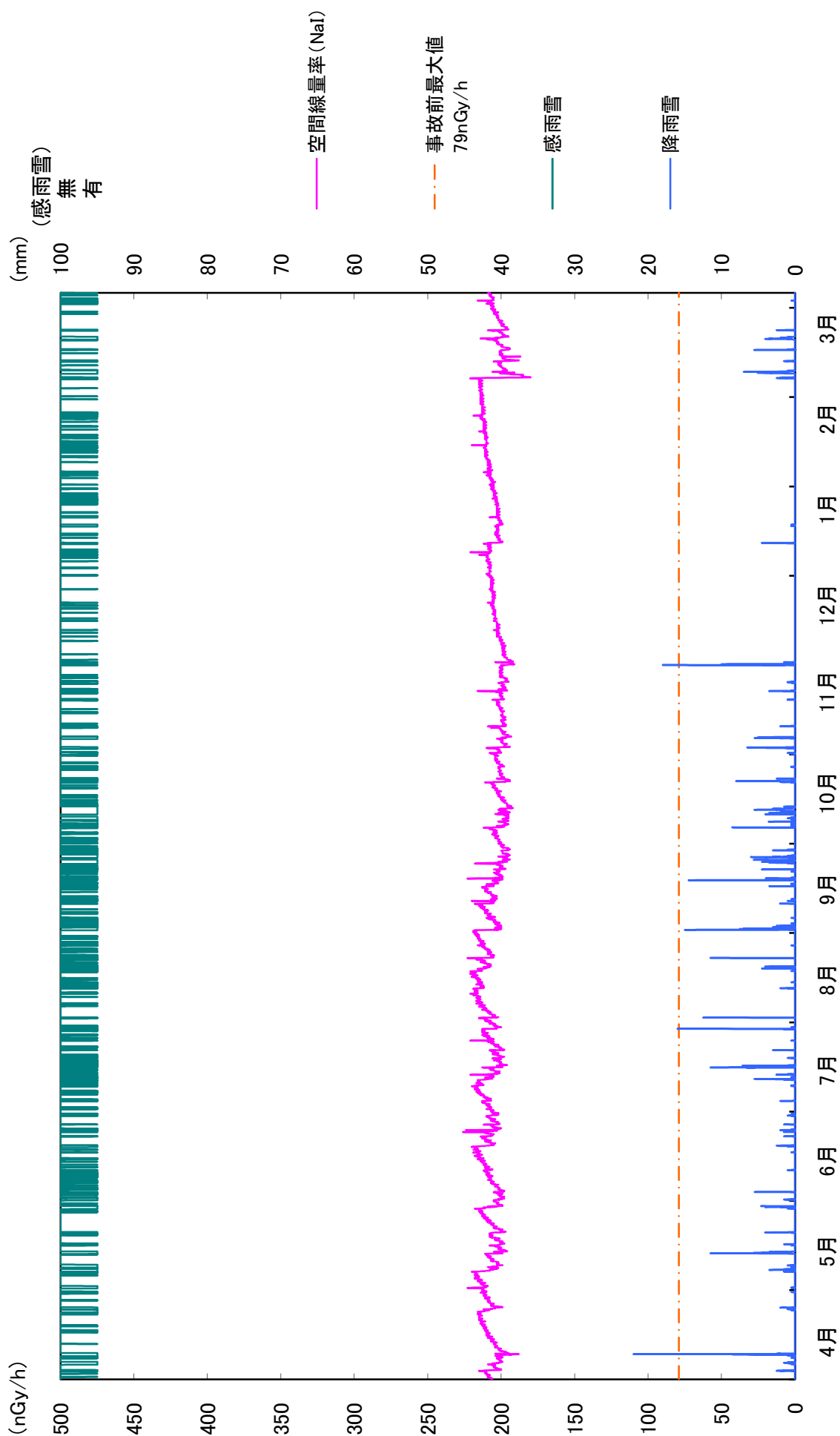
# 空間線量率の変動グラフ (MP-2)



点検に伴う欠測: 4月25日, 11月7日

なお, 欠測時には, 可搬型モニタリングポストを設置し, 指示値に異常がないことを確認している。

# 空間線量率の変動グラフ (MP-3)

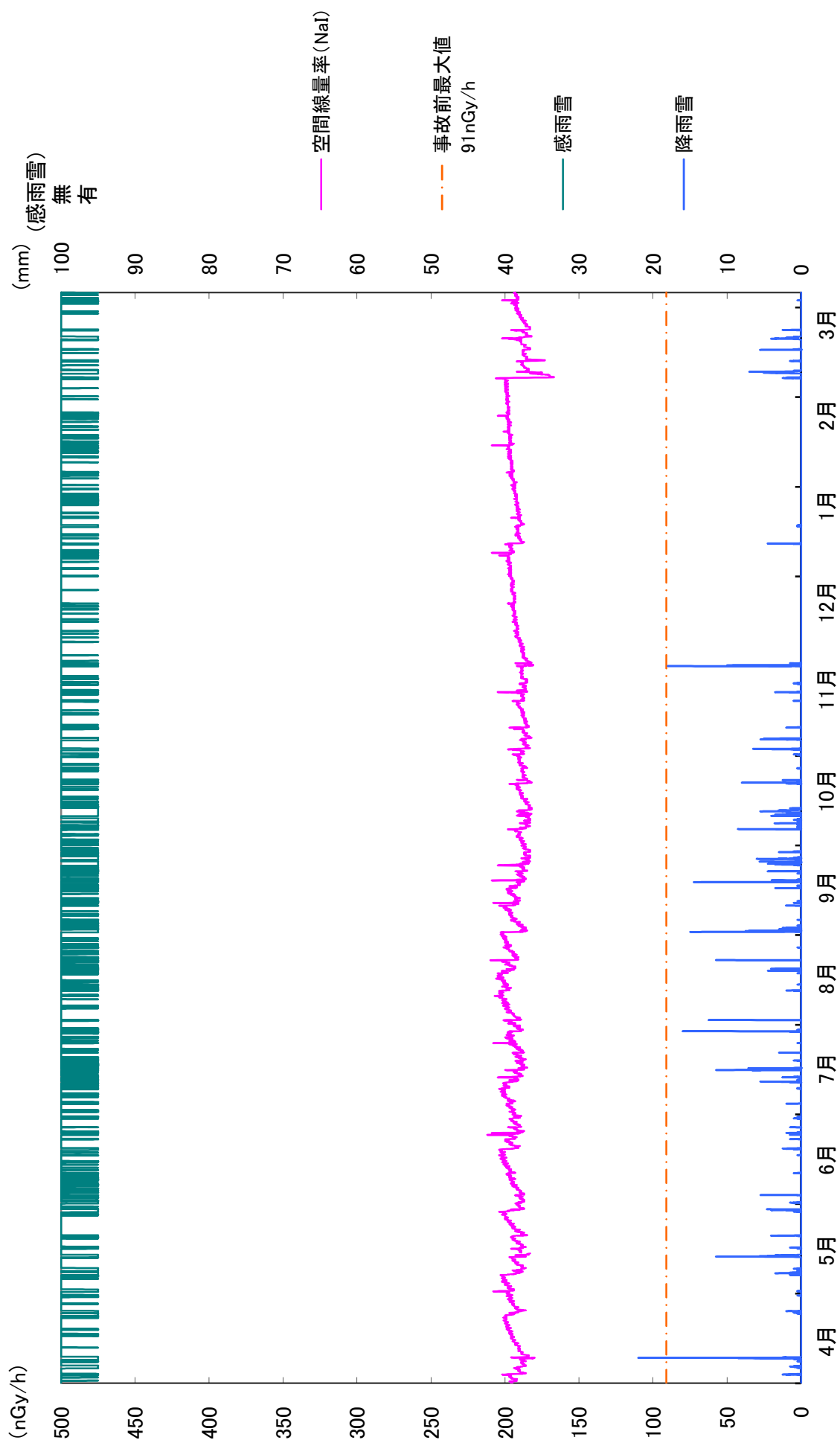


点検に伴う欠測: 5月9日, 11月8日

なお, 欠測時には, 可搬型モニタリングポストを設置し, 指示値に異常がないことを確認している。

# 空間線量率の変動グラフ (MP-4)

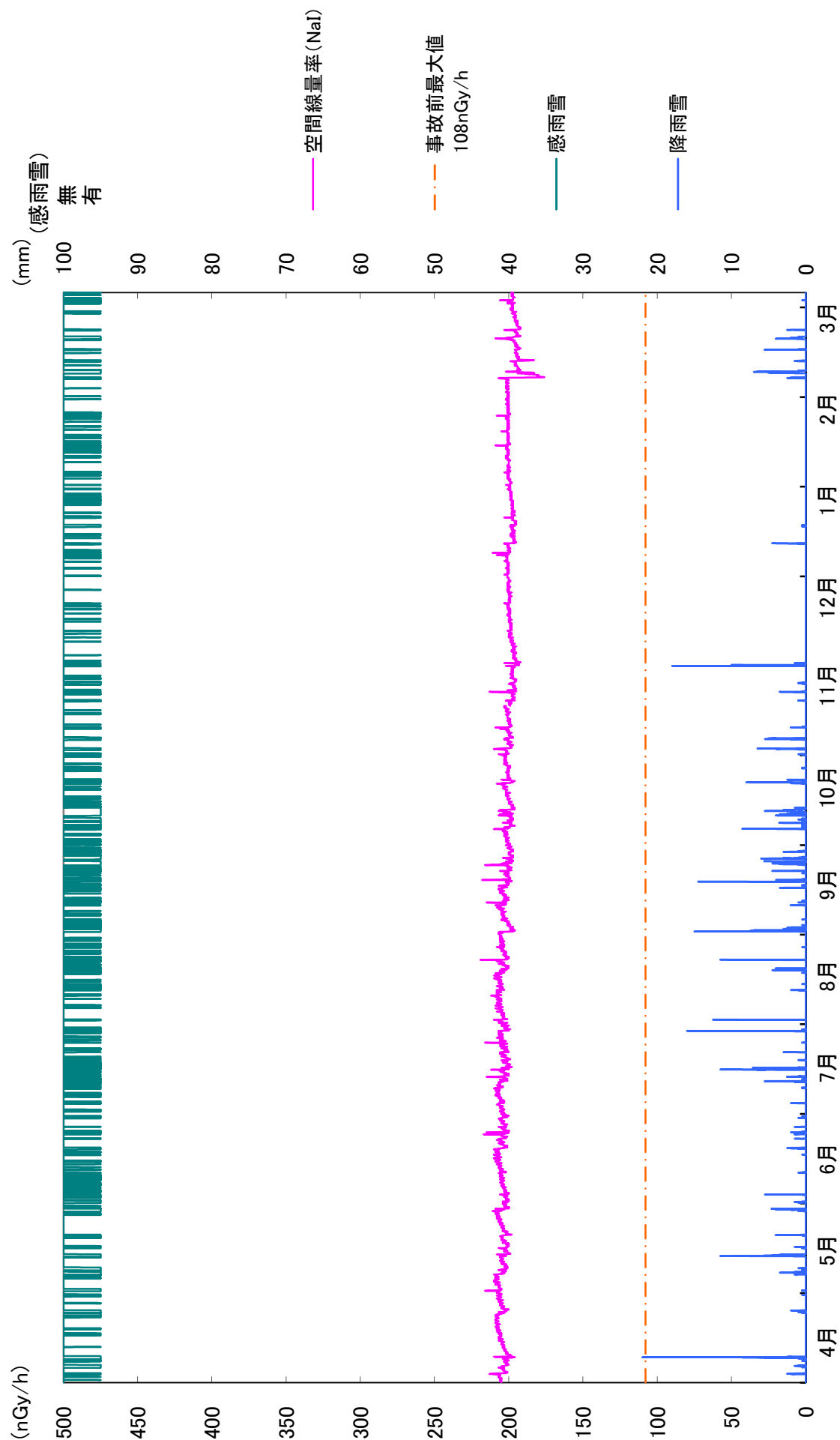
福島第二原子力発電所



点検に伴う欠測: 5月14日, 11月12日

なお, 欠測時には, 可搬型モニタリングポストを設置し, 指示値に異常がないことを確認している。

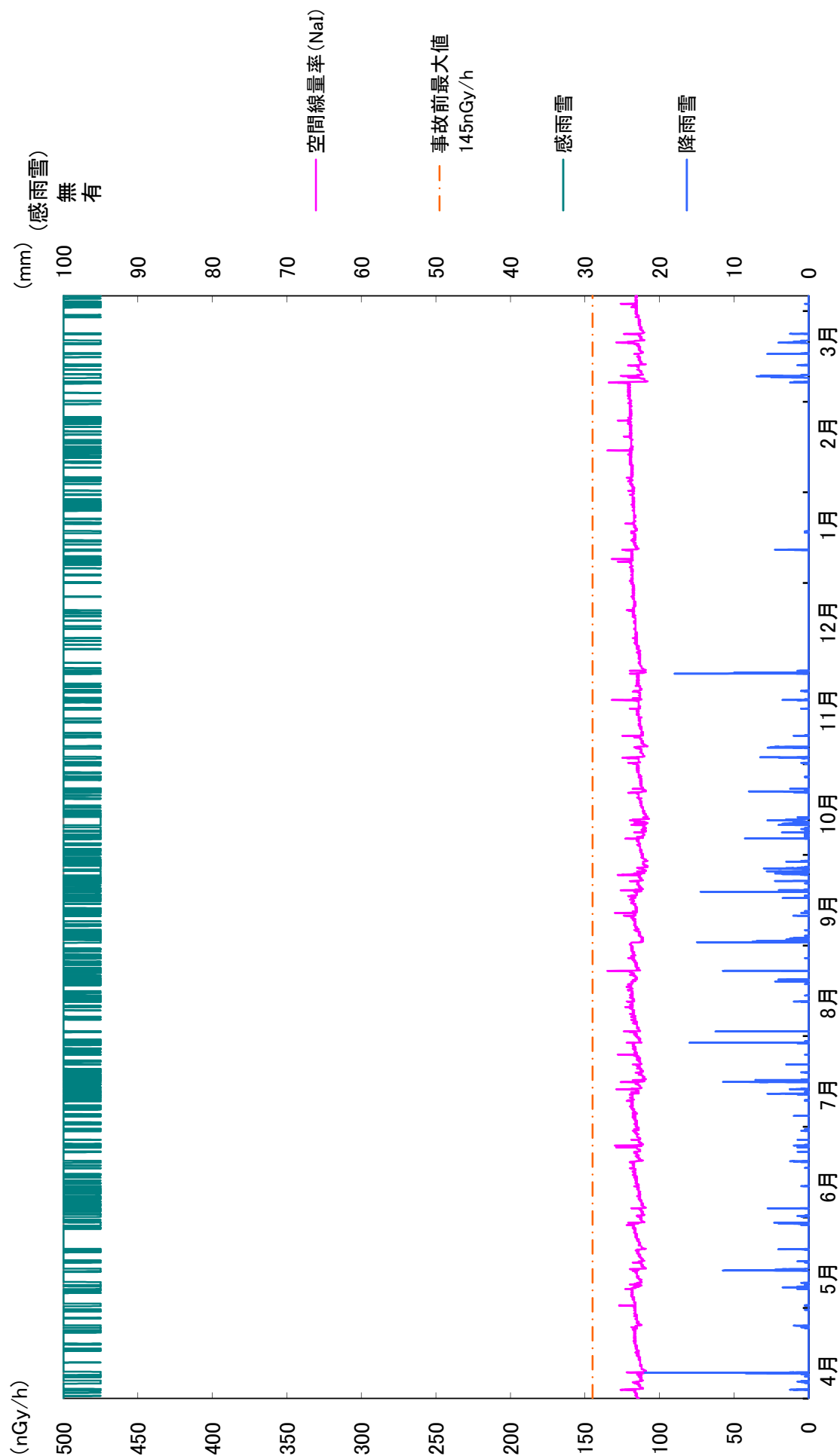
# 空間線量率の変動グラフ (MP-5)



点検に伴う欠測:5月16日,11月13日

なお, 欠測時には, 可搬型モニタリングポストを設置し, 指示値に異常がないことを確認している。

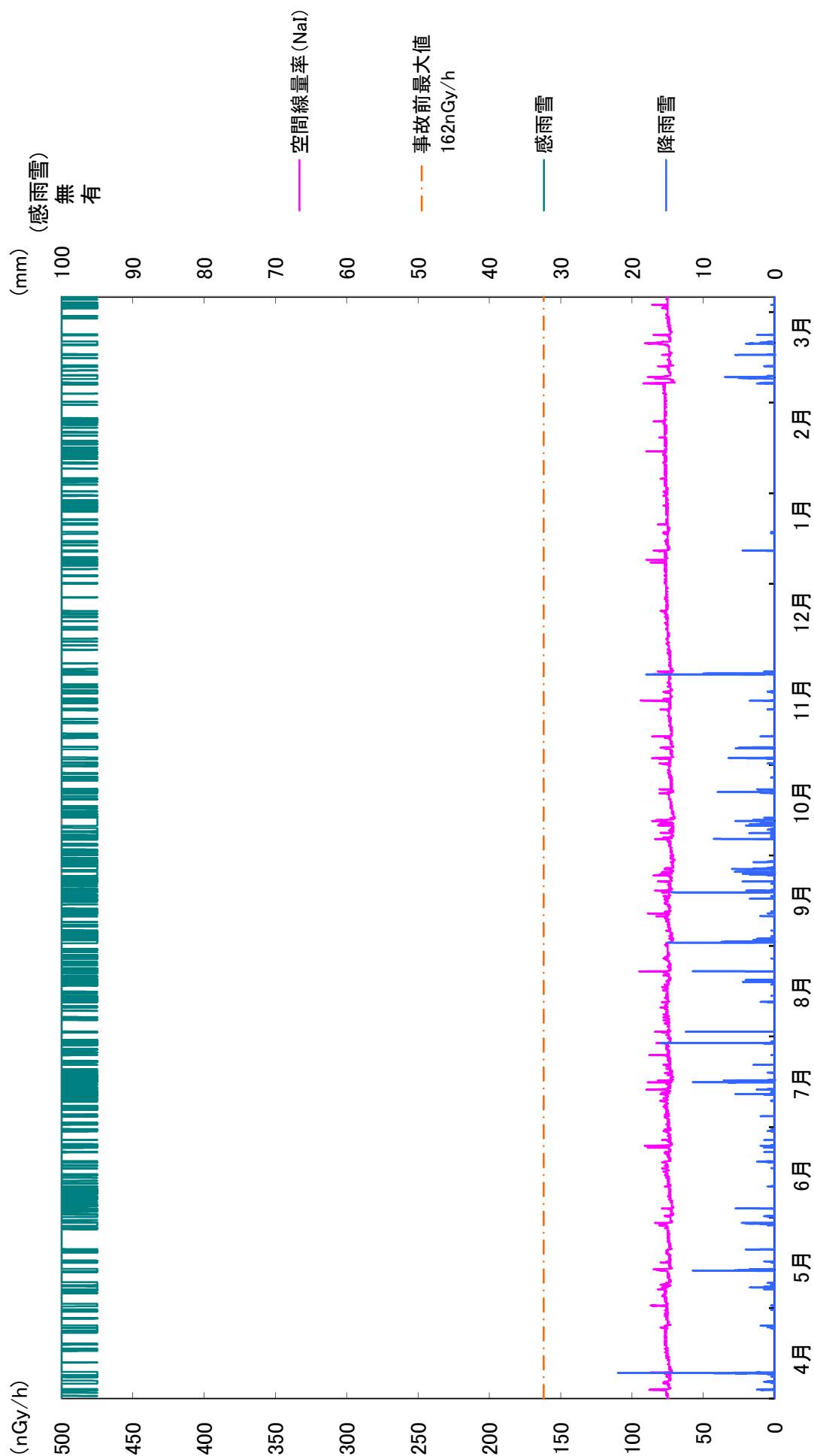
# 空間線量率の変動グラフ (MP-6)



点検に伴う欠測: 5月21日, 11月14日

なお, 欠測時には, 可搬型モニタリングポストを設置し, 指示値に異常がないことを確認している。

# 空間線量率の変動グラフ (MP-7)

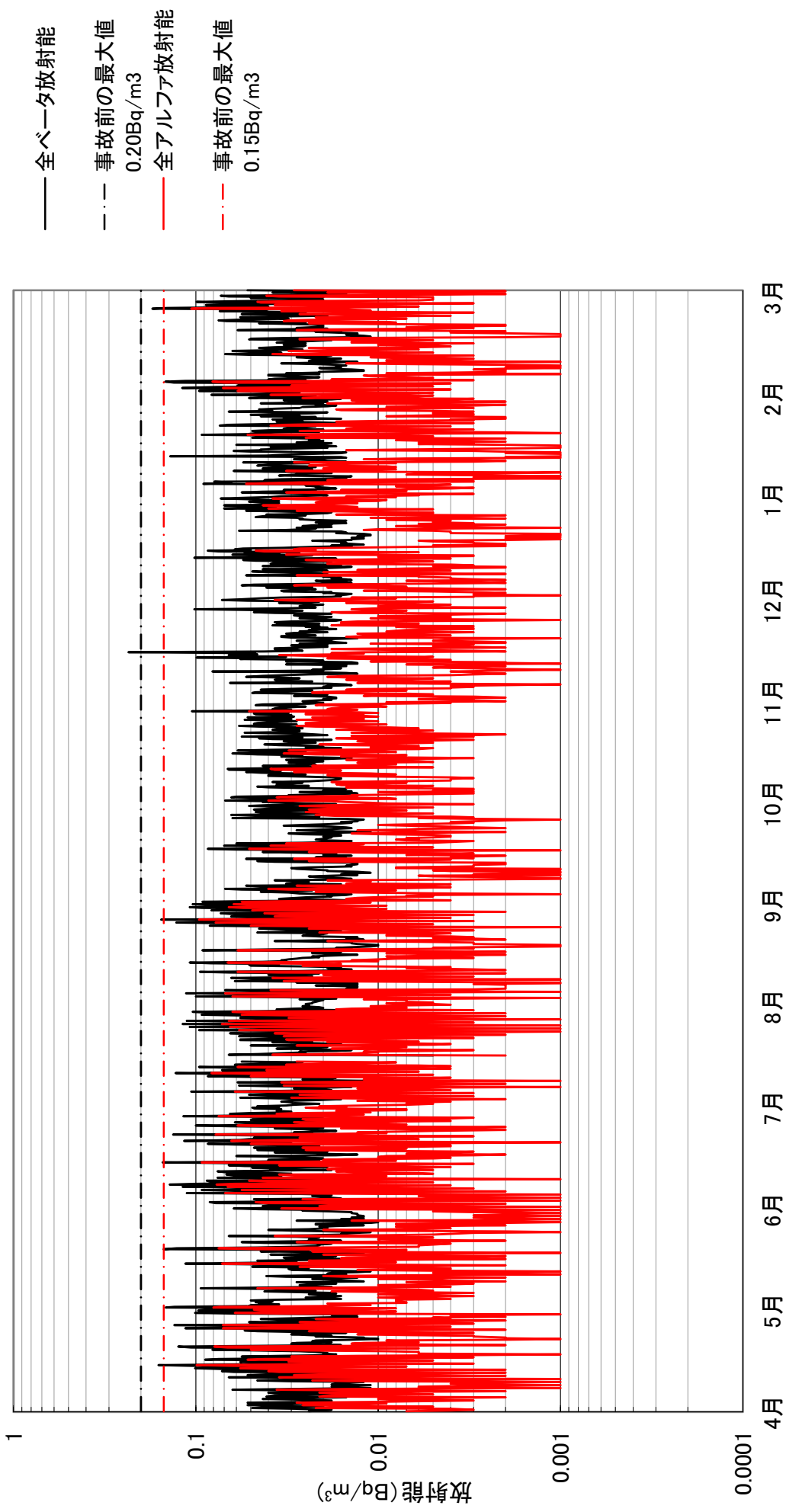


点検に伴う欠測: 5月23日, 11月15日  
 なお, 欠測時には, 可搬型モニタリングポストを設置し, 指示値に異常がないことを確認している。

# 大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

MP-3

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

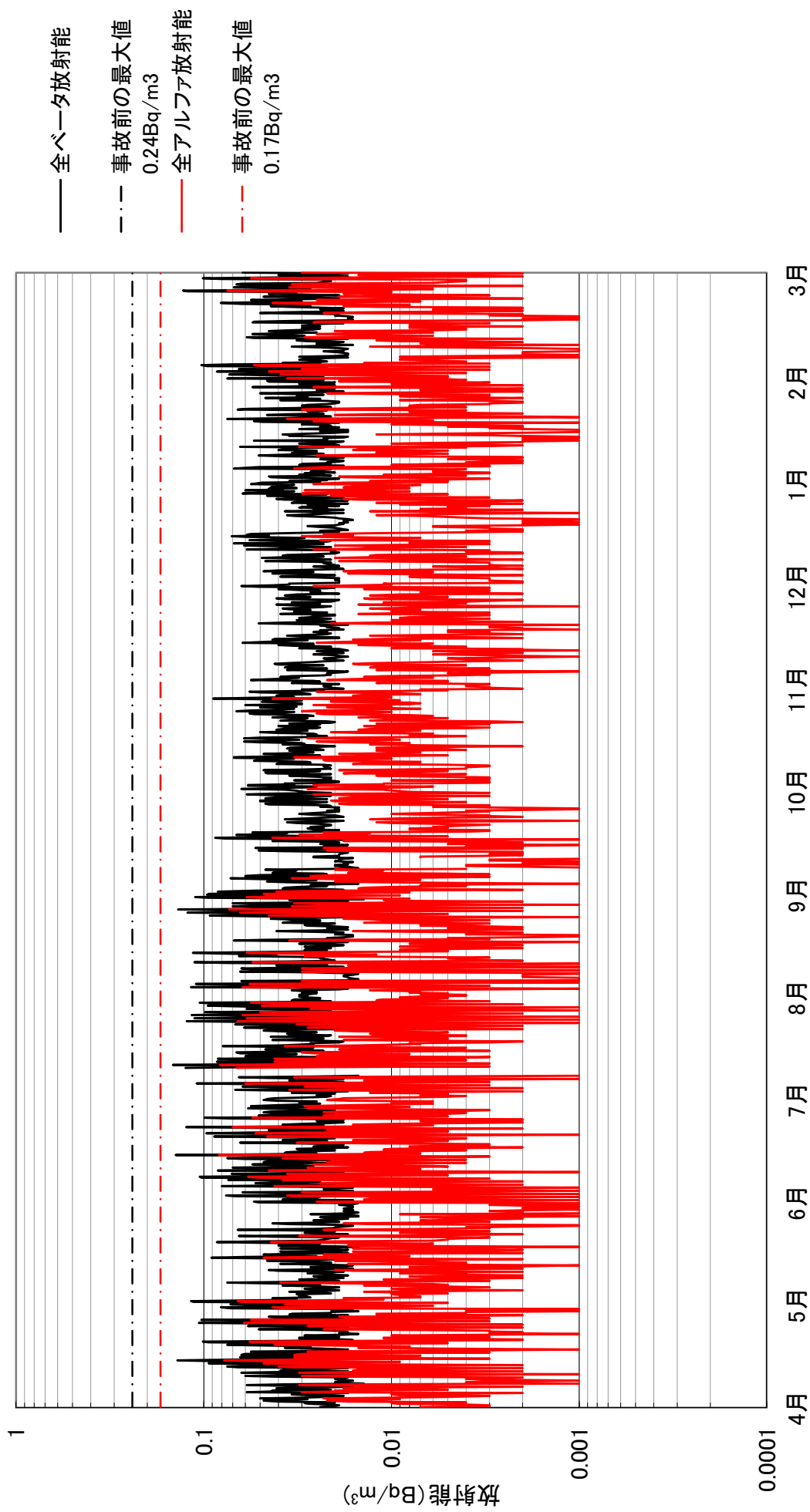


7月23日・24日・25日, 1月13日・14日・20日・21日については, 定期点検及び定期保守作業に伴う欠測。  
欠測時は, 敷地境界付近(MP1～MP8)に設置した連続ダストモニタにて指示値に異常がないことを確認している。  
注) 全アルファ放射能は 0.001Bq/m³ より小さい場合には 0Bq/m³ となるため対数グラフに表示されない。

# 大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

MP-8

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)



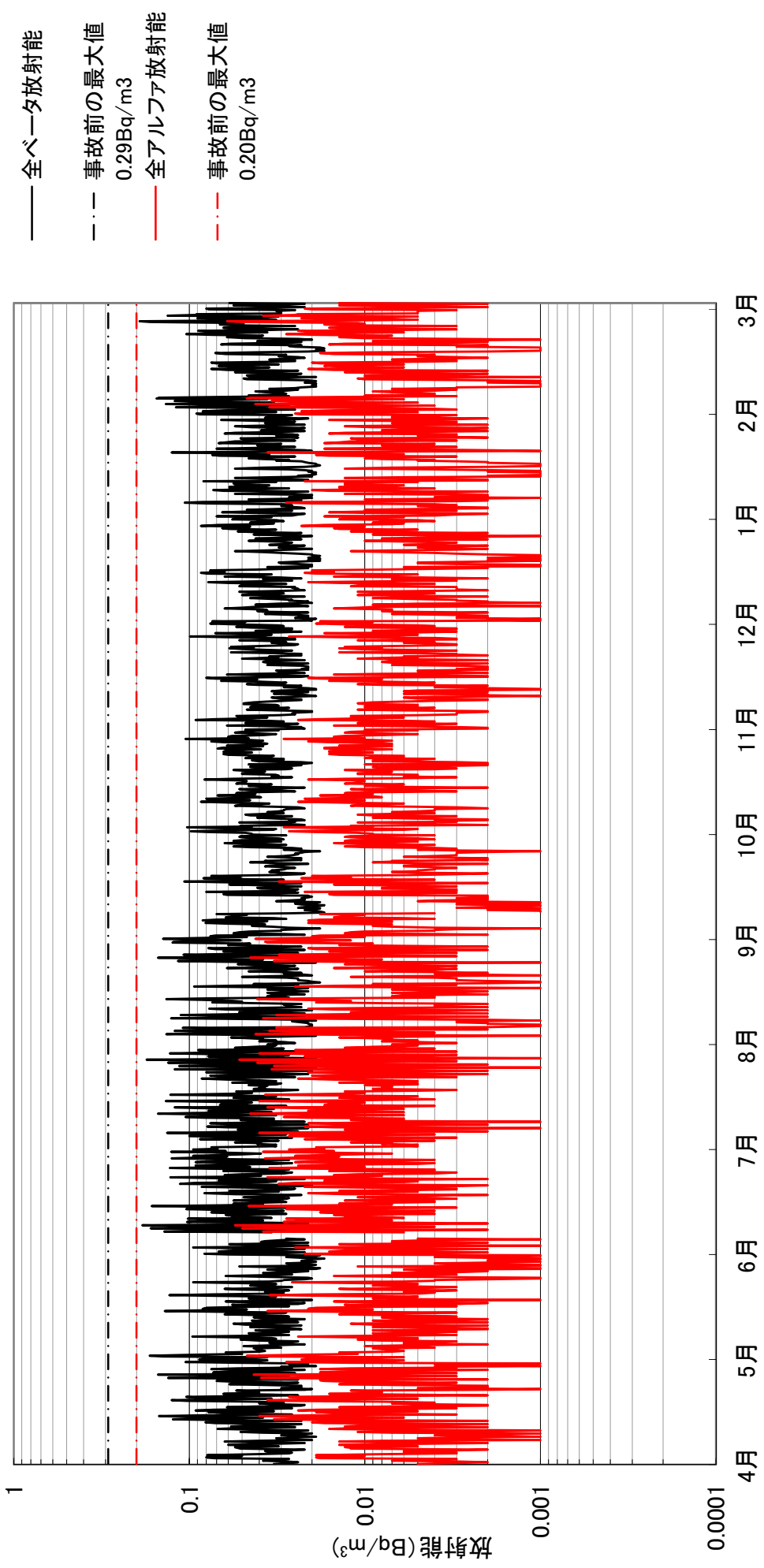
7月16日・17日・18日・19日、1月13日・14日・20日・21日については、定期点検及び定期保守作業に伴う欠測。  
欠測時は、敷地境界付近(MP1～MP8)に設置した連続ダストモニタにて指示値に異常がないことを確認している。  
注)全アルファ放射能は 0.001Bq/m<sup>3</sup> より小さい場合には 0Bq/m<sup>3</sup> となるため対数グラフに表示されない。



# 大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

MP-1

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)



令和6年6月11日,12日については,点検に伴う欠測。

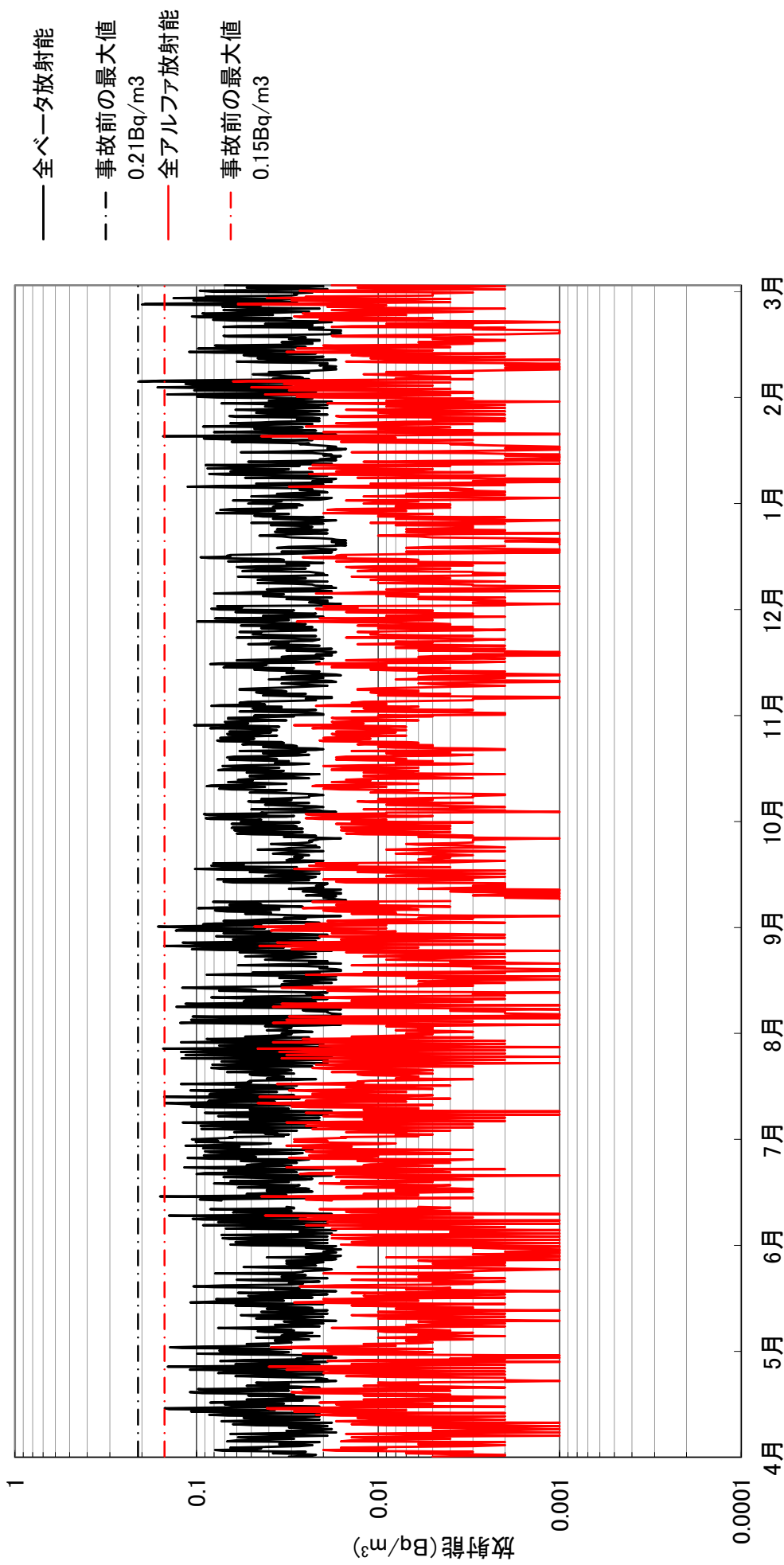
欠測時には,モニタリングポスト指示値,スタックモニタ指示値に異常がないこと,及びプラントに放射性物質の放出に係る事象が発生していないことを確認している。

注)全アルファ放射能は0.001Bq/m³より小さい場合には0Bq/m³となるため対数グラフに表示されない。

# 大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

MP-7

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)



令和6年6月18日,19日については,点検に伴う欠測。

欠測時には,モニタリングポスト指示値,スタックモニタ指示値に異常がないこと,及びプラントに放射性物質の放出に係る事象が発生していないことを確認している。

注)全アルファ放射能は0.001Bq/m<sup>3</sup>より小さい場合には0Bq/m<sup>3</sup>となるため対数グラフに表示されない。

＜参考＞地下水バイパスの評価  
(令和6年度年間)

(単位:Bq)

	核 種 別				備 考
	$^{134}\text{Cs}$	$^{137}\text{Cs}$	$^{90}\text{Sr}$	$^3\text{H}$	
地下水バイパス	ND	ND	ND	$3.6 \times 10^9$	排水放射能(Bq)は、排水中の放射性物質濃度(Bq/L) [排水前のタンクの分析結果]に排水量(L)を乗じて求めている。 $^{90}\text{Sr}$ は全 $\beta$ での評価値である。 なお、排水中の放射性物質濃度が検出限界未満の場合はNDと表示した。 $^{134}\text{Cs}$ 、 $^{137}\text{Cs}$ の検出限界値は1Bq/L未満、全 $\beta$ の検出限界値は5Bq/L未満または1Bq/L未満(10日に1回程度)である。 排水量は $79,517\text{m}^3$ である。

＜参考＞サブドレン他浄化設備の処理済水の評価

(令和6年度年間)

(単位:Bq)

	核 種 別				備 考
	$^{134}\text{Cs}$	$^{137}\text{Cs}$	$^{90}\text{Sr}$	$^3\text{H}$	
サブドレン他 浄化設備の処理済水	ND	ND	ND	$1.1 \times 10^{11}$	排水放射能(Bq)は、排水中の放射性物質濃度(Bq/L) [排水前のタンクの分析結果]に排水量(L)を乗じて求めている。 $^{90}\text{Sr}$ は全 $\beta$ での評価値である。 なお、排水中の放射性物質濃度が検出限界未満の場合はNDと表示した。 $^{134}\text{Cs}$ 、 $^{137}\text{Cs}$ の検出限界値は1Bq/L未満、全 $\beta$ の検出限界値は3Bq/L未満または1Bq/L未満(10日に1回程度)である。 排水量は $157,679\text{m}^3$ である。

＜参考＞ALPS処理水の評価  
(令和6年度年間)

(単位: Bq)

	核 種 別				備 考
	<sup>14</sup> C	<sup>54</sup> Mn	<sup>55</sup> Fe	<sup>60</sup> Co	
ALPS処理水	6.4 × 10 <sup>8</sup>	ND	ND	1.8 × 10 <sup>7</sup>	排水放射能量 (Bq) は、排水前のタンク (測定・確認用設備) の放射性物質濃度 (Bq/L) に排水量 (L) を乗じて求めている。 なお、排水前のタンク (測定・確認用設備) の放射性物質濃度が検出限界未満の場合は ND と表示した。 排水量は 54,999m <sup>3</sup> である。 ※1 <sup>90</sup> Sr／ <sup>90</sup> Y 放射平衡評価 ※2 8月より追加した ※3 <sup>125</sup> Sb／ <sup>125m</sup> Te 放射平衡評価 ※4 <sup>154</sup> Eu 相対比評価 ※5 全 α 放射能に包含されるものとして評価 ※6 <sup>238</sup> Pu 相対比評価 ( <sup>238</sup> Pu を単体で定量できないため、全 α 放射能を <sup>238</sup> Pu と見なして評価)
	<sup>63</sup> Ni	<sup>79</sup> Se	<sup>90</sup> Sr	<sup>90</sup> Y ※1	
	ND	ND	4.0 × 10 <sup>7</sup>	4.0 × 10 <sup>7</sup>	
	<sup>99</sup> Tc	<sup>106</sup> Ru	<sup>113m</sup> Cd ※2	<sup>125</sup> Sb	
	4.6 × 10 <sup>7</sup>	ND	ND	8.8 × 10 <sup>6</sup>	
	<sup>125m</sup> Te ※3	<sup>129</sup> I	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	
	3.3 × 10 <sup>6</sup>	3.8 × 10 <sup>7</sup>	ND	1.1 × 10 <sup>7</sup>	
	<sup>144</sup> Ce	<sup>147</sup> Pm ※4	<sup>151</sup> Sm ※4	<sup>154</sup> Eu	
	ND	ND	ND	ND	
	<sup>155</sup> Eu	<sup>234</sup> U ※5	<sup>238</sup> U ※5	<sup>237</sup> Np ※5	
	ND	ND	ND	ND	
	<sup>238</sup> Pu ※5	<sup>239</sup> Pu ※5	<sup>240</sup> Pu ※5	<sup>241</sup> Am ※5	
	ND	ND	ND	ND	
	<sup>244</sup> Cm ※5	<sup>241</sup> Pu ※6	<sup>3</sup> H		
	ND	ND	1.3 × 10 <sup>13</sup>		

# ＜参考＞トリチウム年間放出実績

(令和6年度第1四半期から第4四半期までの積算)

(単位: Bq/年)	
	$^3\text{H}$
5号機排水口	排水実績なし
6号機排水口	排水実績なし
ALPS処理水	$1.3 \times 10^{13}$
地下水バイパス	$3.6 \times 10^9$
サブドレン他浄化設備の処理済水	$1.1 \times 10^{11}$
合計	$1.3 \times 10^{13}$
年間放出管理の基準値	$2.2 \times 10^{13}$

<参考>地下水バイパス排水実績

(令和6年度年間)

運用目標値	$^{134}\text{Cs}$	$^{137}\text{Cs}$	全 $\beta$	$^3\text{H}$
	1Bq/L未満	1Bq/L未満	5Bq/L未満※	1500Bq/L未満

※(10日に1回程度の頻度で1Bq/L未満であること)

排水日	排水量【m <sup>3</sup> 】	$^{134}\text{Cs}$ 【Bq/L】	$^{137}\text{Cs}$ 【Bq/L】	全 $\beta$ 【Bq/L】	$^3\text{H}$ 【Bq/L】
4月2日	1579	<0.53	<0.45	<0.61	50
4月3日	1718	<0.56	<0.79	<0.64	50
4月10日	1737	<0.75	<0.75	<0.64	41
4月17日	1686	<0.56	<0.64	<0.62	43
4月24日	1663	<0.84	<0.55	<0.65	40
5月1日	1686	<0.64	<0.81	<0.62	46
5月8日	1665	<0.87	<0.79	<0.69	42
5月15日	1647	<0.69	<0.61	<0.56	46
5月22日	1647	<0.81	<0.55	<0.65	40
5月29日	1659	<0.68	<0.74	<0.59	46
6月5日	1686	<0.82	<0.74	<0.63	42
6月12日	1562	<0.93	<0.78	<0.69	44
6月19日	1708	<0.68	<0.69	<0.62	54
6月26日	1661	<0.82	<0.49	<0.59	48
7月3日	1644	<0.68	<0.74	<0.70	44
7月10日	1641	<0.71	<0.64	<0.59	47
7月18日	1628	<0.84	<0.79	<0.61	47
7月24日	1579	<0.75	<0.72	<0.63	46
7月31日	1579	<0.78	<0.64	<0.61	51
8月9日	1668	<0.55	<0.69	<0.59	45
8月14日	1585	<0.91	<0.64	<0.65	48
8月21日	1630	<0.85	<0.79	<0.65	49
8月28日	1634	<0.84	<0.80	<0.58	45
9月4日	1623	<0.62	<0.78	<0.64	46
9月11日	1625	<0.73	<0.69	<0.65	46
9月18日	1626	<0.75	<0.71	<0.64	46
9月25日	1614	<0.93	<0.82	<0.62	46
10月3日	1499	<0.75	<0.74	<0.60	49
10月10日	1295	<0.75	<0.82	<0.63	45
10月18日	1609	<0.80	<0.65	<0.58	47
10月24日	1469	<0.69	<0.60	<0.59	43
10月31日	1433	<1.0	<0.65	<0.72	43
11月8日	1569	<0.61	<0.70	<0.65	37
11月14日	1014	<0.79	<0.65	<0.63	36
11月21日	1218	<0.84	<0.86	<0.61	31

＜参考＞地下水バイパス排水実績

(令和6年度年間)

運用目標値	$^{134}\text{Cs}$	$^{137}\text{Cs}$	全 $\beta$	$^3\text{H}$
	1Bq/L未満	1Bq/L未満	5Bq/L未満※	1500Bq/L未満

※(10日に1回程度の頻度で1Bq/L未満であること)

排水日	排水量【 $\text{m}^3$ 】	$^{134}\text{Cs}$ 【Bq/L】	$^{137}\text{Cs}$ 【Bq/L】	全 $\beta$ 【Bq/L】	$^3\text{H}$ 【Bq/L】
11月28日	1165	<0.65	<0.64	<0.72	34
12月5日	1184	<0.97	<0.63	<0.64	32
12月12日	1182	<0.65	<0.69	<0.69	34
12月19日	1273	<0.86	<0.67	<0.67	32
12月26日	1655	<0.89	<0.75	<0.63	50
1月3日	1582	<0.68	<0.79	<0.65	48
1月9日	1499	<0.91	<0.74	<0.60	51
1月16日	1476	<0.61	<0.59	<0.66	57
1月23日	1339	<0.65	<0.66	<0.67	51
1月31日	1289	<0.68	<0.69	<0.61	52
2月7日	1483	<0.98	<0.78	<0.69	57
2月13日	1456	<0.68	<0.79	<0.55	56
2月20日	1406	<0.84	<0.67	<0.57	54
2月28日	1407	<0.75	<0.63	<0.55	51
3月7日	1105	<0.68	<0.82	<0.67	44
3月13日	1041	<0.68	<0.74	<0.63	46
3月20日	1195	<0.75	<0.78	<0.67	54
3月27日	1294	<0.67	<0.64	<0.63	45

<参考>サブドレン排水実績

(令和6年度年間)

運用目標値	$^{134}\text{Cs}$	$^{137}\text{Cs}$	全 $\beta$	$^3\text{H}$
	1Bq/L未満	1Bq/L未満	3Bq/L未満※	1500Bq/L未満

※(10日に1回程度の頻度で1Bq/L未満であること)

排水日	排水量【m <sup>3</sup> 】	$^{134}\text{Cs}$ 【Bq/L】	$^{137}\text{Cs}$ 【Bq/L】	全 $\beta$ 【Bq/L】	$^3\text{H}$ 【Bq/L】
4月1日	774	<0.97	<0.70	<1.7	610
4月3日	854	<0.66	<0.47	<0.66	670
4月4日	596	<0.55	<0.47	<1.8	600
4月6日	991	<0.71	<0.52	<0.60	420
4月8日	721	<0.77	<0.58	<1.9	410
4月9日	998	<0.83	<0.74	<1.5	460
4月10日	996	<0.83	<0.70	<1.9	460
4月12日	697	<0.62	<0.61	<1.7	570
4月12日	1009	<0.68	<0.71	<1.9	530
4月13日	1004	<0.71	<0.63	<1.9	510
4月14日	682	<0.88	<0.56	<0.58	560
4月16日	945	<0.53	<0.52	<1.8	540
4月17日	793	<0.63	<0.68	<1.9	630
4月18日	785	<0.65	<0.54	<2.0	580
4月20日	839	<0.98	<0.63	<2.0	560
4月21日	1007	<0.55	<0.58	<1.6	570
4月22日	761	<0.88	<0.82	<0.65	620
4月22日	1000	<0.71	<0.53	<1.6	550
4月24日	751	<0.65	<0.61	<1.9	660
4月25日	838	<0.77	<0.67	<1.8	730
4月26日	1007	<0.61	<0.65	<1.8	750
4月27日	859	<0.63	<0.58	<1.8	750
4月28日	679	<0.72	<0.68	<1.6	700
4月29日	791	<0.68	<0.67	<1.7	750
4月30日	795	<0.89	<0.69	<0.62	830
5月1日	705	<0.70	<0.59	<1.8	740
5月2日	495	<0.76	<0.72	<1.7	790
5月3日	566	<0.81	<0.64	<1.7	800
5月4日	621	<0.68	<0.83	<1.7	820
5月5日	519	<0.65	<0.76	<1.8	730
5月6日	517	<0.72	<0.54	<0.58	720
5月8日	442	<0.79	<0.51	<1.9	740
5月8日	428	<0.72	<0.76	<1.8	710
5月9日	439	<0.84	<0.79	<2.0	670
5月10日	378	<0.77	<0.74	<1.9	680



＜参考＞サブドレン排水実績

(令和6年度年間)

運用目標値	$^{134}\text{Cs}$	$^{137}\text{Cs}$	全 $\beta$	$^3\text{H}$
	1Bq/L未満	1Bq/L未満	3Bq/L未満※	1500Bq/L未満

※(10日に1回程度の頻度で1Bq/L未満であること)

排水日	排水量【 $\text{m}^3$ 】	$^{134}\text{Cs}$ 【Bq/L】	$^{137}\text{Cs}$ 【Bq/L】	全 $\beta$ 【Bq/L】	$^3\text{H}$ 【Bq/L】
5月11日	343	<0.64	<0.65	<1.8	630
5月12日	330	<0.71	<0.74	<1.8	650
5月13日	329	<0.75	<0.78	<2.1	660
5月14日	429	<0.84	<0.54	<0.71	600
5月16日	552	<0.84	<0.73	<1.7	580
5月18日	378	<0.81	<0.71	<1.9	650
5月19日	332	<0.56	<0.55	<1.8	650
5月20日	335	<0.77	<0.54	<1.7	640
5月20日	404	<0.71	<0.66	<1.7	600
5月21日	415	<0.68	<0.86	<1.9	640
5月22日	517	<0.69	<0.61	<0.63	580
5月23日	560	<0.71	<0.65	<2.0	670
5月24日	535	<0.93	<0.63	<1.9	620
5月25日	534	<0.88	<0.82	<2.0	680
5月26日	547	<0.75	<0.61	<1.9	650
5月27日	535	<0.88	<0.90	<1.8	680
5月28日	455	<0.89	<0.72	<2.0	690
5月29日	410	<0.68	<0.63	<0.62	720
5月30日	412	<0.69	<0.57	<2.0	700
5月31日	411	<0.57	<0.60	<1.8	760
6月1日	397	<0.73	<0.72	<1.9	730
6月2日	360	<0.64	<0.64	<1.7	700
6月3日	373	<0.62	<0.60	<1.9	720
6月5日	358	<0.68	<0.86	<2.0	740
6月5日	350	<0.58	<0.63	<1.8	730
6月7日	420	<0.86	<0.66	<0.65	710
6月7日	483	<0.75	<0.69	<1.9	710
6月8日	600	<0.82	<0.86	<1.9	660
6月9日	579	<0.68	<0.82	<1.9	600
6月10日	470	<0.68	<0.82	<1.7	570
6月11日	441	<0.85	<0.65	<1.8	590
6月12日	427	<0.93	<0.78	<1.8	590
6月13日	428	<0.79	<0.75	<1.9	680
6月14日	402	<0.68	<0.82	<1.6	630
6月15日	425	<0.71	<0.65	<0.58	590

<参考>サブドレン排水実績

(令和6年度年間)

運用目標値	$^{134}\text{Cs}$	$^{137}\text{Cs}$	全 $\beta$	$^3\text{H}$
	1Bq/L未満	1Bq/L未満	3Bq/L未満※	1500Bq/L未満

※(10日に1回程度の頻度で1Bq/L未満であること)

排水日	排水量【m <sup>3</sup> 】	$^{134}\text{Cs}$ 【Bq/L】	$^{137}\text{Cs}$ 【Bq/L】	全 $\beta$ 【Bq/L】	$^3\text{H}$ 【Bq/L】
6月16日	440	<0.88	<0.78	<1.7	620
6月17日	441	<0.83	<0.65	<1.9	700
6月18日	414	<0.83	<0.94	<1.7	710
6月19日	401	<0.82	<0.69	<1.8	690
6月20日	377	<0.88	<0.65	<1.8	760
6月21日	396	<0.75	<0.74	<1.9	760
6月22日	402	<0.75	<0.93	<2.1	880
6月23日	384	<0.88	<0.81	<1.6	780
6月24日	374	<0.77	<0.81	<0.65	740
6月25日	431	<0.71	<0.65	<1.8	810
6月26日	492	<0.55	<0.81	<1.7	820
6月27日	484	<0.71	<0.78	<2.0	810
6月29日	468	<0.64	<0.88	<2.0	820
6月29日	425	<0.75	<0.86	<1.8	800
6月30日	363	<0.65	<0.72	<1.9	860
7月1日	369	<0.71	<0.60	<1.8	790
7月2日	375	<0.71	<0.72	<1.7	750
7月3日	371	<0.75	<0.90	<0.61	770
7月4日	333	<0.92	<0.65	<2.0	810
7月5日	352	<0.71	<0.74	<1.9	790
7月6日	359	<0.71	<0.78	<0.70	700
7月7日	340	<0.77	<0.74	<1.9	760
7月8日	336	<0.88	<0.88	<1.9	750
7月9日	336	<0.83	<0.60	<1.8	740
7月10日	327	<0.75	<0.74	<1.8	770
7月11日	316	<0.75	<0.64	<1.8	750
7月12日	320	<0.84	<0.54	<2.0	800
7月13日	302	<0.75	<0.72	<1.7	750
7月14日	306	<0.75	<0.62	<1.9	760
7月15日	302	<0.75	<0.72	<0.71	740
7月17日	297	<0.97	<0.64	<1.8	740
7月17日	301	<0.75	<0.54	<1.9	700
7月18日	283	<0.75	<0.64	<1.9	740
7月19日	289	<0.82	<0.79	<1.9	720
7月20日	317	<0.71	<0.65	<1.9	700

＜参考＞サブドレン排水実績

(令和6年度年間)

運用目標値	$^{134}\text{Cs}$	$^{137}\text{Cs}$	全 $\beta$	$^3\text{H}$
	1Bq/L未満	1Bq/L未満	3Bq/L未満※	1500Bq/L未満

※(10日に1回程度の頻度で1Bq/L未満であること)

排水日	排水量【 $\text{m}^3$ 】	$^{134}\text{Cs}$ 【Bq/L】	$^{137}\text{Cs}$ 【Bq/L】	全 $\beta$ 【Bq/L】	$^3\text{H}$ 【Bq/L】
7月21日	344	<0.67	<0.79	<1.7	680
7月22日	339	<0.66	<0.55	<2.0	640
7月23日	383	<0.64	<0.65	<1.7	600
7月24日	397	<0.64	<0.79	<0.63	580
7月25日	548	<0.73	<0.86	<2.0	560
7月26日	585	<0.71	<0.74	<1.9	600
7月27日	543	<0.79	<0.71	<1.8	590
7月28日	468	<0.73	<0.79	<2.0	550
7月29日	442	<0.88	<0.62	<2.0	500
7月30日	440	<0.86	<0.62	<1.7	530
7月31日	397	<0.55	<0.60	<0.60	580
8月1日	419	<0.75	<0.71	<1.9	680
8月2日	425	<0.79	<0.85	<2.0	630
8月3日	393	<0.75	<0.74	<1.7	650
8月4日	360	<0.88	<0.79	<1.6	680
8月5日	366	<0.82	<0.67	<1.5	700
8月6日	338	<0.64	<0.65	<0.65	730
8月8日	337	<0.82	<0.79	<1.9	750
8月8日	366	<0.75	<0.79	<1.6	790
8月9日	449	<0.75	<0.62	<2.0	860
8月10日	391	<0.58	<0.75	<1.7	820
8月12日	624	<0.82	<0.71	<1.8	710
8月13日	376	<0.55	<0.74	<1.8	760
8月14日	491	<0.58	<0.71	<0.63	780
8月16日	774	<0.77	<0.74	<1.9	770
8月18日	764	<0.65	<0.64	<2.0	790
8月20日	665	<0.85	<0.71	<0.72	770
8月22日	608	<0.74	<0.84	<1.9	580
8月26日	671	<0.72	<0.59	<1.6	580
8月28日	695	<0.72	<0.73	<0.65	580
8月30日	671	<0.98	<0.67	<2.0	600
9月1日	3	<0.93	<0.82	<1.7	700
9月3日	645	<0.98	<0.69	<1.9	700
9月5日	338	<0.93	<0.78	<1.7	750
9月6日	592	<0.75	<0.63	<1.9	560

＜参考＞サブドレン排水実績

(令和6年度年間)

運用目標値	$^{134}\text{Cs}$	$^{137}\text{Cs}$	全 $\beta$	$^3\text{H}$
	1Bq/L未満	1Bq/L未満	3Bq/L未満※	1500Bq/L未満

※(10日に1回程度の頻度で1Bq/L未満であること)

排水日	排水量【 $\text{m}^3$ 】	$^{134}\text{Cs}$ 【Bq/L】	$^{137}\text{Cs}$ 【Bq/L】	全 $\beta$ 【Bq/L】	$^3\text{H}$ 【Bq/L】
9月7日	730	<0.81	<0.75	<0.63	750
9月8日	636	<0.75	<0.78	<1.9	690
9月9日	906	<0.66	<0.60	<1.9	630
9月11日	860	<0.69	<0.81	<1.9	640
9月13日	797	<0.56	<0.76	<2.0	680
9月15日	731	<0.85	<0.64	<0.51	640
9月17日	689	<0.93	<0.82	<1.7	650
9月19日	728	<0.88	<0.82	<2.0	730
9月21日	723	<0.80	<0.67	<1.8	720
9月23日	2	<0.75	<0.86	<0.61	770
9月27日	850	<0.89	<0.51	<1.8	600
9月28日	854	<0.55	<0.75	<1.8	690
9月29日	893	<0.75	<0.69	<1.8	610
9月30日	736	<0.93	<0.63	<0.57	780
10月1日	1014	<0.75	<0.60	<0.68	520
10月3日	1025	<0.68	<0.57	<1.9	430
10月4日	1022	<0.75	<0.69	<1.8	420
10月5日	884	<0.81	<0.61	<2.0	430
10月6日	617	<0.98	<0.63	<0.74	680
10月7日	1023	<0.82	<0.74	<1.9	440
10月8日	692	<0.88	<0.63	<1.7	490
10月9日	602	<0.69	<0.67	<1.8	530
10月11日	1021	<0.68	<0.49	<1.8	590
10月12日	746	<0.68	<0.57	<1.7	620
10月13日	643	<0.88	<0.97	<1.7	510
10月15日	600	<0.75	<0.69	<0.65	530
10月18日	1018	<0.58	<0.74	<1.8	550
10月19日	1009	<0.88	<0.78	<1.8	400
10月19日	764	<0.88	<0.69	<2.0	490
10月20日	1008	<0.69	<0.61	<1.9	380
10月21日	1022	<0.65	<0.59	<1.9	490
10月22日	1020	<0.68	<0.74	<1.8	510
10月23日	890	<0.68	<0.74	<0.57	510
10月25日	1025	<0.77	<0.74	<1.8	540
10月26日	1017	<0.55	<0.61	<1.9	600

＜参考＞サブドレン排水実績

(令和6年度年間)

運用目標値	$^{134}\text{Cs}$	$^{137}\text{Cs}$	全 $\beta$	$^3\text{H}$
	1Bq/L未満	1Bq/L未満	3Bq/L未満※	1500Bq/L未満

※(10日に1回程度の頻度で1Bq/L未満であること)

排水日	排水量【 $\text{m}^3$ 】	$^{134}\text{Cs}$ 【Bq/L】	$^{137}\text{Cs}$ 【Bq/L】	全 $\beta$ 【Bq/L】	$^3\text{H}$ 【Bq/L】
10月27日	681	<0.97	<0.69	<1.9	650
10月28日	1013	<0.91	<0.69	<1.7	740
10月29日	953	<0.84	<0.78	<0.56	740
10月30日	643	<0.67	<0.81	<1.7	730
10月31日	636	<0.91	<0.65	<2.0	760
11月1日	636	<0.88	<0.62	<1.8	750
11月2日	962	<0.78	<0.61	<1.9	750
11月5日	1022	<0.69	<0.74	<2.1	810
11月6日	693	<0.67	<0.72	<2.1	840
11月7日	472	<0.66	<0.66	<0.68	790
11月8日	1022	<0.53	<0.64	<2.1	680
11月9日	703	<0.58	<0.69	<1.9	660
11月10日	702	<0.91	<0.80	<1.7	610
11月11日	788	<0.93	<0.63	<1.8	550
11月12日	771	<0.92	<0.66	<1.8	470
11月13日	722	<0.84	<0.75	<1.7	530
11月14日	725	<0.58	<0.49	<1.9	530
11月15日	711	<0.56	<0.59	<0.65	530
11月16日	684	<0.67	<0.67	<1.9	560
11月17日	667	<0.80	<0.72	<1.7	560
11月18日	625	<0.98	<0.78	<1.9	560
11月19日	558	<0.58	<0.63	<1.8	620
11月21日	945	<0.61	<0.59	<1.9	720
11月22日	474	<0.84	<0.74	<2.1	710
11月24日	812	<0.58	<0.62	<0.67	830
11月26日	763	<0.82	<0.67	<1.8	880
11月28日	722	<0.88	<0.75	<2.0	780
11月30日	895	<0.67	<0.71	<1.8	720
12月1日	631	<0.58	<0.86	<1.9	650
12月3日	1026	<0.82	<0.74	<0.69	690
12月5日	1013	<0.68	<0.82	<1.7	650
12月6日	597	<0.58	<0.69	<0.59	660
12月8日	815	<0.88	<0.74	<2.0	610
12月10日	845	<0.86	<0.81	<1.8	670
12月12日	1013	<0.80	<0.68	<1.8	690

<参考>サブドレン排水実績

(令和6年度年間)

運用目標値	$^{134}\text{Cs}$	$^{137}\text{Cs}$	全 $\beta$	$^3\text{H}$
	1Bq/L未満	1Bq/L未満	3Bq/L未満※	1500Bq/L未満

※(10日に1回程度の頻度で1Bq/L未満であること)

排水日	排水量【m <sup>3</sup> 】	$^{134}\text{Cs}$ 【Bq/L】	$^{137}\text{Cs}$ 【Bq/L】	全 $\beta$ 【Bq/L】	$^3\text{H}$ 【Bq/L】
12月14日	1007	<0.74	<0.68	<0.70	770
12月16日	965	<0.74	<0.62	<1.9	850
12月20日	795	<0.75	<0.78	<1.9	860
12月20日	872	<0.82	<0.68	<1.6	870
12月21日	428	<0.62	<0.73	<1.8	800
12月23日	876	<0.68	<0.78	<0.63	850
12月25日	739	<0.68	<0.74	<2.0	870
12月27日	697	<0.66	<0.55	<1.9	850
12月29日	676	<0.65	<0.75	<0.70	850
1月1日	638	<0.65	<0.69	<0.67	790
1月2日	602	<0.74	<0.67	<1.9	820
1月4日	409	<0.69	<0.63	<2.0	820
1月6日	534	<0.62	<0.65	<0.57	880
1月8日	499	<0.75	<0.86	<1.9	900
1月10日	653	<1.0	<0.80	<2.0	790
1月12日	740	<0.91	<0.57	<1.8	750
1月14日	523	<0.65	<0.61	<0.57	780
1月16日	513	<0.91	<0.69	<1.9	800
1月18日	401	<0.82	<0.63	<1.8	910
1月21日	547	<0.72	<0.55	<0.70	840
1月24日	583	<0.68	<0.78	<1.8	840
1月26日	375	<0.93	<0.78	<2.1	830
1月29日	446	<0.68	<0.86	<0.68	900
2月1日	343	<0.93	<0.76	<1.8	830
2月4日	173	<0.75	<0.82	<1.7	850
2月6日	401	<0.82	<0.74	<0.63	720
2月8日	683	<0.75	<0.78	<2.0	620
2月12日	830	<0.69	<0.74	<0.73	790
2月14日	854	<0.87	<0.73	<2.0	810
2月17日	709	<0.58	<0.83	<1.8	870
2月19日	644	<0.77	<0.90	<0.68	790
2月22日	646	<0.56	<0.71	<1.9	850
2月24日	429	<0.75	<0.82	<1.7	820
2月26日	392	<0.82	<0.90	<0.58	890
2月28日	387	<0.88	<0.57	<1.8	840

＜参考＞サブドレン排水実績

(令和6年度年間)

運用目標値	$^{134}\text{Cs}$	$^{137}\text{Cs}$	全 $\beta$	$^3\text{H}$
	1Bq/L未満	1Bq/L未満	3Bq/L未満※	1500Bq/L未満

※(10日に1回程度の頻度で1Bq/L未満であること)

排水日	排水量【 $\text{m}^3$ 】	$^{134}\text{Cs}$ 【Bq/L】	$^{137}\text{Cs}$ 【Bq/L】	全 $\beta$ 【Bq/L】	$^3\text{H}$ 【Bq/L】
3月3日	536	<0.75	<0.57	<1.9	810
3月6日	350	<0.82	<0.74	<0.73	820
3月8日	555	<0.75	<0.57	<1.9	820
3月11日	262	<0.82	<0.69	<1.8	820
3月13日	679	<0.82	<0.74	<0.65	720
3月14日	315	<0.68	<0.57	<1.9	690
3月15日	398	<0.82	<0.69	<2.0	610
3月18日	996	<0.88	<0.82	<1.8	580
3月19日	799	<0.82	<0.90	<0.58	570
3月21日	909	<0.68	<0.90	<1.9	660
3月25日	839	<0.84	<0.93	<2.1	720
3月26日	958	<0.75	<0.74	<0.67	730
3月29日	908	<0.67	<0.71	<2.1	790
3月29日	584	<0.92	<0.61	<1.9	790
3月30日	406	<0.98	<0.63	<2.1	840
3月31日	411	<0.58	<0.63	<0.66	810

<参考>ALPS処理水排水実績  
 (放水立坑(上流水槽)上流海水配管)  
 (令和6年度年間)

運用の上限値	$^3\text{H}$ ※
	1500Bq/L未満

※(希釈後の $^3\text{H}$ 濃度)

排水日	排水量【 $\text{m}^3$ 】	海水希釈水量【 $\text{m}^3$ 】	$^3\text{H}$ 【Bq/L】※
4月18日	－	150696	－
4月19日	242	340128	230
4月20日	456	340128	240
4月21日	456	340128	220
4月22日	456	340128	220
4月23日	456	340128	210
4月24日	331	340128	220
4月25日	456	340128	230
4月26日	456	340128	210
4月27日	456	340128	220
4月28日	456	340128	210
4月29日	456	340128	220
4月30日	456	340128	220
5月1日	456	340128	240
5月2日	456	340128	220
5月3日	456	340128	220
5月4日	456	340128	220
5月5日	456	340128	220
5月6日	415	340128	220
5月7日	25	217776	<4.9
5月16日	－	150105	－
5月17日	235	340128	200
5月18日	456	340128	180
5月19日	456	340128	200
5月20日	456	340128	210
5月21日	456	340128	190



＜参考＞ALPS処理水排水実績  
 (放水立坑(上流水槽)上流海水配管)  
 (令和6年度年間)

運用の上限値	<sup>3</sup> H※
	1500Bq/L未満

※(希釈後の<sup>3</sup>H濃度)

排水日	排水量【m <sup>3</sup> 】	海水希釈水量【m <sup>3</sup> 】	<sup>3</sup> H【Bq/L】※
5月22日	456	340128	210
5月23日	456	340128	210
5月24日	456	340128	210
5月25日	456	340128	210
5月26日	456	340128	210
5月27日	456	340128	200
5月28日	456	340128	200
5月29日	456	340128	200
5月30日	456	340128	200
5月31日	456	340128	190
6月1日	456	340128	210
6月2日	456	340128	200
6月3日	337	340128	210
6月4日	25	213407	<8.1
6月27日	－	148570	－
6月28日	232	340128	210
6月29日	456	340128	200
6月30日	456	340128	200
7月1日	456	340128	230
7月2日	456	340128	210
7月3日	456	340128	210
7月4日	456	340128	210
7月5日	456	340128	210
7月6日	456	340128	220
7月7日	456	340128	210
7月8日	456	340128	250

＜参考＞ALPS処理水排水実績  
 (放水立坑(上流水槽)上流海水配管)  
 (令和6年度年間)

運用の上限値	<sup>3</sup> H※
	1500Bq/L未満

※(希釈後の<sup>3</sup>H濃度)

排水日	排水量【m <sup>3</sup> 】	海水希釈水量【m <sup>3</sup> 】	<sup>3</sup> H【Bq/L】※
7月9日	456	340128	230
7月10日	456	340128	210
7月11日	456	340128	210
7月12日	456	340128	200
7月13日	456	340128	230
7月14日	456	340128	230
7月15日	294	340128	230
7月16日	25	216359	<5.5
8月6日	－	145735	－
8月7日	226	340128	220
8月8日	456	340128	230
8月9日	456	340128	220
8月10日	456	340128	230
8月11日	456	340128	240
8月12日	456	340128	240
8月13日	456	340128	240
8月14日	456	340128	220
8月15日	456	340128	230
8月16日	456	340128	230
8月17日	456	340128	230
8月18日	456	340128	220
8月19日	456	340128	230
8月20日	456	340128	240
8月21日	456	340128	230
8月22日	456	340128	240
8月23日	456	340128	230

＜参考＞ALPS処理水排水実績  
 (放水立坑(上流水槽)上流海水配管)  
 (令和6年度年間)

運用の上限値	$^3\text{H}$ ※
	1500Bq/L未満

※(希釈後の $^3\text{H}$ 濃度)

排水日	排水量【 $\text{m}^3$ 】	海水希釈水量【 $\text{m}^3$ 】	$^3\text{H}$ 【Bq/L】※
8月24日	351	340128	230
8月25日	25	231712	<6.0
9月19日	－	195219	－
9月20日	－	340128	－
9月21日	－	340128	－
9月22日	－	340128	－
9月23日	－	340128	－
9月24日	－	340128	－
9月25日	－	340128	－
9月26日	228	340128	340
9月27日	456	340128	340
9月28日	456	340128	340
9月29日	456	340128	330
9月30日	456	340128	370
10月1日	456	340128	310
10月2日	456	340128	320
10月3日	456	340128	350
10月4日	456	340128	330
10月5日	456	340128	340
10月6日	456	340128	350
10月7日	456	340128	310
10月8日	456	340128	340
10月9日	456	340128	330
10月10日	456	340128	330
10月11日	456	340128	340
10月12日	456	340128	340

<参考>ALPS処理水排水実績  
 (放水立坑(上流水槽)上流海水配管)  
 (令和6年度年間)

運用の上限値	$^3\text{H}$ ※
	1500Bq/L未満

※(希釈後の $^3\text{H}$ 濃度)

排水日	排水量【 $\text{m}^3$ 】	海水希釈水量【 $\text{m}^3$ 】	$^3\text{H}$ 【Bq/L】※
10月13日	269	340128	340
10月14日	25	338475	<8.0
10月15日	－	340128	－
10月16日	－	340128	－
10月17日	233	340128	370
10月18日	456	340128	390
10月19日	456	340128	390
10月20日	456	340128	380
10月21日	456	340128	360
10月22日	456	340128	380
10月23日	456	340128	370
10月24日	456	340128	400
10月25日	456	340128	390
10月26日	456	340128	380
10月27日	456	340128	370
10月28日	456	340128	390
10月29日	456	340128	390
10月30日	456	340128	400
10月31日	456	340128	390
11月1日	456	340128	370
11月2日	456	340128	370
11月3日	284	340128	360
11月4日	25	211990	<7.2
3月10日	－	1535	－
3月12日	200	148215	340
3月13日	454	340128	340

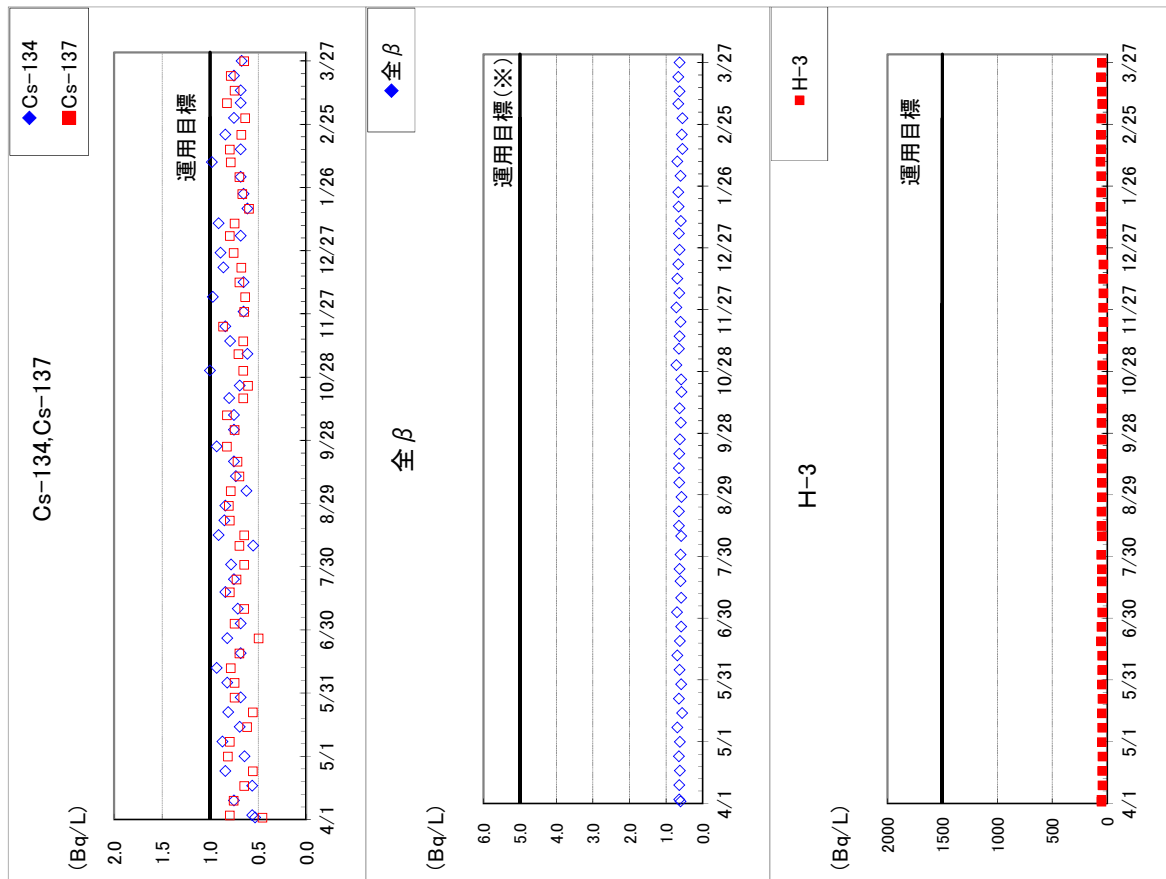
＜参考＞ALPS処理水排水実績  
 (放水立坑(上流水槽)上流海水配管)  
 (令和6年度年間)

運用の上限値	<sup>3</sup> H※
	1500Bq/L未満

※(希釈後の<sup>3</sup>H濃度)

排水日	排水量【m <sup>3</sup> 】	海水希釈水量【m <sup>3</sup> 】	<sup>3</sup> H【Bq/L】※
3月14日	454	340128	350
3月15日	454	340128	300
3月16日	454	340128	360
3月17日	454	340128	350
3月18日	454	340128	360
3月19日	454	340128	350
3月20日	454	340128	330
3月21日	454	340128	360
3月22日	454	340128	360
3月23日	454	340128	330
3月24日	454	340128	350
3月25日	454	340128	340
3月26日	454	340128	330
3月27日	454	340128	350
3月28日	454	340128	370
3月29日	372	340128	330
3月30日	25	288046	<7.7
3月31日	－	170064	－

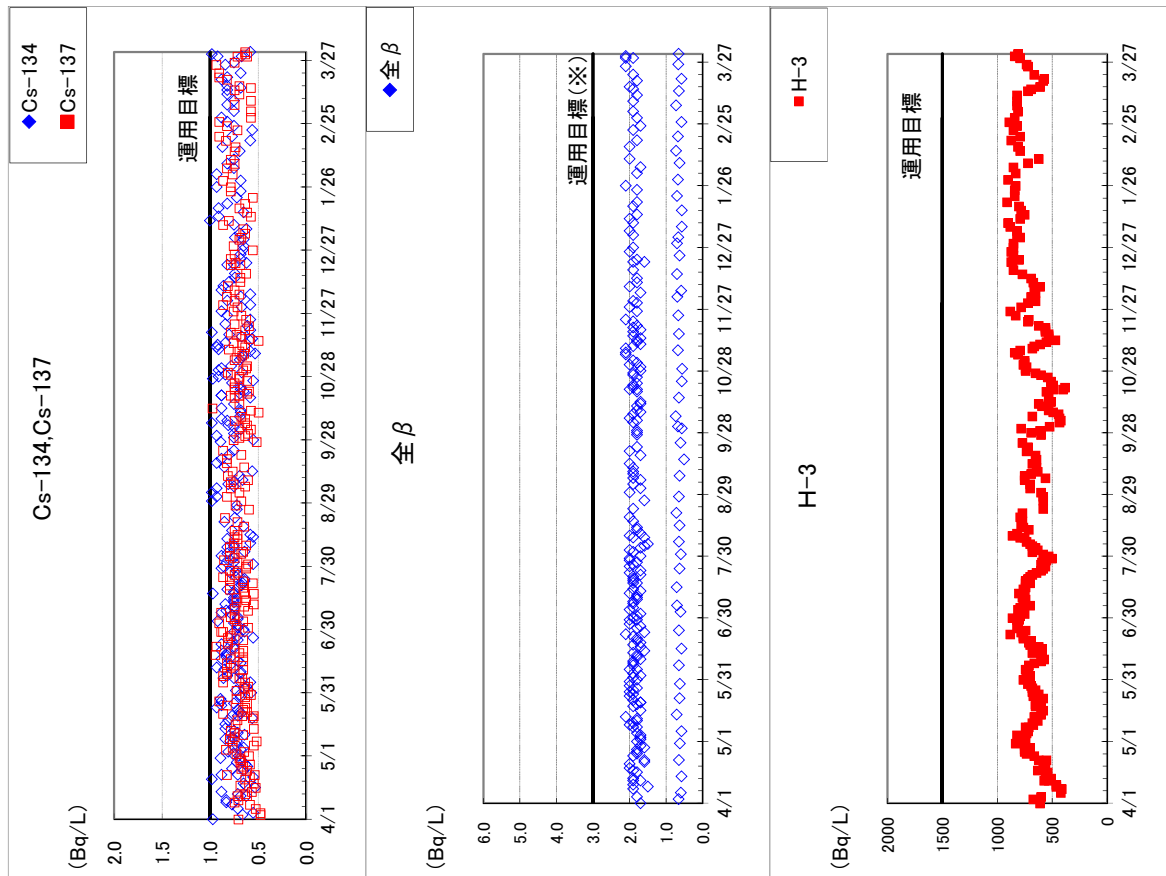
地下水バイパス排水実績（令和6年度年間）



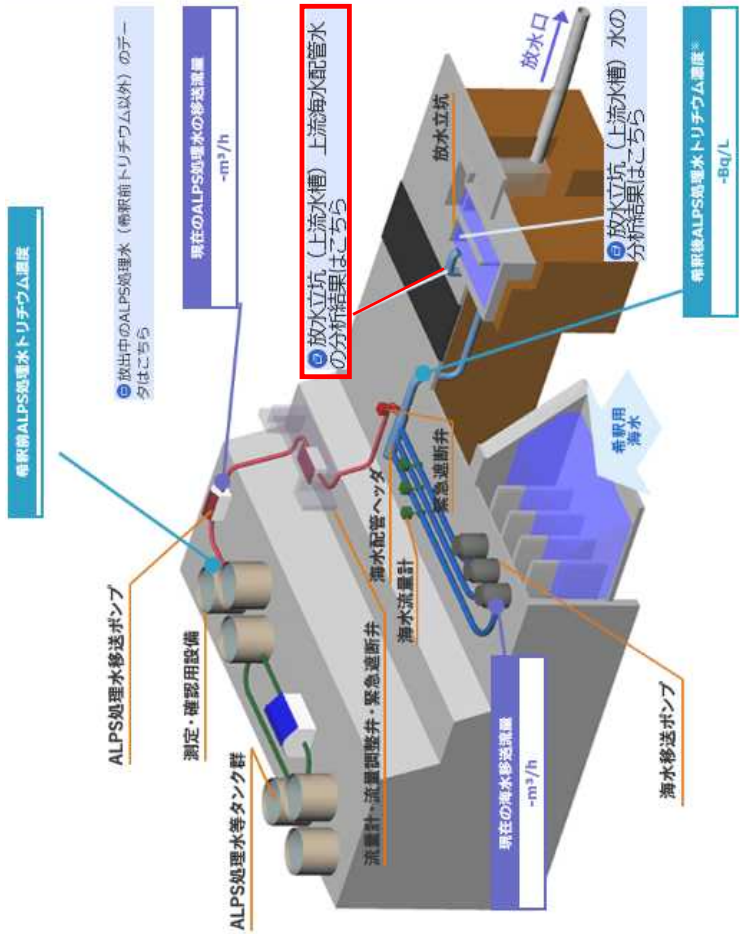
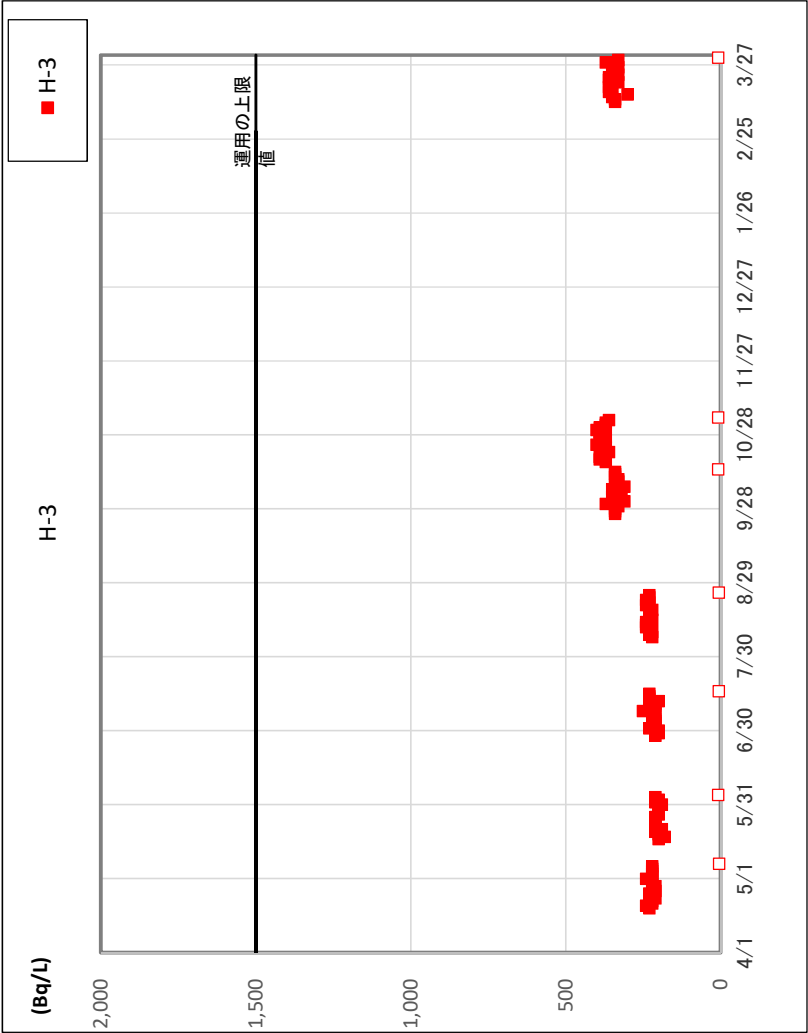
\*: 白抜きのプロットは検出下限値未満であるため、検出下限値をプロットしている。

※: 10日に1回程度の分析では、検出限界値を1Bq/Lに下げて実施

サブドレン排水実績（令和6年度年間）



ALPS処理水排水実績(令和6年度年間)  
(放水立坑(上流水槽)上流海水配管水)



## モニタリングポスト周辺環境改善対策について(結果報告)

### 2. 実績

事故で環境中に放出され敷地内に沈積した放射性物質の影響により、空間放射線量率が上昇(事故前の 100 ～10,000 倍)しており、モニタリングポストの指示値が高い状態となっている。このため、放射性物質の異常な放出があった場合、線量率の上昇や自然界からの影響の程度によっては監視が困難な状況にある。  
したがって、早期にプラントからの異常放出を検知できることを目的に、モニタリングポスト(以下「MP」という。)周辺の環境改善対策を実施した。(工期:平成 24 年2月 10 日～4月 18 日)

#### 1. 対策内容

MP の設置場所はその周辺環境が異なるため、環境改善対策は各 MP に応じて作業を実施。



- ・MP-3～7は周囲を森林に囲まれており、森林からの影響が大きい
- ・MP-2、8は地表からの影響が大きい(MP-8は近傍の展望台斜面の影響が大きい)

#### 《計画》

改善目標として、各 MP の指示値が  $10 \mu\text{Sv/h}$ ※以下となるように対策を実施。

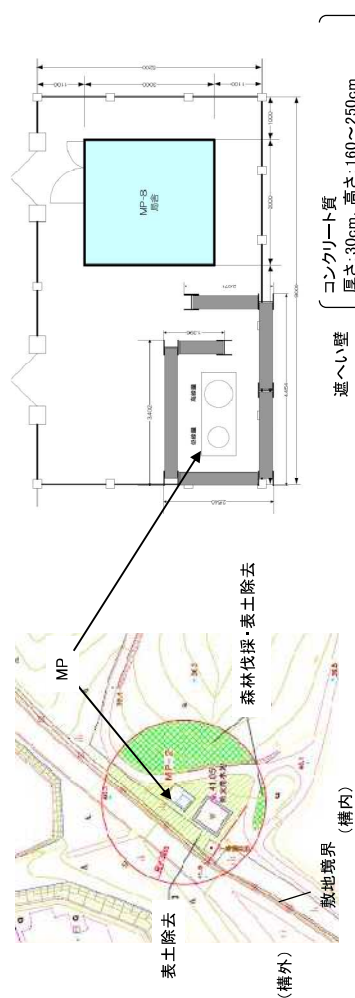
比較線量が高い MP-2 については、検出器から半径 30m 以内にある森林を伐採し表土を除去する。比較線量が低い MP-3～5 については、検出器から半径 20m 以内にある森林を伐採し、柵内の表土を除去する。MP-6～7 については、表土除去及び森林伐採が広範囲となる恐れがあるため、検出器から半径 20m 以内にある森林を伐採し、柵内の表土を除去するとともに、検出器周囲に遮へい壁を設置する。MP-8 については、周囲に森林等が少なくため伐採は行わず、柵内の表土を除去するとともに、検出器周囲に遮へい壁を設置する。MP-1 については指示値が  $4 \mu\text{Sv/h}$  であるため、対策は不要とした。

〔 ※通常時のモニタリングポストの指示値は、降雨時に土壌からの放射線が雨により遮へいされる影響で 10% 程度の変動がある。  $10 \mu\text{Sv/h}$  であれば、  $1 \mu\text{Sv/h}$  程度の変動幅を超えて異常放出を検出することが可能。 〕

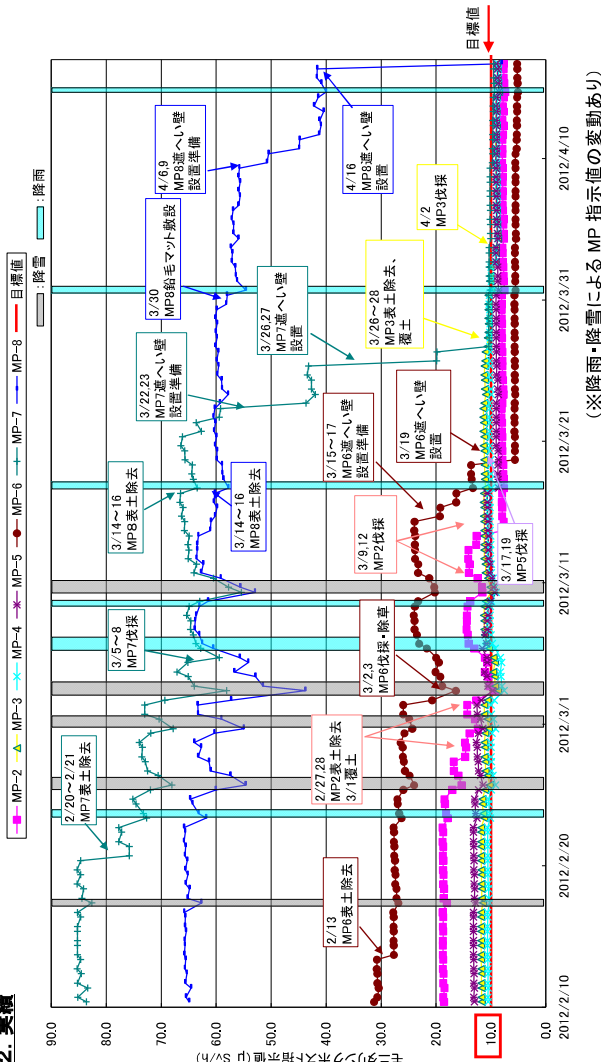
#### 《対策例》

森林伐採、表土除去の例(MP-2)

遮へい壁設置の例(MP-8)



なお、MP-7については、モニタリングポスト間の地上付近を通過するブルーームの検出性を高めるため、隣接するモニタリングポスト(MP-6、MP-8)側の遮へい壁をできる限り低くすることした。



MP	MP 指示値「単位: $\mu\text{Sv/h}$ 」		対策実績
	対策前(2/10)	対策後(達成日)	
MP-2	18.5	7.9 (3/14)	・森林伐採面積: 約 $690\text{m}^2$ (半径 30m 以内) ・表土除去面積: 約 $1450\text{m}^2$ (半径 30m 以内)
MP-3	11.7	9.1 (4/2)	・森林伐採面積: 約 $580\text{m}^2$ (半径 20m 以内) ・表土除去面積: 約 $35\text{m}^2$ (フェンス内)
MP-4	10.5	8.9 (4/2)	・表土除去面積: 約 $27\text{m}^2$ (フェンス内)
MP-5	13.0	9.0 (3/19)	・森林伐採面積: 約 $1020\text{m}^2$ (半径 20m 以内) ・表土除去面積: 約 $36\text{m}^2$ (フェンス内)
MP-6	31.3	5.7 (3/19)	・森林伐採面積: 約 $700\text{m}^2$ (半径 20m 以内) ・表土除去面積: 約 $14\text{m}^2$ (フェンス内) ・遮へい壁を設置: 四方向とも 160cm
MP-7	83.6	9.7 (4/9)	・森林伐採面積: 約 $1160\text{m}^2$ (半径 20m 以内) ・表土除去面積: 約 $15\text{m}^2$ (フェンス内) ・遮へい壁を設置: 南北方向 250cm、東西方向 160cm
MP-8	64.9	8.0 (4/16)	・表土除去面積: 約 $14\text{m}^2$ (フェンス内) ・遮へい壁を設置: 四方向とも 220cm

目標準値 ( $10 \mu\text{Sv/h}$ ) を達成したため、現状では原子炉施設に起因する  $1 \mu\text{Sv/h}$  を超える放射線の影響を適切に把握できるものと考える。

### 3. 今後の予定

今後、各対策における効果を評価し、次の段階の低減目標及びそのためのの方策を検討していく。